

看護学科

<看護学科科目>

区分		科 目 名	頁
専門基礎分野	身体のしくみ	人体形態学	1
		人体機能学	2
		生化学	3
		栄養学	4
		病理学	5
		臨床治療学Ⅰ	6
		臨床治療学Ⅱ	7
		臨床治療学Ⅲ	8
		感染微生物学	9
		薬理学	10
		臨床薬理学	11
	人間と健康	生涯発達論	12
		家族社会学	13
		人間工学	14
		カウンセリング・コミュニケーション論	15
	人間の健康と社会生活	保健医療福祉連携論	16
		社会福祉概論	17
		地域との協働Ⅰ	18
		地域との協働Ⅱ	19
		地域との協働Ⅲ	20
		公衆衛生学	21
		人間関係論	22
		疫学	23
		保健医療福祉行政論Ⅰ ※	24
		保健医療福祉行政論Ⅱ ※	25
		福祉環境論	26
		人権と法	27
		ソーシャルインクルージョン論	28
		医療福祉論	29
専門分野	基礎看護学	看護学概論	30
		看護技術論	31
		看護共通技術Ⅰ	31
		看護共通技術Ⅱ	33
		基礎看護技術Ⅰ	34
		基礎看護技術Ⅱ	35
		基礎看護技術Ⅲ	36
		基礎看護技術Ⅳ	37
		ヘルスアセスメント	38
		看護過程演習	39

＜看護学科科目＞

区分		科 目 名	頁
専門分野	地域看護学	地域看護学概論	40
		地域看護活動論Ⅰ	41
		地域看護活動論Ⅱ	42
		在宅看護活動論Ⅰ	43
		在宅看護活動論Ⅱ	44
	成人看護学	成人看護学概論	45
		成人看護活動論Ⅰ〔急性期〕	46
		成人看護活動論Ⅱ〔慢性期〕	47
	老年看護学	老年看護学概論	48
		老年看護活動論Ⅰ	49
		老年看護活動論Ⅱ	50
	小児看護学	小児看護学概論	51
		小児看護活動論Ⅰ	52
		小児看護活動論Ⅱ	53
	母性看護学	母性看護学概論	54
		母性看護活動論Ⅰ	55
		母性看護活動論Ⅱ	56
	精神看護学	精神看護学概論	57
		精神看護活動論Ⅰ	58
		精神看護活動論Ⅱ	59
	臨地実習	基礎看護学実習Ⅰ	60
		基礎看護学実習Ⅱ	61
		地域看護学実習	62
		成人看護学実習Ⅰ〔急性期〕	63
		成人看護学実習Ⅱ〔慢性期〕	64
		老年看護学実習	65
		小児看護学実習	66
		母性看護学実習	67
		精神看護学実習	68
		統合実習	69
	統合科目	看護倫理	70
		看護マネジメント論	71
		看護教育学	72
		災害看護学・国際看護学	73
		看護情報学	74
		看護統合演習	75
		看護研究の基礎	76
		卒業研究	77

<看護学科科目> 保健師課程

区別		科 目 名	頁
専門分野	統合科目	公衆衛生看護学概論	78
		創成看護学活動論Ⅰ※	79
		創成看護学活動論Ⅱ	80
		公衆衛生看護技術論	81
		公衆衛生看護技術論演習	82
		公衆衛生看護活動論Ⅰ	83
		公衆衛生看護活動論Ⅱ	84
		公衆衛生看護活動論Ⅲ	85
		公衆衛生看護活動論Ⅳ	86
		公衆衛生看護管理論	87
		公衆衛生看護学実習Ⅰ	88
		公衆衛生看護学実習Ⅱ	89

科 目 名	人体形態学				
担 当 教 員 名	山本 達朗				
学 年 配 当	1 年	単 位 数	2 単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	通年	必修選択	必修	資 格 要 件	
実務経験及び授業内容					
学 習 到 達 目 標	<p>学生は、人体形態学において人体の肉眼解剖レベル（マクロレベル）の基本的構造を学習し、医学的知識を習得する上での基礎を身につけることができる。学生は人体形態学において、人体を構成する各パーツの構造や位置を理解するだけでなく、各パーツの発生（人体の発生）や、それらを有機的に統合する神経系（特に中枢神経系）についても理解を深め、人体に関する形態学的基礎を臨床領域に活かすことができる。</p>				
授 業 の 概 要	<p>学生は、人体形態学を人体の構造の理解を目的として系統解剖学的に学び、各構造の複雑さ、それらの連携について学ぶ。学生は、本科目について、講義だけではなく、模型の観察や標本観察などを通じて能動的に学ぶ。また学生は、これらの内容が人体機能学と密接に関係していることを意識しながら学ぶ。</p>				
授 業 の 計 画	<p>1 解剖学総論</p> <p>2-3 人体の構成について（1）（細胞学・組織学）</p> <p>4 人体の器官系について</p> <p>5-8 消化器系</p> <p>9-11 呼吸器系</p> <p>12-15 循環器系</p> <p>16-17 泌尿器系</p> <p>18-19 内分泌系</p> <p>20-22 運動器系</p> <p>23-25 神経系</p> <p>26-27 感覚器系</p> <p>28-29 生殖器系</p> <p>30 人体形態学まとめ</p>				
授 業 の 留 意 点	<p>人体形態学においては、各論的内容に関して詳細に講義するだけの時間がないため、主に総論的な内容に絞って講義を展開する。教科書や講義プリントなどを参考にして、各論的内容を含めた知識の習得に努力していただきたい。</p>				
学 生 に 対 す る 評 価	<p>定期試験（100 点）で評価する。</p>				
教 科 書 （購入必須）	<p>系統看護学講座 専門基礎分野 解剖生理学 人体の構造と機能①（坂井建雄、岡田隆夫著：医学書院）</p>				
参 考 書 （購入任意）					

科 目 名	人体機能学				
担 当 教 員 名	山本 達朗				
学 年 配 当	1 年	単 位 数	2 単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	通年	必修選択	必修	資 格 要 件	
実務経験及び授業内容					
学習到達目標	学生は、人体機能学において恒常性を中心としたヒトが生きていくための人体で行われている生理学的事象について学ぶ。学生は、人体形態学で得られた知識を人体機能学に応用し、それらの知識を看護の臨床科目に活かすことができる。				
授業の概要	学生は、人体機能学において各器官系の機能とその働きの調節の仕組みを学ぶ。また学生は、講義だけではなく模型や画像教材を利用して能動的に学修し、生命を維持するために体内の器官が連携していることを学ぶ。				
授業の計画	1 生理学総論 2-4 体液：細胞内液と細胞外液、組織液の役割、血液 5-8 消化・吸収：消化管の運動、消化液、消化液の分泌調節、吸収、肝臓 9-11 呼吸：呼吸のプロセス、呼吸の調節 12-15 循環：心臓、血管、血液の循環、特殊循環、リンパ循環 16-17 腎臓：尿産生の仕組み、浸透圧と pH の調節、排尿 18-19 内分泌：ホルモンの定義、作用機序、分泌調節機構、神経内分泌、脳下垂体、甲状腺、上皮小体、副腎、睪臓、性腺 20-22 筋肉の活動 23-25 神経：運動機能、内臓機能、高次活動、意識と睡眠 26-27 感覚：体性感覚、内臓感覚、視覚、聴覚、平衡感覚、味覚、嗅覚 28-29 生殖：性周期、ホルモン、受精 30 人体機能学まとめ				
授業の留意点	人体機能学は専門科目を学ぶ上でのベースを学ぶものである。一度の講義で内容を全て理解することは難しいため予習復習により確認する事が大事である。				
学生に対する評価	前期と後期に定期試験（100 点）を行い判定する。判定は、前期と後期の試験結果を平均し、履修規定の基準に従って行う。				
教科書（購入必須）	系統解剖学講座 専門基礎分野 解剖生理学 人体の構造と機能①（坂井建雄、岡田隆夫著；医学書院）				
参考書（購入任意）					

科 目 名	生化学				
担 当 教 員 名	田邊 宏基				
学 年 配 当	1 年	単 位 数	2 単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	前期	必修選択	必修	資 格 要 件	
実務経験及び授業内容					
学習到達目標	<p>学生が、身体を構成している物質の構造と体内で行われている主要な代謝を分子レベルで理解する。</p> <p>これにより、学生は身体がどのような分子によって作られているのかを常に意識し、これらの変換を司る酵素、遺伝子および細胞内小器官の動きをイメージ出来るようになる。</p>				
授 業 の 概 要	<p>学習到達目標を達成するために、学生は、糖質、脂質、たんぱく質、核酸の構造、特性、代謝について詳細に解説を受ける。また、これらの代謝の際に、学生は、ビタミンやミネラルが果たす役割についても解説を受ける。</p>				
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 生化学の概要 2 細胞および細胞内小器官 3 たんぱく質の構造と機能 4 酵素と代謝 5 高エネルギーリン酸化合物の生体での利用 6 糖質の代謝（解糖系、TCA 回路、電子伝達系） 7 糖質の代謝（糖新生、ペントースリン酸経路） 8 脂質の代謝（β酸化、脂肪酸合成、ケトン体代謝） 9 脂質の代謝（コレステロール代謝、リン脂質代謝、体内輸送） 10 たんぱく質・アミノ酸の代謝（アミノ基転移、脱アミノ反応） 11 たんぱく質・アミノ酸の代謝（尿素サイクル） 12 遺伝情報とたんぱく質合成（プリンおよびピリミジンの合成と分解） 13 遺伝情報とたんぱく質合成（転写および翻訳） 14 代謝におけるビタミンとミネラルの役割 15 疾患の生化学的な理解 				
授 業 の 留 意 点	<p>予め配布されているプリントの該当箇所に目を通し予習しておく。講義後に該当箇所との関連を考えながら化学、生物学の復習をしっかりと行う。疑問を残しては次の知識が積み上がらないため、疑問点はその場での質問もしくは講義後の質問でもよいので毎回解消する。</p>				
学 生 に 対 す る 評 価	<p>試験(100 点)により評価する。必要によりレポートの提出を求めることがある。</p>				
教 科 書 (購入必須)	<p>「わかりやすい生化学第5版 疾病と代謝・栄養の理解のために」ヌーヴェルヒロカワ 2017 年</p>				
参 考 書 (購入任意)					

科 目 名	栄養学				
担 当 教 員 名	担当者未定				
学 年 配 当	1 年	単 位 数	1 単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	後期	必修選択	必修	資 格 要 件	
実務経験及び授業内容					
学 習 到 達 目 標	1. 健康と栄養との関連性について理解できる。 2. 栄養と疾病の発生・治療・予防との関わりについて説明できる。 3. 疾病の概要、栄養食事療法の要点について説明できる。 4. チーム医療における栄養管理の重要性を理解し栄養サポートチームの役割について説明できる。				
授 業 の 概 要	1. 人間にとっての栄養の意義、栄養と健康の関わりについて学ぶ。 2. 栄養素の種類と働き、食物の消化と栄養素の吸収・代謝について学ぶ。 3. ライフステージ別の特徴と栄養について学ぶ。 4. 栄養状態の評価・判定方法を学ぶ。 5. 種々の疾病の要因、病態、診断、治療・予防、栄養食事療法について学ぶ。 6. チーム医療と栄養管理について学ぶ。				
授 業 の 計 画	1 健康と栄養 2 栄養と栄養素① エネルギー産生栄養素（炭水化物・脂質・タンパク質） 3 栄養と栄養素②（ビタミン、ミネラル、水、食物繊維） 4 ライフステージと栄養① 妊娠期・乳児・幼児期 5 ライフステージと栄養② 高齢期 6 疾患と栄養食事療法① 内分泌疾患 主に糖尿病 7 疾患と栄養食事療法② 循環器疾患（高血圧症 脂質異常症 心臓病） 8 疾患と栄養食事療法③ 消化器疾患 9 疾患と栄養食事療法④ 肝臓病・膵臓病 10 疾患と栄養食事療法⑤ 腎疾患 11 健康施策と栄養 メタボリックシンドロームと特定検診・保健指導 12 医療保険制度と栄養管理の実際 13 栄養ケアマネジメント① 栄養アセスメント・栄養ケアプラン 14 栄養ケアマネジメント② 栄養補給法 15 栄養ケアマネジメント③ チーム医療と栄養サポートチーム				
授 業 の 留 意 点	【準備学習：予習・復習の内容、分量】 ・1回の授業あたり1～2時間程度の予習・復習を要する。 ・予習：教科書の該当ページを読んでおく。 ・復習：教科書の該当ページおよび授業時の配付資料を読み返す。				
学 生 に 対 す る 評 価	小テスト 20% レポート 10% 授業参加態度 10% 定期試験 60% により総合的に評価する。				
教 科 書 (購入必須)	健康と医療福祉のための栄養学-身体のしくみと栄養素の働きを理解する一 医歯薬出版 ISBN978-4-263-70737-1				
参 考 書 (購入任意)					

科 目 名	病理学				
担 当 教 員 名	和泉 裕一				
学 年 配 当	2 年	単 位 数	2 単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	通年	必修選択	必修	資 格 要 件	
実務経験及び 授 業 内 容					
学 習 到 達 目 標	病気の原因、発生機序、発症・進展の過程や患者に対する影響について理解し、臨床の現場でその知識を応用して、科学的根拠に基づく看護ができる。				
授 業 の 概 要	<p>いろいろな疾病は、細胞障害、感染症・炎症・免疫、循環障害、遺伝子異常、腫瘍、代謝異常、環境因子の複合的な関与、蓄積により引き起こされる。総論では、疾病の成り立ちを臓器の違いを超えて解説する。</p> <p>各論では、臓器別に各種疾病の病因・症状・治療について臓器特異性の視点から解説する。</p>				
授 業 の 計 画	<p>1 総論 1：病理学とは何か、組織・細胞の障害と修復</p> <p>2 総論 2：循環障害</p> <p>3 総論 3：炎症と免疫、移植と再生医療</p> <p>4 総論 4：感染症</p> <p>5 総論 5：代謝障害</p> <p>6 総論 6：先天異常と遺伝子異常、老化と死</p> <p>7 総論 7：腫瘍</p> <p>8 各論 1：循環器疾患（先天性、心不全、虚血性、心筋症、心内膜と血管の疾患）</p> <p>9 各論 2：血液・造血器系の疾患</p> <p>10 各論 3：呼吸器系疾患（鼻腔、咽頭、喉頭、気管、気管支、肺、胸膜と縦隔の疾患）</p> <p>11 各論 4：消化器系疾患（口腔・食道、胃、腸、腹膜、肝臓、胆管、胆のう、膵臓の疾患）</p> <p>12 各論 5：腎、泌尿器、生殖器および乳腺の疾患</p> <p>13 各論 6：内分泌系の疾患</p> <p>14 各論 7：脳、神経系の疾患</p> <p>15 各論 8：骨、関節、筋肉系の疾患、眼・耳・皮膚の疾患</p>				
授 業 の 留 意 点	<p>講義を受ける前に各臓器の解剖・生理を復習しておく。</p> <p>講義の要点を講義資料で把握し、教科書で補足する。</p>				
学 生 に 対 す る 評 価	試験（90 点）と授業態度を評価（10 点）				
教 科 書 （購入必須）					
参 考 書 （購入任意）	<p>病理学「疾病のなりたちと回復の促進 1」医学書院</p> <p>（スライドを用いて授業をします。自身の学習のために必要であれば、購入してください。）</p>				

科 目 名	臨床治療学Ⅰ				
担 当 教 員 名	長谷部 佳子・南山 祥子・中谷 美紀子・鈴木 捷允				
学 年 配 当	2 年	単 位 数	2 単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	前期	必修選択	必修	資 格 要 件	
実務経験及び授業内容	看護師としての経験を有する教員が、病院など医療の現場で求められる病態生理・検査・治療などの医学的専門知識に関して、看護師の視点も踏まえながら教授する科目				
学習到達目標	本講義では、器官系統別[消化器系、呼吸器系、循環器系、腎・泌尿器系、血液・造血器系、脳神経系、骨関節筋肉系、免疫系、内分泌・代謝系]の高頻度に見られる疾患について、その原因・病態・診断のための検査・治療について理解し、ケアにつなげるための基礎的知識を学ぶことを目標とする。				
授業の概要	健康障害をもつ患者を看護するためには、健康障害についてアセスメントを行うことが必要である。すなわち、健康障害を引き起こしている疾患を理解し、その疾患が患者の身体的、精神的、社会的側面にどのような影響を与えているかを分析・判断することが看護職には求められている。ここでは器官系統別[消化器系、呼吸器系、循環器系、腎・泌尿器系、血液・造血器系、脳神経系、骨関節筋肉系、免疫系、内分泌・代謝系]の疾患についてその原因・病態・診断のための検査・治療について学ぶ。治療は、内科的治療法と外科的治療法について学ぶ。				
授業の計画	1-6 消化器疾患（主に食道がん、胃がん、大腸がん、イレウス、クローン病、胃・十二指腸潰瘍、膵炎、肝炎、食道静脈瘤、肝がん、肝硬変）の原因・病態・診断のための検査・治療 7-10 呼吸器疾患（主に肺がん、気管支喘息、慢性閉塞性肺疾患、呼吸不全）の原因・病態・診断のための検査・治療 11-14 循環器疾患（主に虚血性心疾患、心不全、大血管疾患、末梢血管疾患）の原因・病態・診断のための検査・治療 15-17 腎・泌尿器疾患（主に腎不全、腎腫瘍、膀胱がん、前立腺がん、前立腺肥大症）の原因・病態・診断のための検査・治療 18 血液・造血器疾患（主に白血病、悪性リンパ腫、再生不良性貧血）の原因・病態・診断のための検査・治療 19-22 脳神経疾患（主に脳血管障害、頭部外傷、脳腫瘍、神経難病）の原因・病態・診断のための検査・治療 23-26 骨関節筋肉疾患（主に骨折、椎間板ヘルニア、脊髄損傷、変形性関節症）の原因・病態・診断のための検査・治療 27-28 内分泌・代謝疾患（主に糖尿病、高脂血症、高尿酸血症）の原因・病態・診断のための検査・治療 29-30 免疫疾患（主に関節リウマチ、全身性エリテマトーデス、強皮症、AIDS）の原因・病態・診断のための検査・治療				
授業の留意点	すでに履修済みの人体形態学、人体機能学を復習しておくことが望ましい。				
学生に対する評価	<試験の採点と再試験について> 1) 循環器疾患、呼吸器疾患、消化器疾患、脳神経疾患、骨関節筋肉疾患、腎・泌尿器疾患、内分泌・代謝疾患、血液・造血器疾患、免疫疾患の9つの領域を3つのグループ分けて3回の試験を行う。各グループは100点満点とし、1つのグループで60点未満の場合はそのグループの領域分が再試となる。 再試験となった場合は、再試験の点数が60点以上でも「60点」として計算される。 小テストの点数は、領域①では循環器10点、呼吸器10点、領域③では消化器15点満点で換算する。 2) 「臨床治療学Ⅰ」の成績評価は、300点満点で判定（3つの試験の合計点）。最終成績評価は、100点に換算する。 例：270～300点⇒秀、240～269点⇒優、210～239点⇒良、180～209点⇒可、180点未満⇒不可 1つのグループでも再試験となった場合は、合格しても最終評価は「可」となる。				
教科書（購入必須）	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 [2] 呼吸器、医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 [3] 循環器、医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 [4] 血液・造血器、医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 [5] 消化器、医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 [6] 内分泌・代謝、医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 [7] 脳神経、医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 [8] 腎・泌尿器、医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 [10] 運動器、医学書				
参考書（購入任意）					

科 目 名	臨床治療学Ⅱ				
担 当 教 員 名	市立病院等医師				
学 年 配 当	2 年	単 位 数	1 単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	後期	必修選択	必修	資 格 要 件	
実務経験及び授業内容	臨床において当該疾患の診断・治療に従事する専門医等が講義を行う。				
学習到達目標	本講義は、成人期に高頻度に見られる疾患の原因・病態・診断・治療についての基礎的知識を学ぶことを目標とする。				
授 業 の 概 要	健康障害のある患者を看護するためには、健康障害についてアセスメントを行う必要がある。すなわち、健康障害を引き起こしている疾患を理解し、その疾患が患者の身体的、精神的、社会的側面にどのような影響を与えているかを分析・判断することが看護職に求められている。ここでは、感覚器系・女性生殖器系・歯科口腔系で高頻度に見られる疾患についてその原因・病態・診断・治療について学ぶ。				
授 業 の 計 画	1-2 主な皮膚疾患の原因・病態・診断・治療 3-4 主な眼疾患の原因・病態・診断・治療 5-6 主な歯・口腔疾患の原因・病態・診断・治療 7-8 主な耳鼻咽喉疾患の原因・病態・診断・治療 9-15 主な女性生殖器系疾患の原因・病態・診断・治療				
授 業 の 留 意 点	人体形態学、人体機能学、病理学を復習しておくこと。				
学 生 に 対 す る 評 価	①歯科疾患について、試験もしくはレポート課題（20 点） ②皮膚疾患について、試験もしくはレポート課題（20 点） ③眼疾患について、試験もしくはレポート課題（20 点） ④耳鼻咽喉科疾患について、試験もしくはレポート課題（20 点） ⑤女性生殖器系疾患について、試験もしくはレポート課題（70 点） 合計 150 点満点で評価する。 各領域で 6 割未満の場合はその領域分が再試となる。				
教 科 書 （購入必須）	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学〔9〕女性生殖器、医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学〔12〕皮膚、医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学〔13〕眼、医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学〔14〕耳鼻咽喉、医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学〔15〕歯・口腔、医学書院				
参 考 書 （購入任意）					

科 目 名	臨床治療学Ⅲ				
担 当 教 員 名	市立病院等医師				
学 年 配 当	2 年	単 位 数	1 単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	後期	必修選択	必修	資 格 要 件	
実務経験及び授業内容	臨床において当該疾患等の診断・治療に従事する専門医等が講義を行う。				
学習到達目標	本講義は、母性および小児看護に必要な医学の基礎知識を学ぶことを目的とする。周産期ではハイリスクおよび異常と治療、小児では小児に特有な疾病の症状・治療・予後を中心に学修する。				
授 業 の 概 要	母性および小児の健康状態をアセスメントするためには、対象の解剖学的・生理学的特徴に関する知識の活用が不可欠である。また、母性および小児看護においてはウェルネスからハイリスク・健康障害の各ステージに応じた看護が要求される。そのため、妊娠・分娩・産褥の生殖生理、周産期母子の病態とハイリスク、周産期および小児期に高頻度に見られる疾病の原因・病態・診断・治療・予後などに関する基礎的知識を学ぶ。				
授 業 の 計 画	1 妊娠・分娩・産褥期の生殖生理（１）妊娠の成立、胎児、胎児付属物 2 妊娠・分娩・産褥期の生殖生理（２）妊娠による母体・胎児の変化 3 妊娠期の病態と異常（１）ハイリスク妊娠と妊娠合併症 4 妊娠期の病態と異常（２）異常妊娠 5 分娩期の病態と異常（１）産道・娩出力・胎児・胎児付属物の異常、新生児仮死 6 分娩期の病態と異常（２）分娩時の損傷、異常出血、産科処置と産科手術 7 産褥期の病態と異常（子宮復古不全、産褥熱、乳腺炎、産褥血栓症、マタニティブルー） 8 新生児とその疾患、小児の神経・筋疾患 9 染色体異常・先天異常 10 小児の感染症 11 小児のアレルギー疾患 12 小児の循環器疾患、川崎病 13 小児の呼吸器・消化器疾患、血液疾患 14 小児の免疫疾患、膠原病 15 小児の内分泌・代謝疾患、腎疾患				
授 業 の 留 意 点	人体形態学、人体機能学、病理学を復習しておくこと。				
学 生 に 対 す る 価 値	①妊娠・分娩・産褥期について、試験もしくはレポート課題（100 点） ②小児期について、試験もしくはレポート課題（100 点） 合計 200 点満点で評価する。 教員領域ごとの試験で 60 点未満の場合はその領域分が再試となる。				
教 科 書 （購入必須）	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学〔２〕母性看護学各論、医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学〔２〕小児臨床看護各論、医学書院				
参 考 書 （購入任意）					

科 目 名	感染微生物学				
担 当 教 員 名	塚原 高広				
学 年 配 当	2 年	単 位 数	1 単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	前期	必修選択	必修	資 格 要 件	
実務経験及び授業内容	大学病院（2年）、地域の基幹病院（3年）、クリニック・在宅医療（1年）の実務経験（臨床医）がある。				
学習到達目標	<p>感染とは何か、感染成立の3要素、検査、化学療法について説明できる。</p> <p>感染制御、感染対策について説明できる。</p> <p>主要な感染症について、原因となる病原体、感染経路、感染臓器、臨床経過、予防・治療法を説明できる。</p>				
授業の概要	微生物学・感染症学の総論を学ぶことを重視し、将来どのような保健・福祉分野に進むにせよ必要な知識を習得する。各論では、臓器・器官別の感染症を理解することを中心とし、あわせて重要な病原体の性質について学ぶ。				
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 微生物総論 2 細菌総論 3 ウイルス総論 4 真菌・寄生虫総論 5 免疫とアレルギー 6 感染症総論 7 全身性ウイルス感染症・発熱性感染症 8 呼吸器感染症 9 消化器感染症・食中毒 10 血液媒介感染症・ウイルス性肝炎 11 尿路感染症・神経系感染症 12 皮膚・眼感染症 13 性感染症・高齢者の感染症・日和見感染症 14 その他の感染症 15 感染制御 				
授業の留意点	<p>予習では、教科書の該当部分を読んでおくこと。</p> <p>復習では、配布資料や自分がとったノートを参考にして教科書を再読して知識を確認すること。理解できない事項がある場合は、講義後やムードルで担当教員に質問すること。</p>				
学生に対する評価	<p>定期試験（100点）により評価する。</p> <p>定期試験の成績が不良の場合には、課題の提出状況と内容を最終評価に加える場合がある。</p>				
教科書（購入必須）	中野隆史編『看護学テキスト 微生物学・感染症学』南江堂（2020年）				
参考書（購入任意）	神谷茂監修『標準微生物学 第14版』医学書院				

科 目 名	薬理学				
担 当 教 員 名	長多 好恵・山端 孝司				
学 年 配 当	2 年	単 位 数	1 単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	前期	必修選択	必修	資 格 要 件	
実務経験及び授業内容	臨床において調剤、医薬品の供給その他薬事衛生に従事する薬剤師が薬の作用機序、薬物動態等薬物療法の基礎となるメカニズムを教授する科目				
学習到達目標	薬物治療の基礎となるメカニズムを理解する。				
授 業 の 概 要	総論では、薬の作用機序と生体内情報伝達、薬物動態、薬効に影響を与える各種の要因、薬の作用・副作用が現れる原理、アドヒアランスなどについて解説する。また、医薬品添付文書の読み方を習得するとともに関連する法律の概要を解説する。各論では実際の臨床治療で使われている各種薬物（自律神経作用薬、筋弛緩薬、麻酔薬、麻薬、向精神薬、抗てんかん薬、抗不安薬、抗うつ薬、パーキンソン症候群治療薬、解熱鎮痛薬、副腎皮質ステロイド、抗高血圧薬、狭心症治療薬、強心薬、抗不整脈薬、利尿薬、高脂血症治療薬、貧血治療薬、喘息治療薬、糖尿病治療薬、抗感染症薬、消毒薬、抗がん薬など）の作用および作用メカニズムと副作用について解説する。				
授 業 の 計 画	1 総論： アドヒアランス、医薬品医療機器等法、医薬品添付文書の読み方 2 総論： 薬の作用機序、薬物動態 3 各論： 末梢神経活動作用薬Ⅰ 4 各論： 末梢神経活動作用薬Ⅱ 5 各論： 中枢神経活動作用薬Ⅰ 6 各論： 中枢神経活動作用薬Ⅱ、免疫治療薬、抗アレルギー薬、抗炎症薬 7 各論： 心・血管系に作用する薬物Ⅰ 8 各論： 心・血管系に作用する薬物Ⅱ、呼吸器に作用する薬物 9 各論： 高脂血症治療薬、貧血治療薬、血液凝固・線溶系に作用する薬物 10 各論： 消化器・生殖器に作用する薬物 11 各論： 物質代謝に作用する薬物 12 各論： 生物学的製剤、皮膚・眼科用薬 13 各論： 抗感染症薬 14 各論： 消毒薬、抗がん薬 15 各論： 生薬、漢方薬				
授 業 の 留 意 点	生理学（人体機能学）、生化学、病態生理学（臨床治療学）、微生物学など関連科目の内容との関連を考えながら履修する。内容が膨大であるので、受講後必ずテキストや参考書を読む、図書館やインターネットで詳しく調べるなど復習をして、そのつど整理しておくこと。				
学 生 に 対 す る 評 価	筆記試験（マークシート方式、配点 100 点）により評価する。				
教 科 書 （ 購 入 必 須 ）	吉岡充弘編『系統看護学講座 専門基礎分野 疾病のなりたちと回復の促進[3] 薬理学 第 14 版』医学書院（2021 年） 浦部晶夫ら編『今日の治療薬 2018』南江堂（2021 年）				
参 考 書 （ 購 入 任 意 ）	MJ Neal、佐藤俊明訳『一目でわかる薬理学 第 5 版』メディカル・サイエンス・インターナショナル（2007 年） 鈴木正彦 パワーアップ問題演習 薬理学 新訂版 サイオ出版（2013 年）				

科 目 名	臨床薬理学				
担 当 教 員 名	本郷 文教				
学 年 配 当	3 年	単 位 数	1 単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	前期	必修選択	必修	資 格 要 件	
実 務 経 験 及 び 授 業 内 容	臨床において調剤、医薬品の供給その他薬事衛生に従事する薬剤師が、薬物療法の施行過程及び医薬品の取り扱いに必要な知識、薬剤師及び看護師の役割等を教授する科目				
学 習 到 達 目 標	適正な薬物療法を遂行するための基礎知識を習得する。				
授 業 の 概 要	総論では、薬剤師の役割と業務内容を解説する。また医薬品を取り扱う上で必要となる法律の概要を解説し、服薬アドヒアランスの重要性を理解する。各論では、患者に薬が届けられるまでのプロセスから薬物療法の施行過程を解説し、その中で看護師として医薬品を取り扱う際に必要な知識を解説する。主な項目としては患者への与薬時に注意すべき点と服薬指導、注射薬の混注業務と輸液療法、血液製剤の取り扱い、病棟・処置室等における麻薬・向精神薬・ハイリスク薬の管理、感染症治療薬等が挙げられる。				
授 業 の 計 画	1 総論 薬剤師の役割と業務内容及び医薬品を扱う上で遵守すべき法律等 2 総論 薬物療法の施行過程、医薬品の作用原理と有害作用 3 各論 医薬品管理と麻薬・向精神薬・ハイリスク薬の取り扱い 4 各論 がんを使用する薬、および血管外漏出について 5 各論 輸液療法とその他の注射薬、血液製剤の取り扱いについて 6 各論 感染症に使用する薬について 7 各論 薬物血中濃度モニタリングの有用性と医薬品情報の利用の仕方 8 各論 生活習慣病治療薬の種類と使い方				
授 業 の 留 意 点	臨床薬理学で学ぶ薬物療法の内容は基礎となる生理学、病態生理学、薬理学、微生物学、栄養学など関連科目を理解しておく必要がある。特に受講に際して薬理学のテキストを十分に読み、各々の医薬品の作用、副作用を整理しておくことが重要である。				
学 生 に 対 す る 評 価	選択式・論述式の試験により評価（90 点）するが、場合によって授業態度（10 点）を加味する。必要によりレポートの提出を求めることがある。				
教 科 書 （ 購 入 必 須 ）	古川裕之、赤瀬智子、林正健二編 ナーシンググラフィカ 疾病の成り立ち② 臨床薬理学 メディカ出版 2021 年（第 5 版）				
参 考 書 （ 購 入 任 意 ）	河合眞一、島田和幸、浦部晶夫編 今日の治療薬 2021 南江堂 高久史磨、矢崎義雄 監修 治療薬マニュアル 2021 医学書院				

科 目 名	生涯発達論				
担 当 教 員 名	結城 佳子				
学 年 配 当	1 年	単 位 数	2 単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	前期	必修選択	必修	資 格 要 件	
実 務 経 験 及 び 授 業 内 容	看護師等として出生から看取りまでの心のケア実践経験を有する教員が、対人援助において必須である生涯発達に関する基本的知識と考え方を指導する科目				
学 習 到 達 目 標	生涯発達とは、胎生期から死に至る人の生涯において、より適切な適応のあり方を期待する包括的な概念である。保健・医療・福祉、教育等の領域で対象者を支援しようとするとき、生涯発達についての理解は不可欠である。生涯発達についての基本的考え方、人の生涯発達とその過程における危機的状況について理解することを目標とする。				
授 業 の 概 要	1. 生涯発達とは何か、基本的理解のための解説を行う。 2. E. H. エリクソンの生涯発達理論にそって、各発達段階にある人々のありよう、達成すべき発達課題について解説する。 3. 発達課題への取り組みにおいて、危機的な状況にある人々等のありようを解説する。 4. 人を理解する上で生涯発達への視点がなぜ必要なのか、多様化・複雑化する社会の中での課題を考える。				
授 業 の 計 画	1 生涯発達とは 発達段階と発達課題 2 生涯発達の基本的理解 E. H. エリクソンの考え方を中心に 3 胎生期から乳児期前期 信頼 対 不信 4 乳児期後期 信頼 対 不信 5 幼児期前期 自律性 対 恥・疑惑 6 幼児期後期 積極性 対 罪悪感 7 学童期 勤勉性 対 劣等感 8 中間まとめ 子どもという存在と重要他者 9 思春期・青年期 同一性 対 拡散（1） 思春期・青年期のからだところの変化 10 思春期・青年期 同一性 対 拡散（2） アイデンティティとその危機 11 思春期・青年期 同一性 対 拡散（3） 成年期へ 12 成年前期 親密性 対 孤独感 13 成年期 生成継承性 対 停滞 14 成熟期 統合 対 絶望 15 まとめ 人が生きるということ				
授 業 の 留 意 点	積極的に授業へ参加する姿勢を期待する。自ら考える姿勢が望ましい。授業の進行状況等によって講義内容を変更することがある。				
学 生 に 対 す る 評 価	レポート課題：中間、最終各 50 点、計 100 点 講義ノートの評価点を加点することがある。				
教 科 書 (購 入 必 須)	テキストは使用せず、資料を配布する。				
参 考 書 (購 入 任 意)	必要時指示する。				

科 目 名	家族社会学				
担 当 教 員 名	小野寺 理佳				
学 年 配 当	1 年	単 位 数	2 単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	後期	必修選択	必修	資 格 要 件	
実務経験及び 授 業 内 容					
学 習 到 達 目 標	1. 現代家族の成立の歴史についての基本的知識を得る。 2. 家族とは何かを考え、自分の家族観を相対化することができる。 3. 将来の実践者として、家族の多様化をふまえて人々の生活を考えることができる。				
授 業 の 概 要	社会そして家族集団において人々は多様な立場におかれ、立場によって家族の見え方も家族に求めるものも異なる。家族社会学は社会学の一分野であり、様々な家族問題を深く理解し、実践に活かすために参照される学問である。授業では、身近で具体的な事柄を取り上げながら、愛情、自由、選択、責任、血縁、法律、制度、人権、福祉、倫理など様々な視角から家族事象を考察し、家族の多様化とそれにまつわる諸問題を社会構造に関わらせながら理解あるいは解明していく力を養うことを目指す。				
授 業 の 計 画	1 家族ってなに？家族って誰？（1）あなたの家族は誰ですか 2 家族ってなに？家族って誰？（2）誰が家族を決めるのか 3 近代家族の誕生（1）近代家族の特徴 4 近代家族の誕生（2）近代家族を支える思想 5 近代家族の揺らぎ（1）家族の変容 6 近代家族の揺らぎ（2）家族を選択する時代 7 家族の現在（1）家族に何を求めるか 8 家族の現在（2）自由と選択 9 恋愛結婚と近代家族（1）恋愛の定義 10 恋愛結婚と近代家族（2）近代家族における恋愛の意味 11 生殖補助医療における親子関係（1）生殖補助医療とは何か 12 生殖補助医療における親子関係（2）父は誰か、母は誰か 13 生殖技術と市場（1）自由を制限するもの 14 生殖技術と市場（2）自由と自己責任 15 コ・ハウジング				
授 業 の 留 意 点	・テキストの該当箇所、関連箇所を予習・復習として読むこと。 ・受講者の関心動向によって、内容構成や順序を調整する場合がある。 ・リアクションペーパーの提出を求めることがある。				
学 生 に 対 す る 評 価	レポートにより評価する（100点）。				
教 科 書 （ 購 入 必 須 ）	神原文子・杉井潤子・竹田美和 編著 やわらかアカデミズム・〈わかる〉シリーズ 『よくわかる現代家族』[第2版] ミネルヴァ書房 2016年				
参 考 書 （ 購 入 任 意 ）					

科 目 名	人間工学				
担 当 教 員 名	濱田 靖弘				
学 年 配 当	2 年	単 位 数	2 単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	前期	必修選択	選択	資 格 要 件	
実務経験及び授業内容					
学習到達目標	人間工学の目的は、人間の形態、生理、心理学的諸特性を、道具や装置などの操作に反映させることによって、その使い易さや作業効率・快適性の向上、作業者の負担軽減、ヒューマンエラー（誤動作、誤操作）の防止等をはかることにある。				
授業の概要	看護や介護は、直接、人に触れ、また、道具や装置を使って人を支援する行為の過程ともいえる。この基礎として、人間の生理・心理学的諸特性を含む人間工学の知識を学ぶ。それらによって、質の高い看護および介護活動が実現される。				
授業の計画	1 ガイダンス 2 人間工学の概要（１） 3 人間工学の概要（２） 4 人間と環境—温熱環境（１）— 5 人間と環境—温熱環境（２）— 6 人間と環境—温熱環境（３）— 7 人間と環境—温熱環境（４）— 8 人間と環境—光環境（１）— 9 人間と環境—光環境（２）— 10 人間と環境—光環境（３）— 11 人間と環境—空気環境（１）— 12 人間と環境—空気環境（２）— 13 人間と環境—音環境— 14 まとめ（１） 15 まとめ（２）				
授業の留意点	「解剖学」や「生理学」の知識に加え、「心理学」に関する知識も必要なので、これらに関係する科目を履修していることが望ましい。また、受講後の復習に心がけ、不明な点は質問すること。				
学生に対する評価	小テスト（40 点）、試験（60 点）				
教科書（購入必須）	教科書は使用せず、必要に応じて資料を配布して行う。				
参考書（購入任意）					

科 目 名	カウンセリング・コミュニケーション論				
担 当 教 員 名	担当者未定				
学 年 配 当	2 年	単 位 数	2 単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	後期	必修選択	選択	資 格 要 件	
実務経験及び 授 業 内 容					
学 習 到 達 目 標	1. カウンセリングやコミュニケーションに関する理論と方法について学び、対人援助職者に必要なカウンセリングマインドとコミュニケーション能力を身につける。 2. 保健・医療・福祉・教育各領域における専門家に必要な資質（心構え、態度、関係性等）を涵養する。				
授 業 の 概 要	スライド（PowerPoint）の提示及び板書をしながら講義形式ですすめるが、一部グループ（またはペア）ワークも取り入れる。 毎講義資料を配布し、講義の最後にリアクションペーパーを提出する。				
授 業 の 計 画	1 対人援助に求められるコミュニケーション技術 2 カウンセリング理論による信頼関係づくりの効用 3 対人援助者に求められる自己覚知の重要性 4 自身の思考・行動傾向に気づくために 5 精神分析療法 6 来談者中心療法 7 行動療法 8 その他の理論－認知行動療法を中心に 9 コミュニケーションの仕組み－非言語の重要性 10 傾聴・面接技法の展開 11 マイクロカウンセリングに学ぶ－かかわり技法を中心に 12 アサーションでチーム力を高める 13 クライアントへの支援および人材育成のためのコーチング 14 対人援助職のメンタルケア 15 多職種連携の課題と展望				
授 業 の 留 意 点	各領域における有為な対人援助者を育成することを目的としているため、ある程度他者に対して自分自身があらわになることを了解のうえで受講すること。 グループ（またはペア）ワークではシェアリングを行うので、積極的に発言・参加してくれるよう望む。				
学 生 に 対 す る 評 価	期末レポート（50%）、リアクションペーパー（30%）、小レポート（20%）を総合的に評価する。				
教 科 書 （購入必須）	教科書は使用せず、適宜資料を配布する。				
参 考 書 （購入任意）					

科 目 名	保健医療福祉連携論				
担 当 教 員 名	保健福祉学部教員				
学 年 配 当	3 年	単 位 数	1 単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	通年	必修選択	必修	資 格 要 件	
実務経験及び授業内容					
学習到達目標	様々な現場実践に関する話題提供を踏まえ、グループワークで各専門職の業務や役割を共有するとともに、専門職連携の推進に向けての課題や取組の方向性を明らかにして、保健医療福祉連携に対する総合的な視野を広げることを到達目標とする。				
授 業 の 概 要	<p>1 学年を数グループに分割したグループ別講義及び演習を行う。各専門職の役割を互いに理解し、そこから専門職連携の実践に向けての課題や取組の方向性についてグループワークを行う。検討したことを整理し、全体報告会で発表し、本学の連携教育科目の総まとめとして仕上げていく。全体報告会後のカンファレンスは、グループメンバー1人ずつが集まり、質疑応答を行うため、すべてのメンバーが各グループの活動について理解しておくことが必要となる。</p> <p>新型コロナウイルス感染拡大状況によっては、一部または全部を遠隔授業とし、グループ分けを行わずに全員が同じ内容の講義・演習を受講した上で、毎回の授業の小レポートの共有や、最終のグループワークにより意見交換および学びの共有を行い、グループワークによる進行の場合と同様の到達目標に達することを目指すこととする。</p>				
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション、グループ分け 2 グループ別活動（1） 3 グループ別活動（2） 4 グループ別活動（3） 5 グループ別活動（4） 6 グループ別活動（5）報告会の準備 7 全体報告会 8 全体カンファレンス 				
授 業 の 留 意 点	<p>グループ毎に開講日が異なるため、各自が出席すべき日時および教室等に留意すること。</p> <p>各学科の講義や実習の事情により、出席すべき日時に不都合が生じた場合は速やかに担当教員と連絡を取り、教員と共に対処方法を検討すること。</p> <p>遠隔授業の場合は、グループ分けを行わず、双方向授業またはオンデマンド授業などの方法を組み合わせる。授業に関する連絡はメールで行うため、日々メールの確認を行うこと、通信機材の準備を整えておくことが必要である。</p>				
学 生 に 対 す る 評 価	毎回の小レポート 40 点および最終レポート 60 点により評価する。				
教 科 書 （購入必須）					
参 考 書 （購入任意）					

科 目 名	社会福祉概論				
担 当 教 員 名	担当者未定				
学 年 配 当	1 年	単 位 数	1 単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	前期	必修選択	必修	資 格 要 件	
実務経験及び 授 業 内 容					
学 習 到 達 目 標	1. 社会福祉の基本理念や制度、現状を歴史的な歩みの視点を通し学ぶ。 2. 看護を学ぶ学生が、1 人の生活者として人間の福祉を深く理解していくことを目的とする。				
授 業 の 概 要	社会福祉の歴史をたどりながら、社会福祉の理念や制度が社会の変化などと相まって発展してきたことを学習し、21 世紀をむかえての社会福祉の動向と課題を現実の中で考察する。また、看護の国家資格や職場で必要とされる知識と技術、福祉職との関連についても言及する。				
授 業 の 計 画	1 社会福祉を学ぶにあたって(オリエンテーション) 2 社会福祉の誕生 3 明治期の社会福祉 恤救規則と慈善事業 4 大正期の社会福祉 社会事業の成立 5 戦前・戦中の社会福祉 6 戦後直後の社会福祉 7 地域福祉 戦後地域社会の変化とコミュニティ 8 高度経済成長と社会福祉 9 公的扶助 10 高齢者福祉 11 子ども福祉 12 社会福祉実践と医療・看護 13 社会福祉の援助技術(ケースワーク) 14 社会福祉の援助技術(グループワーク・コミュニティワーク) 15 総まとめ				
授 業 の 留 意 点	教科書にもとづいて授業を進める。 看護の専門家に求められる多くの知識のなかに社会福祉(社会保障)関連の知識があることを意識し、受講してほしい。				
学 生 に 対 す る 評 価	(1)小テスト・課題レポート(3回実施予定) : 40 点 (2)リアクションペーパー : 60 点				
教 科 書 (購入必須)	系統看護学講座『社会福祉 健康支援と社会保障制度③』医学書院				
参 考 書 (購入任意)					

科 目 名	地域との協働 I				
担 当 教 員 名	保健福祉学部教員				
学 年 配 当	1 年	単 位 数	1 単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	後期	必修選択	必修	資 格 要 件	
実務経験及び 授 業 内 容					
学 習 到 達 目 標	専門職連携の実践者として今後携わっていく上で必要な知識や背景、実践例などについて幅広く学び、自身の職における立ち位置や役割を把握するとともに、地域課題や対象者のニーズに触れながら、連携実践に対する具体的イメージを高めることを目標とする。				
授 業 の 概 要	<p>全体を 2 クラスに分けた大クラス講義と 1 学年を 6 クラスに分けた中クラス講義、中クラスからさらに少人数に分かれたチームと、展開する場面を回毎に設けて授業を行う。報告会では中クラス、小チーム活動について大クラスで共有をする。全体講義では保健医療福祉連携に必要なグループワーク技術や本学の歴史について学ぶ。クラス講義では学内教員によるゲストスピーカーより各教員の専門性等について紹介を受けた上で、適宜グループワークを行うことで、連携実践において必要な多角的視点を養う。チーム活動では担当教員のリードにより専門的な学習の一端を体験し、多職種理解および多職種連携のイメージを高めることを目指す。</p> <p>COVID-19 感染拡大状況によっては一部または全部を遠隔授業とし、クラス分け・チーム分けを行わず全員が同じ内容の講義・演習を受講する可能性もある。その場合の内容は授業計画内容を網羅したものとする。</p>				
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション・本学の歴史的経緯と保健医療福祉連携：市立名寄短期大学の開学と発展（大クラス講義） 2 本学の歴史的経緯と保健医療福祉連携：短大から名寄市立大学への改組と発展（大クラス講義） 3 他職種理解・チームケア（中クラス講義）その 1 4 他職種理解・チームケア（中クラス講義）その 2 5 多種多様な分野の理解（小チーム活動）その 1 6 多種多様な分野の理解（小チーム活動）その 2 7 グループワーク演習（大クラス授業） 8 講義のまとめ（大クラス授業） 				
授 業 の 留 意 点	<p>クラス・チームごとに開講日や教室が異なるため、各自が出席すべき日時と教室を把握した上で授業に出席すること。クラス講義では、話題提供と併せてグループワークを行う予定である。グループワークの取り組み方をトレーニングするための場でもあるので、一人ひとりが積極的に取り組むこと。</p> <p>遠隔授業となった場合は、オンデマンド授業として行うため受講期限および提出物の提出期限を守る。</p>				
学 生 に 対 す る 価 値	毎回の小レポート 40 点、最終レポート 60 点により評価する。				
教 科 書 （ 購 入 必 須 ）					
参 考 書 （ 購 入 任 意 ）					

科 目 名	地域との協働Ⅱ				
担 当 教 員 名	保健福祉学部教員				
学 年 配 当	2 年	単 位 数	1 単位	開 講 形 態	演習
開 講 時 期	通年	必修選択	必修	資 格 要 件	
実務経験及び授業内容					
学習到達目標	<p>保健・医療・福祉等、複数領域の専門職がそれぞれの技術と役割にもとづきながら共通の目標を目指す連携・協働を Inter-professional Work (IPW・専門職連携) という。同時に複数の専門職が”その場にいる”事を示す“multi-professional”とは異なり、相互の係性を重視し、専門職間の高いレベルの協働係を意味しており、IPW を実現するためには専門職としての成熟した人間係 (Matured Inter-professional Relationships) が基盤となるとされる。</p> <p>IPW を実現するための方法を学ぶ方法として、Inter-professional Education (IPE・専門職連携教育) がある。IPE では「複数の専門職間の相互作用」および「共通目標を共有する」ことが重要である。IPE では、2 つ以上の専門職が互いの職種とともに (with)、互いの職種から (from)、互いの職種について (about)、協働と生活の質の向上を目的に学ぶことにより、効率的な係を築くことが可能となると定義されている (CAIPE : 2001)。</p> <p>地域との協働Ⅱでは、これらの定義に基づき、以下の2点の能力を養成する。</p> <p>第1に、この IPW の基盤となる”専門職間の成熟した人間係”を形成する。</p> <p>第2に、「複数の専門職間の相互作用」を考慮しながら「共通目標を共有」し、その共通目標に向かって「協働」できるようになる。</p>				
授業の概要	<p>本講義は3つのパートから構成される。</p> <p>①IPW および IPE の概念を講義によって学び、地域活動の意義・目的について理解する。</p> <p>②少人数・学科混成グループを編成し、テーマ別に地域活動を行う。地域活動を実施する際に Project Based Learning (PBL・プロジェクト型学習) の手法を取り入れ、自ら地域課題を見出し、調査・分析や企画立案・準備、考察を実施し、その学びの結果を全受講生で共有する。</p> <p>1) 教員が提示した大テーマの中から各種資料の分析や聞き取り調査等を通じて、地域課題や対象者のニーズを検討する</p> <p>2) グループにおける自らの役割を理解し、分担・協働しながら活動する</p> <p>3) 地域活動から得た学びを発表・討議し、専門職連携の意義と効果を全体で共有する</p> <p>指導は担当教員のほか、地域との協働Ⅲを履修する3年生も補助として参加し、活動を円滑に取り組めるよう支援する。</p> <p>③学びを深める共通コンテンツにより講義・演習を行う。</p> <p>自らが参加した地域活動による”一つの学び”に加えて、複数の「地域をフィールドとした連携・協働の実践活動」を講義・演習を通じて学び、その成果を受講者間で共有することで、より多くの事例から IPE を行う。</p>				
授業の計画	<p>1-2 オリエンテーション：講義方法の説明と地域活動のグループ分け</p> <p>3 IPW および IPE の概念について</p> <p>4 地域活動の意義と目的について</p> <p>5 グループ別ガイダンス</p> <p>6-10 グループ別地域活動</p> <p>11 グループ別地域活動のまとめ</p> <p>12-14 共通コンテンツによる学びの拡張</p> <p>15 まとめ</p>				
授業の留意点	<p>グループ別の地域活動では、フィールドの都合等によりグループごとに開講日が異なるため、担当教員およびグループメンバー間の連絡連携を密にして取り組むこと。また、無断欠席はしないこと。</p> <p>一部オンライン講義を活用するため対応できる視聴機材を準備しておくこと (詳細はガイダンス等で説明する)。</p> <p>地域活動は「新型コロナウイルス感染拡大防止のための名寄市立大学の行動指針」(以下行動指針)に基づき、開講形態および日時を変更する場合がある。連絡はメールやMoodle等で行うため、日々大学メールの確認を行うこと。</p>				
学生に対する評価	オンライン講義にあたっては毎回の小レポート (20 点)、地域活動においては活動日誌の提出およびまとめレポート (40 点)、および最終レポート (40 点) で評価する。				
教科書 (購入必須)					
参考書 (購入任意)					

科 目 名	地域との協働Ⅲ				
担 当 教 員 名	保健福祉学部教員				
学 年 配 当	3 年	単 位 数	2 単位	開 講 形 態	演習
開 講 時 期	通年	必修選択	選択	資 格 要 件	
実務経験及び授業内容					
学 習 到 達 目 標	<p>地域との協働Ⅰ・Ⅱにおける学びを踏まえ、①IPW（Inter-professional Work）の基盤となる“専門職間の成熟した人間関係”を形成するためのコーディネーターとして活動できる能力を養成する。②「複数の専門職間の相互作用」を考慮しながら「共通目標を共有」し、その共通目標に向かって「協働」するための環境づくりができる能力を養成する。</p> <p>具体的にはリーダーシップ性、コミュニケーション力、マネジメント力を総合的に高め、フィールド活動に主体的に参加する姿勢を身につけることを目標とする。</p>				
授 業 の 概 要	<p>①全体講義でリーダーシップ論、マネジメント論などについて学ぶ。一部ロールプレイングやグループワークなどを取り入れて、連携実践をコーディネートするために必要な能力を養成する。</p> <p>②協働ゼミを通じて連携実践をコーディネートするために必要な能力を養成する。与えられた大テーマのもとで、PBL（Problem Based Learning：問題解決型学習）の手法を用いて自ら課題の析出を行い、既存研究の確認・事例調査・分析・考察・発表（学びの共有）を行う。</p> <p>③「地域との協働Ⅱ」の地域活動に連携実践のコーディネーターとして参加し、2年生のサポート役として必要な援助を行う。</p> <p>④まとめとして、自らのコーディネーション能力について、全体講義で学んだマネジメント論等の観点から振り返りを行い、グループワークを行う。その結果を最終レポートとして提出し、成果を受講者間で共有することで学びの共有を行う。</p>				
授 業 の 計 画	<p>1-2 オリエンテーション</p> <p>3 専門職連携におけるマネジメント①（全体講義）</p> <p>4 専門職連携におけるマネジメント②（全体講義）</p> <p>5 専門職連携におけるマネジメント③（全体講義）</p> <p>6 専門職連携におけるマネジメント④（全体講義）</p> <p>7-8 専門職連携におけるマネジメント⑤⑥（グループワーク）</p> <p>9 協働ゼミのガイダンス</p> <p>10-16 協働ゼミグループ別活動</p> <p>17-23 地域活動におけるマネジメント実践</p> <p>24-26 共通コンテンツによる学びの拡張</p> <p>27 リーダーシップおよびマネジメント実践</p> <p>28-29 マネジメント実践の振り返り</p> <p>30 まとめ</p>				
授 業 の 留 意 点	<p>グループ別の地域活動では、フィールドの都合等によりグループごとに開講日が異なるため、担当教員およびグループメンバー間の連絡連携を密にして取り組むこと。また、無断欠席はしないこと。</p> <p>一部オンライン講義を活用するため対応できる視聴機材を準備しておくこと（詳細はガイダンス等で説明する）。</p> <p>地域活動は「新型コロナウイルス感染拡大防止のための名寄市立大学の行動指針」（以下行動指針）に基づき、開講形態および日時を変更する場合がある。連絡はメールやMoodle等で行うため、日々大学メールの確認を行うこと。</p> <p>グループごとにCOVID-19に対応したプログラムで実施予定であるが、行動指針レベルにおける地域活動の制限状況に応じて、オンライン講義と地域活動を組み合わせたハイブリッド形式になる可能性もある。オンライン講義に対応できる視聴機材を準備しておくこと。</p>				
学 生 に 対 す る 評 価	<p>全体講義にあたっては毎回の小レポート（20点）、地域活動においては活動日誌の提出およびまとめレポート（40点）、および最終レポート（40点）で評価する。</p>				
教 科 書 （購入必須）					
参 考 書 （購入任意）					

科 目 名	公衆衛生学				
担 当 教 員 名	荻野 大助				
学 年 配 当	1 年	単 位 数	2 単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	後期	必修選択	必修	資 格 要 件	
実務経験及び授業内容					
学習到達目標	公衆衛生学の基本的概念を学び、今日的課題についても、衛生行政および各種保健活動とも関連させながら理解を深める。				
授 業 の 概 要	<p>「公衆衛生学」は、人を社会生活者と捉え、社会や環境との関連から人の健康障害の原因を明らかにし、健康を保持増進し、疾病・障害を予防し、すべての人がよりよく生きる社会の実現に寄与する学問である。健康の概念、公衆衛生の目的について理解し、健康に関連する要因（宿主要因、環境要因、病因）と病気の発生、特に、どのような環境およびライフスタイル（栄養、運動、休養、喫煙、飲酒など）が生活習慣病を引き起こす危険性（リスク）を高めるのかについて学ぶ。さらに、健康指標としての各種の保健統計、健康増進施策、少子高齢化や国民医療費などの今日的課題について、衛生行政および各種保健活動とも関連させながら理解を深める。</p>				
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 公衆衛生の歴史（外国） 2 公衆衛生の歴史（日本）／疫学の基本事項① 3 疫学の基本事項②／衛生統計 4 健康水準・健康指標 5 感染症とその予防 6 食品と栄養 7 生活環境（衣服と住居、水道、廃棄物） 8 医療制度（行政、資源、医療費） 9 地域保健（保健所と市町村保健センター） 10 母子保健（母子保健事業、少子化対策） 11 学校保健 12 生活習慣病 13 難病と精神保健 14 産業保健（労働衛生） 15 健康危機管理（災害と健康） 				
授 業 の 留 意 点	<p>他の授業科目とも関連する重要な事柄が、それぞれの単元の学習において頻出する。ただ単にキーワードを暗記するのではなく、きちんと内容を理解するよう努めることが大事である。予習は講義前に教科書の赤字キーワードなどを確認しておくこと。課題を取組んだ後は、見直し復習すること。</p> <p>※ 感染症（covid-19）の状況によって講義形式が対面から遠隔（ハイフレックス形式）へ変更の場合有。</p>				
学 生 に 対 す る 評 価	<p>課題（25 点）と期末試験（75 点）で成績評価を行う。</p> <p>※ 極端に点数（期末試験と課題取組状況）が低い場合は、再試験を行わず再履修となる。</p>				
教 科 書 （購入必須）	<p>清水忠彦、佐藤拓代 編『わかりやすい公衆衛生学 第4版』ヌーヴェルヒロカワ 厚生統計協会編『厚生 の 指標・国民衛生の動向』厚生労働統計協会（2022/2023 年）</p>				
参 考 書 （購入任意）					

科 目 名	人間関係論				
担 当 教 員 名	結城 佳子・中島 泰葉				
学 年 配 当	1 年	単 位 数	2 単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	後期	必修選択	必修	資 格 要 件	
実 務 経 験 及 び 授 業 内 容	看護師等として多様な場面での心のケア実践経験を有する教員が、対人援助の基盤となる人間関係に関する基本的知識と考え方を指導する科目				
学 習 到 達 目 標	看護の担い手は、対人援助専門職として対象者との間に援助的人間関係を構築し、維持することが求められる。人の発達、成長、成熟に深く関わる人間関係の基礎的理論を学び、自己理解・他者理解を通じて、看護実践の基礎となる人間関係について理解を深めることを目標とする。				
授 業 の 概 要	ほぼ毎回の授業で講義とともに小課題、ワークなどに取り組み、体験を通して人間関係について理解を深める。小課題、ワークの内容によっては、グループワークを行うこともある。				
授 業 の 計 画	1 オリエンテーション/人間関係の基礎① 人間関係の基本的視点 2 人間関係の基礎② 自己理解 3 人間関係の基礎③ 他者理解 4 自己と他者のコミュニケーション① 話す/聴く 5 自己と他者のコミュニケーション② 観る/感じる 6 人間関係の生涯発達① 乳幼児期～学童期 7 人間関係の生涯発達② 思春期・青年期～老年期 8 人間関係の諸相① 家庭 9 人間関係の諸相② 学校/職場 10 集団の人間関係① 支配と権威 11 集団の人間関係② 親和と同調 12 集団の人間関係③ 攻撃と敵対 13 集団の人間関係④ 援助と協調 14 対人援助における人間関係① 医療チームにおける人間関係 15 対人援助における人間関係② 患者－看護師関係				
授 業 の 留 意 点	主体的に授業に参加し、感じ、考え、学ぶ姿勢を求める。授業の進行状況、時事問題によって講義内容を変更することがある。				
学 生 に 対 す る 評 価	レポート課題：中間、最終各 50 点、計 100 点 講義ノートの評価点を加点することがある。				
教 科 書 (購 入 必 須)	服部祥子『人を育む人間関係論』医学書院				
参 考 書 (購 入 任 意)	必要時、指示する。				

科 目 名	疫学				
担 当 教 員 名	荻野 大助				
学 年 配 当	2 年	単 位 数	2 単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	後期	必修選択	必修	資 格 要 件	保健師：必修
実務経験及び 授 業 内 容					
学 習 到 達 目 標	疫学に関する基礎概念を知ること。疫学研究デザインの使い分けを知ること。疫学指標（リスクの指標、疾病頻度の指標、スクリーニングの指標）の計算ができること。				
授 業 の 概 要	「公衆衛生 Public Health」は人間集団における「疾病の予防」と「健康および QOL の増進」を目指し、「疫学 Epidemiology」はそのためのツールである。疫学の基礎概念・疫学研究デザインの考え方と使い分けについて知り、疫学指標の計算練習をする。				
授 業 の 計 画	1 疫学の定義・歴史上の疫学の業績 2 疾病の発生原因解明の追及までの流れ 3 疫学指標（１）～「頻度の測定」 4 疫学指標（２）～「頻度の比較」 5 疫学研究を始める前に 6 疫学研究方法の種類・記述疫学（１） 7 記述疫学（２） 8 分析疫学（１）～「横断研究と生態学的研究」 9 分析疫学（２）～「症例対照研究」 10 分析疫学（３）～「コホート研究」 11 介入研究 12 因果関係・交絡因子 13 スクリーニング 14 疾病登録・サーベイランス 15 疫学研究と倫理				
授 業 の 留 意 点	教科書や配布資料をよく読んで、重要事項を整理し、配布した問題集等の計算練習をしておくこと。 計算練習の時は、電卓（関数電卓でも可）を持参すること。 試験の時は、携帯電話・スマートフォン・タブレット・電子辞書・パソコンを使用禁止とする。 ※ 感染症（covid-19）の状況によって講義形式が対面から遠隔へ変更の場合有。				
学 生 に 対 す る 評 価	期末試験（100 点満点）で評価する。 ※ 極端に点数（期末試験と課題取組状況）が低い場合は、再試験を行わず再履修となる。				
教 科 書 （ 購 入 必 須 ）	日本疫学会（監修）『はじめて学ぶやさしい疫学 改訂第 3 版』南江堂 授業に必要なプリントはその都度配布する。				
参 考 書 （ 購 入 任 意 ）	公衆衛生学受講時（１年生）に購入した 清水忠彦、佐藤拓代 編『わかりやすい公衆衛生学 第 4 版』ヌーヴェルヒロカワ 厚生統計協会編『厚生指標・国民衛生の動向』厚生労働統計協会（2021/2022 年）				

科 目 名	保健医療福祉行政論 I				
担 当 教 員 名	播本 雅津子・野村 陽子・室矢 剛志				
学 年 配 当	3 年	単 位 数	2 単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	後期	必修選択	選択	資 格 要 件	保健師：必修
実務経験及び授業内容	行政機関での実務経験を有する教員が担当する。保健医療福祉行政で必要とされる法律や制度について解説する。				
学習到達目標	保健・医療・福祉に関する法律や制度などを理解できる。 さまざまな対象者の健康と生活を支える保健医療福祉行政の役割について理解できる。				
授 業 の 概 要	保健医療福祉行政に関する理念や仕組みを学んだ上で、あらゆる対象者の健康を支えるための根拠となる法律や制度について理解する。				
授 業 の 計 画	1 保健医療福祉行政の理念 2 保健医療行政の仕組み 3 社会情勢の変化と保健医療福祉行政の変遷 4 社会保障制度の理念と仕組み 5 医療法と医療提供体制 6 母子保健に関する法律と制度 7 成人保健に関する法律と制度 8 高齢者保健に関する法律と制度 9 地域包括ケアシステムにおける保健師の役割 10 精神保健に関する法律と制度 11 難病保健に関する法律と制度 12 障害者福祉に関する法律と制度 13 感染症対策に関する法律と制度 14 健康危機管理に関する法律と制度 15 保健医療福祉計画と根拠法				
授 業 の 留 意 点	これまで学んだ科目の内容との関連を考えながら履修すること。受講後には必ず教科書等を読み、そのつど知識を整理しておくこと。詳細は、開講時に配布するスケジュールを確認すること。				
学 生 に 対 す る 評 価	筆記試験（70 点）・レポート課題（30 点）により評価する。いずれも 6 割以上の評価を必要とする。				
教 科 書 （購入必須）	野村陽子編『最新保健学講座 7 保健医療福祉行政論』メヂカルフレンド社				
参 考 書 （購入任意）	藤内修二他編『標準保健師講座別巻 1・保健医療福祉行政論 第 5 版』医学書院 厚生統計協会編『厚生の指標・国民衛生の動向』厚生統計協会				

科 目 名	保健医療福祉行政論Ⅱ				
担 当 教 員 名	播本 雅津子・室矢 剛志				
学 年 配 当	4 年	単 位 数	2 単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	通年	必修選択	選択	資 格 要 件	保健師：必修
実 務 経 験 及 び 授 業 内 容	行政機関での実務経験を有する教員が担当する。保健師が実践している保健医療福祉行政での活動の実際について解説する。				
学 習 到 達 目 標	保健・医療・福祉に関する法律や制度などを活用して健康課題に応じた活動を実践するプロセスを学習し、保健医療福祉行政における保健師の役割を理解できる。				
授 業 の 概 要	保健医療福祉行政の立場から、さまざまな健康課題に応じた活動を展開するために必要な制度や保健医療福祉サービスの立案・実施・評価の流れについて学ぶ。				
授 業 の 計 画	1 地域保健行政と地方自治の理念 2 地域保健行政の体系 3 地域保健行政の予算の仕組み 4 地域保健行政における保健師の役割(1)-都道府県の保健師活動 5 地域保健行政における保健師の役割(2)-市町村の保健師活動 6 保健医療福祉システムを踏まえた保健師活動の実際(1)-母子保健 7 保健医療福祉システムを踏まえた保健師活動の実際(2)-成人・高齢者保健 8 保健医療福祉システムを踏まえた保健師活動の実際(3)-感染症対策 9 保健医療福祉システムを踏まえた保健師活動の実際(4)-健康危機管理 10 保健医療福祉計画の策定と評価 11 保健事業の立案と評価(1)-健康課題の検討 12 保健事業の立案と評価(2)-事業内容の検討(企画の全体像) 13 保健事業の立案と評価(3)-事業内容の検討(保健指導方法) 14 保健事業の立案と評価(4)-評価方法の検討 15 保健事業の立案と評価(5)-立案内容の報告と共有				
授 業 の 留 意 点	これまで学んだ科目の内容との関連を考えながら履修すること。受講後には必ず教科書等を読み、そのつど知識を整理しておくこと。詳細は、開講時に配布するスケジュールを確認すること。				
学 生 に 対 す る 評 価	筆記試験(70点)・レポート課題(30点)により評価する。いずれも6割以上の評価を必要とする。				
教 科 書 (購 入 必 須)	野村陽子編『最新保健学講座7 保健医療福祉行政論』メヂカルフレンド社				
参 考 書 (購 入 任 意)	藤内修二他編『標準保健師講座別巻1・保健医療福祉行政論 第5版』医学書院 厚生統計協会編『厚生の指標・国民衛生の動向』厚生統計協会				

科 目 名	福祉環境論				
担 当 教 員 名	小林 浩				
学 年 配 当	1 年	単 位 数	2 単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	後期	必修選択	選択	資 格 要 件	
実務経験及び授業内容					
学 習 到 達 目 標	<p>高齢者及び傷病者の適切な生活環境の設定や改善に向けて以下を目標とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 療養環境を主体とする福祉住環境改善の場面においての社会福祉士や保健師・看護師に期待される役割を理解する。 2. 日常生活動作における基礎的な身体機能と動作の連環を理解する。 3. 高齢者や傷病者の疾病特性を理解し、介護手法や福祉用具、住宅改修のポイントを理解する。 4. 介護保険制度などの活用法を理解する。 				
授 業 の 概 要	<p>福祉住環境改善は、高齢者の事故防止、介護予防、介護負担の軽減などを図る上で必須の課題になる。この改善のための支援プロセスにおいて、社会福祉士、保健師・看護師などの保健医療福祉スタッフには、対象者の生活の場に臨んで活動する職種であるがゆえの役割に対する期待がある。住環境に存在している問題・課題を発見すること、対象者に対し改善に向けて適切な援助を行うこと、改善後にフォローアップするという役割である。上記を目標にして、これらの期待される役割にかかわる基礎的知識及び手法を解説する。</p>				
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 高齢期における福祉住環境改善の役割と改善プロセスにおける在宅ケア支援職への期待 2 身体機能の理解 (1) 動作分析における基礎的な解剖学・運動学 3 身体機能の理解 (2) 生活動作の分解 4 高齢者の身体的・心理的特性 (傾向) 5 建築空間理解のための基礎事項 (建築図面、平面記号、動線) 6 住宅平面図作成 (演習) 住宅及び近隣地域作図 7 住宅平面図作成 (演習) 住宅改修・福祉用具導入検討 8 バリアフリー化の共通基本手法 (1) 段差の解消、床材の選択、手すりの取付け 9 バリアフリー化の共通基本手法 (2) 建具への配慮、スペースへの配慮、家具・収納への配慮 10 バリアフリー化の生活行為・場所別手法 (1) 外出、屋内移動 (アプローチ・外構、玄関) 11 バリアフリー化の生活行為・場所別手法 (2) 屋内移動 (廊下、階段、出入口) 12 バリアフリー化の生活行為・場所別手法 (3) 排泄 (トイレ) 13 バリアフリー化の生活行為・場所別手法 (4) 入浴 (浴室) 14 バリアフリー化の生活行為・場所別手法 (5) 着脱衣・洗面・整容、調理と食事、団らん、就寝 (洗面・脱衣室、台所・食堂、居間、寝室) 15 建築空間にかかわる大型福祉用具 (段差解消機、階段昇降機、リフト) と介護保険対象の改修工事、福祉用具 				
授 業 の 留 意 点	講義中、平面図作成など課題がある。				
学 生 に 対 す る 評 価	各課題レポート (100 点) で評価する。				
教 科 書 (購 入 必 須)	テキストは指定しない。授業時に資料プリントを配付する。				
参 考 書 (購 入 任 意)					

科 目 名	人権と法				
担 当 教 員 名	栢山 茂樹				
学 年 配 当	2 年	単 位 数	2 単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	前期	必修選択	選択	資 格 要 件	
実務経験及び授業内容					
学 習 到 達 目 標	現代日本で話題の人権問題と、その法的争点について理解する。 憲法人権分野について、法学の専門的水準の知見を身につける。				
授 業 の 概 要	人権に関する重要判例・トピックをとりあげ、その法的争点を解説していく。人権問題について、ジャーナリスティックな評論ではなく法学の専門的見地から学んでもらう。 現代社会では人権理念が普及する一方で、それに反動する民族主義・差別主義等も台頭してきている。その渦中にあるわれわれは、人権についての見識や公共心をどれだけ備えているかが試されているのである。				
授 業 の 計 画	1 講義ガイダンス、憲法に対する誤解を解く 2 憲法総論：国家・憲法・法律 3 人権と憲法上の権利 4 外国人の人権①：入管法のしくみ 5 外国人の人権②：マククリーン事件ほか 6 外国人の人権③：ヘイトスピーチ 7 私人間効力論：三菱樹脂事件ほか 8 プライバシー権・信教の自由：公安テロ情報流出事件 9 自己決定権：エホバの証人輸血拒否事件、安楽死・尊厳死、向井亜紀事件 10 法の下での平等：婚外子法定相続分規定 11 法の下での平等・婚姻の自由：女性の再婚禁止期間 12 ジェンダー・婚姻の自由：夫婦同氏訴訟 13 LGBT の人権：府中青年の家事件、同性婚訴訟 14 表現の自由：立川反戦ビラ訴訟 15 少数民族の権利：二風谷ダム事件				
授 業 の 留 意 点	本講義は私の担当科目「日本国憲法」を補完するものでもある(そのため、同一内容の回もあることをお断りしておく)。併せて受講してもらうことを強く望む。「法学(国際法を含む)」「子どもの権利」「教育法概論」とも関連がある。 授業計画は変更する場合もあるので、第1回から欠かさず出席すること。 予習・復習としては、後述の参考書を読むほか、講義で出てきた専門用語とその定義を覚えることが重要である。条文・判例を読むことにも慣れてもらいたい。				
学 生 に 対 す る 評 価	期末試験(100%)。加点措置として小テスト等を実施する場合もある。				
教 科 書 (購 入 必 須)	なし。毎回パワーポイントとハンドアウトで講義をおこなう。各自しっかりノートをとること。				
参 考 書 (購 入 任 意)	独習用のテキストとして、以下を紹介する。 ・渋谷秀樹『憲法を読み解く』(有斐閣、2021) ・デイリー法学選書編修委員会編『ピンポイント憲法』(三省堂、2018) ・中村睦男編著『はじめての憲法学 第3版』(三省堂、2015) ・棟居快行ほか『基本的人権の事件簿 第6版』(有斐閣、2019)：旧版も参照。 そのほか、参考文献を適宜紹介する。				

科 目 名	ソーシャルインクルージョン論				
担 当 教 員 名	堀 智久				
学 年 配 当	3 年	単 位 数	2 単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	前期	必修選択	選択	資 格 要 件	
実務経験及び 授 業 内 容					
学 習 到 達 目 標	<p>ソーシャルインクルージョンとは、これまで何らかの理由で社会から排除されてきた人、たとえば、障害者や貧困層、高齢者、女性、移民など、社会的不利益を被るすべての人を社会が包摂するという意味である。たとえば、障害者領域では、2006 年に障害者権利条約が成立し（日本も 2014 年に批准）、その第 3 条「一般原則」では「社会への完全かつ効果的な参加及びインクルージョン」が掲げられている。本講義では、とくに障害者領域を議論の出発点として、障害の社会モデルの考え方やインクルージョンの視点、さらには、障害者に限らず、能力という面において不利な立場に置かれている人が、つつがなく生きていける社会とはどのような社会か。近年問題になっている若者の失業問題や高齢者、女性、移民等の貧困問題等について検討を行い、多角的かつ複眼的な視点から社会的排除について議論を深めていくことをねらいとする。</p>				
授 業 の 概 要	<p>授業の計画にあるように、前半では、障害の社会モデルや障害者権利条約に見られるインクルージョンの視点など、障害と社会の関係性について、多角的かつ複眼的な視点から学習する。後半では、障害者に限らず、若者、高齢者、女性、移民問題など、貧困や社会的排除について議論を行い、誰もがつつがなく生きていける社会はいかにして構想され得るのかについて、複眼的な視点から考察を深めていく。</p>				
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンス 2 社会的排除とは何か 3 障害をどう捉えるのか、社会モデルの考え方 4 障害者権利条約におけるインクルージョンの視点 5 障害者基本法・障害者差別解消法におけるインクルージョンの視点 6 インクルーシブ教育とは何か 7 インクルーシブ教育と日本の特別支援教育の違い 8 戦後日本の社会保障制度システム 9 貧困と社会的排除 10 若者、高齢者、女性、移民問題と社会的排除 11 ケア労働 12 複合差別 13 機会の平等と結果の平等 14 メリトクラシーとハイパーメリトクラシー 15 ベーシックインカム (basic income) 				
授 業 の 留 意 点	配布資料の自己管理をしっかりと行うこと。必ず復習しましょう。				
学 生 に 対 す る 評 価	リアクションペーパー（40 点）、レポート課題（30 点）、期末試験（30 点）				
教 科 書 (購 入 必 須)	テキストについては別途周知する。また、毎回、関連する資料を配布する。				
参 考 書 (購 入 任 意)					

科 目 名	医療福祉論				
担 当 教 員 名	榊原 次郎				
学 年 配 当	3 年	単 位 数	2 単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	前期	必修選択	選択	資 格 要 件	
実務経験及び 授 業 内 容					
学 習 到 達 目 標	①ソーシャルワーク実践において必要となる保健医療の動向を学び、保健医療に係る政策、制度、サービスについて、福祉との関係性を含め理解する。 ②保健医療領域における社会福祉士の役割と、連携や協働について理解し、保健医療の中で疾病や疾病に伴う課題を持つ人に対する、社会福祉士としての適切な支援のあり方を習得する。				
授 業 の 概 要	保健医療福祉を学ぶ者にとって、医療現場における医療ソーシャルワーカー（MSW）の業務を理解しておくことは、活用できるフォーマルな社会資源やその連携の実際を知ることにつながる。病院だけでなく、クリニックや在宅医療等地域の中に存在する MSW の具体的実践内容を知り、各種実習や社会生活で活用できる基礎となるよう受講者と応答的に展開したい。				
授 業 の 計 画	1 保健医療サービスの変化と社会福祉専門職の役割 2 疾病構造の変化に伴う保健医療の動向 3 保健医療における福祉的課題 4 保健医療の課題を持つ人（病者および家族）の理解 5 医療倫理と保健医療に係る倫理的課題 6 患者の権利と保健医療における意思決定支援 7 保健医療サービスを提供する施設とシステム（地域医療計画・医療施設・保健所の役割） 8 保健医療に係る政策・制度（医療保険制度・診療報酬制度） 9 介護保険制度と地域包括ケア 10 保健医療における社会福祉士の役割 11 医療ソーシャルワーカー業務指針（業務の範囲と方法） 12 保健医療における専門職と多職種連携実践（IPW） 13 地域の関係機関との連携・協働 14 医療ソーシャルワーカーの支援事例（入院中・退院時・災害現場における支援） 15 医療ソーシャルワーカーの支援事例（外来・在宅医療・終末期ケアにおける支援）				
授 業 の 留 意 点	保健医療福祉領域の広がりや連携の重要な役割を果たす医療ソーシャルワークの業務について、保健医療サービスの現状について関心を持ち、予習復習に努めること。 毎回授業終了時にリアクションペーパーの提出を求める。				
学 生 に 対 す る 評 価	各回のリアクションペーパー（30 点）、定期試験（70 点）によって、総合的に評価する。				
教 科 書 （購入必須）	日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集『最新 社会福祉士養成講座 5、保健医療と福祉』（中央法規）				
参 考 書 （購入任意）	参考書については別途指示する。				

科 目 名	看護学概論				
担 当 教 員 名	畑瀬 智恵美				
学 年 配 当	1 年	単 位 数	2 単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	前期	必修選択	必修	資 格 要 件	
実 務 経 験 及 び 授 業 内 容	看護師として実務経験を持つ教員が、看護の本質、看護学の学問特性、職業的看護の歴史的経緯・法的基礎、社会のニーズと看護の機能など、実践学を成立させる基本的要素について教授する科目				
学 習 到 達 目 標	1. 看護とは何かについて説明できる。 2. 看護学の構成要素である看護、人間、健康、環境の概念および概念間の関連性について説明できる。 3. 看護理論の複数のキーワードについて説明できる。 4. 保健医療福祉分野における看護の役割について説明できる。 5. 看護における倫理の重要性について説明できる。				
授 業 の 概 要	看護の本質、看護学の学問特性、職業的看護の歴史的経緯・法的基礎、社会のニーズと看護の機能など、実践学を成立させる基本的要素について理解する。そのために中心的な看護概念を把握し、主な看護理論を学ぶ。また、近年の保健医療福祉分野における看護職の役割と機能を理解する。さらに、看護の対象者である人間を理解するための倫理的態度やケアリングを学び、看護職としての看護観を培う。				
授 業 の 計 画	1 オリエンテーション、看護の変遷ー看護の原点、看護の語源 2 看護の変遷ー看護の歴史 3 「看護覚え書」からナイチンゲールの述べる看護について グループでまとめる 4 看護学の主要概念 看護とは 5 看護学の主要概念 看護の対象である人間 6 看護学の主要概念 看護における健康、人間と環境の関係 7 ナイチンゲール「看護覚え書」講読の発表 8 看護理論の変遷と概要 9 看護理論の講読（グループワーク） 10 職業的看護の発展 11 看護の役割と機能 12 看護制度と政策、看護サービス 13 看護における倫理・法 14 看護理論の講読（グループワーク） 発表資料作成 15 看護理論の講読（グループ発表）				
授 業 の 留 意 点	看護に関するさまざまな文献を読むなど積極的に学習し、「看護とは何か」について、主体的に考えていきましょう。また、グループワークの際は協力し合ひましょう。 事前課題に示したものは、授業までにまとめましょう。 授業で配布した資料やグループでまとめた資料は、ファイリングしてください。				
学 生 に 対 す る 評 価	定期試験 80 点と提出物 20 点の合計点で評価します。尚、試験 6 割（48 点）以上、提出物 6 割（12 点）以上を取得した場合に合格となります。 以上、試験、提出物のすべての合格により単位は認定されます。				
教 科 書 （ 購 入 必 須 ）	①茂野香おる代表：系統看護学講座 専門分野Ⅰ基礎看護学[1] 看護学概論、第 17 版、医学書院 ②フローレンス・ナイチンゲール著『看護覚え書』（改訳第 7 版）現代社 ③ヘンダーソン.V（湯楨ます・小玉香津子訳）：看護の基本となるもの、日本看護協会出版会				
参 考 書 （ 購 入 任 意 ）	・城ヶ端初子編：新訂版 実践に生かす看護理論 19、サイオ出版				

科 目 名	看護技術論				
担 当 教 員 名	畑瀬 智恵美				
学 年 配 当	1 年	単 位 数	1 単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	前期	必修選択	必修	資 格 要 件	
実 務 経 験 及 び 授 業 内 容	看護師として臨床経験を持つ教員が、看護の対象となる人々へ安全で、安楽な、そして自立を促すことを目指した目的意識的な行為である看護技術の特徴について教授する科目				
学 習 到 達 目 標	1. 看護技術の特徴について説明することができる。 2. 看護技術における安全性・安楽性・自立支援について説明することができる。 3. 科学的根拠に基づいた看護を展開する技術について説明することができる。 4. 看護の専門性と看護技術の発展について説明することができる。 5. 看護技術の修得過程における課題を述べるることができる。				
授 業 の 概 要	看護の対象となる人々へ安全で、安楽な、そして自立を促すことを目指した目的意識的な行為である看護技術の特徴について理解する。看護技術は、科学的根拠に基づいて、個別性を重視して実践されること、看護技術の修得過程における課題について考察していく。				
授 業 の 計 画	1 看護技術の特徴 2 看護技術の特徴：サイエンスでありアートであるという意味について 3 看護技術の要素：安全性、安楽性、自立支援 4 看護技術の要素：グループワーク 5 看護技術の要素：グループワークの発表 6 看護技術と看護過程 7 看護技術と看護理論 8 看護の専門性と看護技術の発展				
授 業 の 留 意 点	授業で提示した参考資料は熟読しましょう。 事前課題に示したものは、授業までにまとめましょう。 授業で配布した資料やグループでまとめた資料は、ファイリングしてください。 グループワークでは、メンバーの考えをきいて、学習を深めてください。				
学 生 に 対 す る 評 価	定期試験 80 点と提出物 20 点の合計点で評価します。尚、試験 6 割（48 点）以上、提出物 6 割（12 点）以上を取得した場合に合格となります。 以上、試験、提出物のすべての合格により単位は認定されます。				
教 科 書 (購 入 必 須)	深井喜代子編：基礎看護技術 I、メヂカルフレンド社				
参 考 書 (購 入 任 意)	授業中に提示する。				

科 目 名	看護共通技術 I				
担 当 教 員 名	鈴木 朋子・岩田 直美				
学 年 配 当	1 年	単 位 数	1 単位	開 講 形 態	演習
開 講 時 期	前期	必修選択	必修	資 格 要 件	
実 務 経 験 及 び 授 業 内 容	看護師として臨床経験を持つ教員が、看護実践に必要な感染予防技術、安全管理技術、安楽促進技術を教授する科目				
学 習 到 達 目 標	1. 看護実践の基本となる感染予防技術、安全管理技術、安楽促進技術について、科学的根拠を踏まえて説明することができる。 2. 看護実践に共通する感染予防技術、安楽促進技術に関する基本的な看護技術を実施できる。				
授 業 の 概 要	看護の目的を達成させるための看護技術は、専門職としての能力の中核を成す。本講義においては、看護実践に共通して必要な感染予防技術、安全管理技術、安楽促進技術の目的・方法・留意点・科学的根拠を学ぶ。その技術が提供される対象の臨床判断ができるよう、基礎を学習する。同時にそれらに伴う倫理的判断についても学ぶ。				
授 業 の 計 画	1 オリエンテーション、感染予防技術（感染予防の原則、スタンダードプリコーション） 2 感染予防技術（感染経路別予防策、感染源対策、無菌操作） 3 感染予防技術の実際：手洗い、個人防護用具の装着① 4 感染予防技術・スタンダードプリコーション（認定看護師） 5 安楽促進技術（安楽の概念、体位保持、ボディメカニクス） 6 安楽促進技術（安楽をもたらす看護技術） 7-8 安楽促進技術の実際：ボディメカニクスの基本、安楽な体位、体位変換 9 安楽促進技術の実際：温罨法、冷罨法 10-11 病院見学 12-13 感染予防技術の実際：消毒、滅菌、個人防護用具の装着② 14 安全管理技術（看護における安全、ヒューマンエラー） 15 安全管理技術（転倒転落事故、誤薬、患者誤認）				
授 業 の 留 意 点	この科目は講義、事前学習、演習、事後学習で構成されています。したがって講義を受けた上で、事前学習を個々に行い、演習に臨み、事後学習としてリフレクションを行ってください。 学生個々が主体的な学習を繰り返して、看護技術を習得していく必要があります。 授業で配布した資料や自己学習したものは、ファイリングしてください。 看護技術演習は、実習室を病室・療養の場として設定していますので、主体的な参加とともに、援助にふさわしい言葉遣いや身だしなみを整えることも学び、少しずつ看護職者に近づいていきましょう。 提示された課題について個人学習をして授業に臨みましょう。 また、グループワークなどを通して、自分自身の考えを深めていけるようにしましょう。				
学 生 に 対 す る 評 価	定期試験 80 点と提出物 20 点の合計点で評価します。なお、試験 6 割（48 点）以上、提出物 6 割（12 点）以上を取得した場合に合格となります。 以上、試験、提出物のすべての合格により単位は認定されます。				
教 科 書 (購 入 必 須)	①深井喜代子編：基礎看護技術 I、メヂカルフレンド社 ②任和子・井川順子・秋山智弥編：基礎・臨床看護技術、第 3 版、医学書院				
参 考 書 (購 入 任 意)	・吉田みつ子・本庄恵子監修：写真でわかる基礎看護技術、インターメディカ				

科 目 名	看護共通技術Ⅱ				
担 当 教 員 名	鈴木 朋子・齋藤 千秋				
学 年 配 当	1 年	単 位 数	1 単位	開 講 形 態	演習
開 講 時 期	後期	必修選択	必修	資 格 要 件	
実 務 経 験 及 び 授 業 内 容	看護師として臨床経験を持つ教員が、看護実践に必要なコミュニケーション技術、終末期における援助を教授する科目				
学 習 到 達 目 標	1. コミュニケーションについて説明できる。 2. 看護場面における効果的なコミュニケーション技法について実施できる。 3. 援助的なコミュニケーションについて自己の課題を説明できる。 4. 死の看取りにおける技術の目的、留意点、方法について説明できる。				
授 業 の 概 要	1. 看護の基本となる援助的人間関係の構築について学ぶ。コミュニケーション理論を基礎に、コミュニケーションに必要な技法を体験的に学ぶ。ロールプレイングを通して、自己のコミュニケーションの傾向や援助者としてのコミュニケーションスキルをリフレクションし、自己の課題を見出す。 2. 終末期における援助を学ぶ。				
授 業 の 計 画	1 オリエンテーション、コミュニケーション技術 2 看護職として必要な接遇・マナー 3 看護職として必要な接遇・マナーの実際 4 コミュニケーション技術（看護師と患者の関係、対人関係の成立に不可欠な要素） 5 コミュニケーション技術（コミュニケーションの構成要素と成立過程） 6 コミュニケーション技術（効果的なコミュニケーションの実際） 7 コミュニケーション技術の実際（自身のコミュニケーションを振り返る） 8 コミュニケーション技術の実際（伝える・伝わる経験） 9 コミュニケーション技術の実際（ロールプレイ） 10 コミュニケーション技術の実際（動画を視聴し、グループワーク） 11 コミュニケーション技術の実際（看護場面の再構成） 12 コミュニケーション技術の実際（看護場面の再構成をもとにグループワーク） 13 コミュニケーション技術（自己課題の明確化） 14 死の看取りの技術（悲嘆へのケア） 15 死の看取りの技術（死後のケア）				
授 業 の 留 意 点	この科目は講義、事前学習、演習、事後学習で構成されています。したがって講義を受けた上で、事前学習を個々に行い、演習に臨み、事後学習としてリフレクションを行ってください。 学生個々が主体的な学習を繰り返して、看護技術を習得していく必要があります。 授業で配布した資料や自己学習したものは、ファイリングしてください。 看護技術演習は、実習室を病室・療養の場として設定していますので、主体的な参加とともに、援助にふさわしい言葉遣いや身だしなみを整えることも学び、少しずつ看護職者に近づいていきましょう。 提示された課題について個人学習をして授業に臨みましょう。 また、グループワークなどを通して、自分自身の考えを深めていけるようにしましょう。				
学 生 に 対 す る 評 価	定期試験 80 点と提出物 20 点の合計点で評価します。尚、試験 6 割（48 点）以上、提出物 6 割（12 点）以上を取得した場合に合格となります。 以上、試験、提出物のすべての合格により単位は認定されます。				
教 科 書 （ 購 入 必 須 ）	①深井喜代子編：基礎看護技術Ⅰ、メヂカルフレンド社 ②任和子・井川順子・秋山弥弥編：基礎・臨床看護技術、第2版、医学書院				
参 考 書 （ 購 入 任 意 ）					

科 目 名	基礎看護技術 I				
担 当 教 員 名	岩田 直美・畑瀬 智恵美・齋藤 千秋				
学 年 配 当	1 年	単 位 数	1 単位	開 講 形 態	演習
開 講 時 期	前期	必修選択	必修	資 格 要 件	
実 務 経 験 及 び 授 業 内 容	看護師として臨床経験を持つ教員が、基本的な生活援助技術である環境調整、活動と休息、栄養と食生活の根拠を考えるとともに、その技術が提供される対象の臨床経過を考慮した援助方法を考え実践できるための基盤を教授する科目				
学 習 到 達 目 標	1. 看護における環境調整の意義およびその援助方法について説明できる。 2. 人間にとっての活動と休息の意義とアセスメントの視点およびその援助方法について説明できる。 3. 人間にとっての栄養と食事の意義とアセスメントの視点およびその援助方法について説明できる。 4. 環境調整、活動と休息、栄養と食事に関する基本的な看護技術を実施できる。				
授 業 の 概 要	看護の目的を達成させるための看護技術は、専門職としての能力の中核を成す。本講義においては、基本的な生活援助技術である環境調整、活動と休息、栄養と食生活の援助技術の目的・方法・留意点・科学的根拠を学ぶ。その技術が提供される対象の臨床判断ができるように、実践できるための基盤を学習する。				
授 業 の 計 画	1 オリエンテーション、環境調整技術 2 環境調整技術 3 活動・休息援助技術 4 活動・休息援助技術・廃用症候群の予防（認定看護師） 5-6 環境調整技術の実際：ベッドメイキング 7 食生活と栄養摂取の技術 8-9 食生活と栄養摂取の技術の実際：食事の援助・口腔ケア 10-11 技術試験（ベッドメイキング） 12-13 環境調整技術の実際：リネン交換 14-15 活動・休息援助技術の実際：車椅子・ストレッチャーの移乗・移送				
授 業 の 留 意 点	この科目は講義、事前学習、演習、事後学習で構成されています。したがって講義を受けた上で、事前学習を個々に行い、演習に臨み、事後学習としてリフレクションを行ってください。 学生個々が主体的な学習を繰り返して、看護技術を修得していく必要があります。自己学習として、看護技術項目に対して看護技術実践ノート（目的、実施内容・手順、根拠、留意点他）を作成して、演習に臨んで下さい。 授業で配布した資料や自己学習したものは、ファイリングしてください。 看護技術演習は、実習室を病室・療養の場として設定していますので、主体的な参加とともに、援助にふさわしい言葉づかいや身だしなみを整えることも学び、少しずつ看護職者に近づいていきましょう。				
学 生 に 対 す る 評 価	定期試験 60 点、技術試験 20 点、提出物 20 点の合計点で評価します。尚、試験 6 割（36 点）以上、技術試験 6 割（12 点）以上、提出物 6 割（12 点）以上を取得した場合に合格となります。以上、試験、提出物のすべての合格により単位は認定されます。				
教 科 書 （ 購 入 必 須 ）	①深井喜代子編：基礎看護技術 I、メヂカルフレンド社 ②深井喜代子編：基礎看護技術 II、メヂカルフレンド社 ③任和子・井川順子・秋山智弥編：基礎・臨床看護技術、第 2 版、医学書院				
参 考 書 （ 購 入 任 意 ）	・吉田みつ子・本庄恵子監修：写真でわかる基礎看護技術、インターメディカ				

科 目 名	基礎看護技術Ⅱ				
担 当 教 員 名	齋藤 千秋・岩田 直美				
学 年 配 当	1 年	単 位 数	1 単位	開 講 形 態	演習
開 講 時 期	後期	必修選択	必修	資 格 要 件	
実務経験及び授業内容	看護師として臨床経験を持つ教員が、基本的な生活援助技術である排泄、清潔の根拠を考えるとともに、その技術が提供される対象の臨床経過を考慮した援助方法を考え実践できるための基盤を教授する科目				
学習到達目標	1. 人間にとっての清潔・衣生活の意義とアセスメントの視点およびその援助方法について説明できる。 2. 人間にとっての排泄の意義とアセスメントの視点およびその援助方法について説明できる。 3. 清潔、排泄に関する基本的な看護技術を実施できる。				
授業の概要	看護の目的を達成させるための看護技術は、専門職としての能力の中核を成す。本講義においては、基本的な生活援助技術である排泄、清潔の援助技術の目的・方法・留意点・科学的根拠を学ぶ。その技術が提供される対象の臨床判断ができるように、実践できるための基盤を学習する。				
授業の計画	1 オリエンテーション、清潔・衣生活の援助技術：清潔の意義、入浴 2-3 清潔・衣生活の援助技術の実際：足浴 4 清潔・衣生活の援助技術：部分浴、清拭、洗髪 5-6 清潔・衣生活の援助技術の実際：全身清拭・寝衣交換 7-8 清潔・衣生活の援助技術の実際：洗髪 9 排泄援助技術：排泄の意義、尊厳を踏まえた援助の基本 10 技術試験 11-12 排泄援助技術の実際：ベッド上の排泄介助・おむつ交換・陰部洗浄 13 排泄援助技術：排泄障害と、処置が必要な患者への援助 14-15 排泄援助技術の実際：導尿・浣腸				
授業の留意点	この科目は講義、事前学習、演習、事後学習で構成されています。したがって講義を受けた上で、事前学習を個々に行い、演習に臨み、事後学習としてリフレクションを行ってください。 学生個々が主体的な学習を繰り返して、看護技術を修得していく必要があります。自己学習として、看護技術項目に対して看護技術実践ノート（目的、実施内容・手順、根拠、留意点他）を作成して、演習に臨んで下さい。 授業で配布した資料や自己学習したものは、ファイリングしてください。 看護技術演習は、実習室を病室・療養の場として設定していますので、主体的な参加とともに、援助にふさわしい言葉づかいや身だしなみを整えることも学び、少しずつ看護職者に近づいていきましょう。				
学生に対する評価	定期試験 70 点、技術試験 20 点、提出物 10 点の合計点で評価します。尚、試験 6 割（42 点）以上、技術試験 6 割（12 点）以上、提出物 6 割（6 点）以上を取得した場合に合格となります。以上、試験、提出物のすべての合格により単位は認定されます。				
教科書（購入必須）	①深井喜代子編：基礎看護技術Ⅰ、メヂカルフレンド社 ②深井喜代子編：基礎看護技術Ⅱ、メヂカルフレンド社 ③任和子・井川順子・秋山智弥編：基礎・臨床看護技術、第2版、医学書院				
参考書（購入任意）	・吉田みつ子・本庄恵子監修：写真でわかる基礎看護技術、インターメディカ				

科 目 名	基礎看護技術Ⅲ				
担 当 教 員 名	鈴木 朋子・齋藤 千秋・岩田 直美				
学 年 配 当	2 年	単 位 数	1 単位	開 講 形 態	演習
開 講 時 期	前期	必修選択	必修	資 格 要 件	
実 務 経 験 及 び 授 業 内 容	看護師として臨床経験を持つ教員が、検査・診療を受ける看護の対象に、身体侵襲の大きい援助技術を教授する科目				
学 習 到 達 目 標	1. 診療に伴う援助技術における看護師の役割を説明できる。 2. 栄養、呼吸・循環、創傷管理 に関する看護技術について、安全・安楽を配慮した援助方法について説明できる。 3. 栄養、呼吸・循環、創傷管理 に関する看護技術を安全・安楽で確実に実施できる。 4. 紙上事例を用いて、看護過程を展開することができる。				
授 業 の 概 要	検査、診療を受ける看護の対象に、必要な基本的知識と援助技術、支援・相談的技術を講義・演習により修得する。基本的な援助技術の目的・方法・留意点・科学的根拠を学ぶ。その技術が提供される対象の臨床判断ができるよう、基礎を学習する。同時にそれらに伴う倫理的判断についても学ぶ。				
授 業 の 計 画	1 オリエンテーション、栄養摂取の援助技術 2 栄養摂取の援助技術の実際：経鼻胃チューブ経管栄養法 3 栄養摂取の援助技術・摂食嚥下障害看護（認定看護師） 4-5 呼吸・循環を整える技術（姿勢・呼吸法、酸素吸入療法、吸入療法、気道分泌物排出の方法） 6 呼吸・循環を整える技術（胸腔ドレナージ、人工呼吸療法、末梢循環促進の援助） 7 呼吸・循環を整える技術の実際：酸素吸入、気道内加湿法、口腔内・鼻腔内吸引、弾性ストッキング 8 創傷管理技術 9 創傷管理技術の実際：創傷処置、包帯法 10 創傷管理技術・褥瘡予防のためのケア（認定看護師） 11-12 看護過程演習：アセスメント 13 看護過程演習：看護上の問題の特定 14 看護過程演習：計画立案 15 看護過程演習：実施・評価				
授 業 の 留 意 点	この科目は講義、事前学習、演習、事後学習で構成されています。したがって講義を受けた上で、事前学習を個々に行い、演習に臨み、事後学習としてリフレクションを行ってください。 学生個々が主体的な練習を繰り返して、看護技術を修得していく必要があります。自己学習として、看護技術項目に対して、看護技術実践ノート（目的、実施内容・手順、根拠、留意点他）を作成して、演習に臨んでください。 授業で配布した資料や自己学習したものは、ファイリングしてください。 看護技術演習は、実習室を病室・療養の場として設定していますので、主体的な参加とともに、援助にふさわしい言葉づかいや身だしなみを整えることも学び、少しずつ看護職者に近づいていきましょう。 事例検討では、提示された課題について個人学習をして授業に臨み、グループワークなどを通して学びを深めましょう。				
学 生 に 対 す る 評 価	定期試験 70 点、看護過程レポート 20 点、提出物 10 点の合計点で評価します。尚、試験 6 割（42 点）以上、看護過程レポート 6 割（12 点）以上、提出物 6 割（6 点）以上を取得した場合に合格となります。 以上、試験、看護過程レポート、提出物のすべての合格により単位は認定されます。				
教 科 書 （ 購 入 必 須 ）	①深井喜代子編：基礎看護技術Ⅱ、メヂカルフレンド社 ②任和子・井川順子・秋山智弥編：基礎・臨床看護技術、医学書院				
参 考 書 （ 購 入 任 意 ）	・本庄恵子・吉田みつ子監修：写真でわかる臨床看護技術Ⅰ、インターメディカ ・高木永子監修：看護過程に沿った対象看護、第 4 版、学研 ・松尾ミヨ子・志自岐康子・城生弘美編：ヘルスアセスメント、メディカ出版				

科 目 名	基礎看護技術Ⅳ				
担 当 教 員 名	鈴木 朋子・畑瀬 智恵美・岩田 直美				
学 年 配 当	2 年	単 位 数	1 単位	開 講 形 態	演習
開 講 時 期	後期	必修選択	必修	資 格 要 件	
実務経験及び授業内容	看護師として臨床経験を持つ教員が、検査、診療を受ける看護の対象に、身体侵襲の大きい援助技術を教授する科目				
学習到達目標	1. 生命の危機状態と救命救急処置の意義および看護師の役割を説明できる。 2. 救命救急処置を確実に実施できる。 3. 検査の基本的な知識および看護師の役割と検査時の看護における留意事項について説明できる。 4. 血液検査の静脈血採血の基本的な知識を踏まえ、安全で確実に実施できる。 5. 与薬に関する基本的な知識および看護師の役割、留意事項について説明できる。 6. 注射法の基本的な知識を踏まえ、安全で確実に実施できる。 7. 輸血法に関する基本的な知識および留意事項について説明できる。				
授業の概要	検査、診療を受ける看護の対象に、必要な基本的知識と援助技術を講義・演習により修得する。基本的な援助技術の目的・方法・留意点・科学的根拠を学ぶ。その技術が提供される対象の臨床判断ができるよう、基礎を学習する。同時にそれらに伴う倫理的判断についても学ぶ。				
授業の計画	1 オリエンテーション、救命救急処置 2 救命救急処置の実際：名寄消防署救急隊員 3 検査・治療に関わる技術（検体の採取と扱い方、尿・便検査 他） 4 検査・治療に関わる技術（血液検査、血液検体の取り扱い） 5-6 検査・治療に関わる技術の実際：静脈血採血 7 与薬の技術（薬理作用、薬物療法、経口与薬） 8 与薬の技術（外用薬の与薬法） 9 与薬の技術（皮下・皮内・筋肉内注射） 10 与薬の技術の実際：注射器・注射針の取り扱い、薬剤の準備 11-12 与薬の技術の実際：皮下・筋肉内注射 13 与薬の技術（静脈内注射・点滴静脈注射、輸血療法） 14-15 与薬の技術の実際：静脈内注射・点滴静脈注射				
授業の留意点	この科目は講義、事前学習、演習、事後学習で構成されています。したがって講義を受けた上で、事前学習を個々に行い、演習に臨み、事後学習としてリフレクションを行ってください。 学生個々が主体的な学習を繰り返して、看護技術を習得していく必要があります。 授業で配布した資料や自己学習したものは、ファイリングしてください。 看護技術演習は、実習室を病室・療養の場として設定していますので、主体的な参加とともに、援助にふさわしい言葉遣いや身だしなみを整えることも学び、少しずつ看護職者に近づいていきましょう。 提示された課題について個人学習をして授業に臨みましょう。 また、グループワークなどを通して、自分自身の考えを深めていけるようにしましょう。				
学生に対する評価	定期試験 90 点と提出物 10 点の合計点で評価します。尚、試験 6 割（54 点）以上、提出物 6 割（6 点）以上を取得した場合に合格となります。 以上、試験、提出物のすべての合格により単位は認定されます。				
教科書（購入必須）	①深井喜代子編：基礎看護技術Ⅱ、メヂカルフレンド社 ②任和子・井川順子・秋山智弥編：基礎・臨床看護技術、医学書院				
参考書（購入任意）	・本庄恵子・吉田みつ子監修：写真でわかる臨床看護技術Ⅰ、インターメディカ ・高木永子監修：看護過程に沿った対象看護、第4版、学研 ・松尾ミヨ子・志自岐康子・城生弘美編：ヘルスアセスメント、メディカ出版				

科 目 名	ヘルスアセスメント				
担 当 教 員 名	岩田 直美・畑瀬 智恵美				
学 年 配 当	1 年	単 位 数	1 単位	開 講 形 態	演習
開 講 時 期	後期	必修選択	必修	資 格 要 件	
実 務 経 験 及 び 授 業 内 容	看護師として実務経験を持つ教員が、フィジカルアセスメントの基本技術と系統的な知識と技術を身につけるための、具体的な看護援助を教授する科目				
学 習 到 達 目 標	1. ヘルスアセスメントの概念と意義について説明できる。 2. ヘルスアセスメントの一つであるフィジカルアセスメントの基本技術（問診・視診・触診・打診・聴診）について説明できる。 3. バイタルサインの基本的な知識と正確な測定方法について説明できる。 4. バイタルサイン測定を正確に実施できる。 5. 系統的フィジカルアセスメントの基本的な知識と方法について説明できる。 6. 系統的フィジカルアセスメントの方法を実施できる。				
授 業 の 概 要	ヘルスアセスメントとは、対象者が身体的に、心理・社会的に健康であるといえるかどうか、健康問題があるとすればその要因は何かを明らかにする行為である。フィジカルアセスメントの基本技術（問診・打診・聴診・視診・触診）と系統的な知識と技術を身につけ、臨床判断やコミュニケーション技術を用い具体的な看護援助を見出ししていく。				
授 業 の 計 画	1 オリエンテーション、ヘルスアセスメントとは、フィジカルアセスメントにおける技術（問診・視診・触診・打診・聴診） 2-3 バイタルサイン測定（体温、脈拍、呼吸、血圧、意識） 4-5 バイタルサイン測定の実際：体温、脈拍、呼吸、血圧 6 技術試験：バイタルサイン測定 7 系統的フィジカルアセスメント：呼吸器系 8 系統的フィジカルアセスメントの実際：呼吸器系 問診・視診・触診・打診・聴診 9 系統的フィジカルアセスメント：循環器系 10 系統的フィジカルアセスメント：腹部 11 系統的フィジカルアセスメントの実際：循環器系・腹部 問診・視診・触診・打診・聴診 12 系統的フィジカルアセスメントの実際：事例についてのアセスメント演習 13 系統的フィジカルアセスメント：皮膚・リンパ系、排泄系（認定看護師） 14 系統的フィジカルアセスメント：運動系・脳神経系（認定看護師） 15 系統的フィジカルアセスメント：感覚器系（認定看護師）				
授 業 の 留 意 点	この科目は、講義、事前学習、演習、事後学習で構成されています。したがって、講義を受けた上で、事前学習、演習に臨み、事後学習として、リフレクションを行ってください。 学生個々が主体的に練習を繰り返して看護技術を修得していく必要があります。 自己学習として、看護技術実践ノート（目的、実施内容・手順、根拠、留意点他）を作成して、演習に臨んで下さい。 授業で配布した資料や自己学習したものは、ファイリングしてください。 看護技術演習は、実習室を病室・療養の場として設定していますので、主体的な参加とともに、援助にふさわしい言葉づかいや身だしなみを整えることも学び、少しずつ看護職者に近づいていきましょう。				
学 生 に 対 す る 評 価	定期試験 70 点、技術試験 20 点、提出物 10 点の合計点で評価します。尚、試験 6 割（42 点）以上、技術試験 6 割（12 点）以上、提出物 6 割（6 点）以上を取得した場合に合格となります。 以上、試験、提出物のすべての合格により単位は認定されます。				
教 科 書 (購 入 必 須)	①横山美樹：はじめてのフィジカルアセスメント、メヂカルフレンド社 ②任和子・井川順子・秋山智弥編：基礎・臨床看護技術、医学書院				
参 考 書 (購 入 任 意)	・田中裕二編：わかって身につくバイタルサイン、学研 ・藤野智子監修：基礎と臨床をつなげるバイタルサイン、学研 ・松尾ミヨ子・志自岐康子・城生弘美編：ヘルスアセスメント、メディカ出版 ・守田美奈子監修：写真わかる看護のためのフィジカルアセスメント、インターメディカ				

科 目 名	看護過程演習				
担 当 教 員 名	齋藤 千秋				
学 年 配 当	1 年	単 位 数	1 単位	開 講 形 態	演習
開 講 時 期	後期	必修選択	必修	資 格 要 件	
実 務 経 験 及 び 授 業 内 容	看護師として実務経験を持つ教員が、看護実践に必要な看護過程の展開技術を教授する科目				
学 習 到 達 目 標	1. 看護実践における看護過程の意義および看護過程の構成要素を説明できる。 2. 紙上事例を用いて、科学的根拠・臨床判断を基に、対象者のニーズや看護上の問題を明らかにし、対象者の目標とそれを達成するための看護ケアを具体的に立案できる。 3. 対象者の安全・安楽・自立を考慮した個別的な看護ケアを模擬実施し、評価できる。 4. 計画立案・看護ケア実施において、コミュニケーション技術、倫理的判断や行動についてリフレクションできる。				
授 業 の 概 要	看護における看護過程の意義を理解し、クリティカルシンキングとリフレクションを用いながら、看護上の問題を解決するために論理的看護実践ツールとしての看護課程を学ぶ。紙上事例を用いて、科学的根拠・臨床判断に基づくアセスメントを行い、看護上の問題の特定、目標の設定、計画立案、実施、評価について学ぶ。さらに、対象者の安全・安楽・自立を考慮した個別的看護ケアを模擬実施する過程においては、コミュニケーション技術、倫理的判断に基づいた行動を併せて学ぶ。個人学習、グループ学習、発表会による学びの共有、模擬実施と評価から、看護実践の過程を学ぶ。				
授 業 の 計 画	1 看護過程の展開技術 2 ゴードンの 11 の機能的健康パターン 3 アセスメント：健康知覚-健康管理パターン 4 アセスメント：栄養-代謝パターン、排泄パターン 5 アセスメント：活動-運動パターン、睡眠-休息パターン 6 アセスメント：認知-知覚パターン、自己知覚-自己概念パターン 7 アセスメント：セクシュアリティ-生殖パターンなど 8 看護上の問題の特定 9 関連図・全体像 10 計画 11 実施・評価 12 紙上事例の計画立案 13 看護記録 14 紙上事例の計画に基づく実践 15 紙上事例の記録と評価				
授 業 の 留 意 点	看護過程の展開技術は、生活援助技術のアセスメントや基礎看護学実習Ⅱで実際に活用します。提示された課題について個人学習をして授業に臨みましょう。またグループワークなどを通して自分自身の考えを深めていけるにしましょう。				
学 生 に 対 す る 評 価	定期試験 40 点と看護過程レポート 40 点および提出物 20 点の合計点で評価します。尚、定期試験 6 割（24 点）以上、看護過程レポート 6 割（24 点）以上、提出物 6 割（12 点）以上を取得した場合に合格となります。以上、定期試験、看護過程レポート、提出物の全ての合格により単位は認定されます。				
教 科 書 (購 入 必 須)	① 深井喜代子編：基礎看護技術Ⅰ、メヂカルフレンド社 ② 渡邊トシ子編：ヘンダーソン・ゴードンの考えに基づく看護実践アセスメント、第 3 版、ヌーヴェルヒロカワ				
参 考 書 (購 入 任 意)					

科 目 名	地域看護学概論				
担 当 教 員 名	播本 雅津子・伊藤 亜希子				
学 年 配 当	1 年	単 位 数	2 単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	後期	必修選択	必修	資 格 要 件	
実 務 経 験 及 び 授 業 内 容	保健所保健師の経験を持つ教員と、市町村保健師と病院看護師の経験を持つ教員が担当する。地域看護の歴史の変遷およびその定義や理念、目的を学ぶ。様々な場における地域看護活動とその特徴を知り、地域看護の機能と役割について学習する。				
学 習 到 達 目 標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域看護の概念と機能を理解し、健康の保持増進と疾病予防における看護の役割を知る。 ・ 地域における看護職の活動および求められる役割について説明できる。 ・ 在宅ケアにおける看護職の活動および求められる役割について説明できる。 				
授 業 の 概 要	地域包括ケアの時代に応じた地域看護および在宅ケアの視点や方法を学ぶ				
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 地域看護学の概念と機能 2 地域看護の歴史 3 地域看護の発展と今後の展望 4 公衆衛生の考え方（プライマリヘルスケアとヘルスプロモーション） 5 地域看護を支える専門職と活動の場（1）保健所・市町村の活動 6 地域看護を支える専門職と活動の場（2）産業保健・学校保健 7 地域看護を支える専門職と活動の場（3）訪問看護 8 継続看護と退院調整 9 地域で療養生活をする人々を支える社会資源 10 地域包括ケアシステムと多職種連携 11 地域で療養する人々に関する制度 12 地域で療養する人々に関する制度 13 在宅療養者の権利擁護と倫理 14 災害時の看護活動（自然災害・感染症蔓延時） 15 まとめ 				
授 業 の 留 意 点	授業は 2 人の教員によるオムニバスで進め、一部は協力して進める。欠席や遅刻のないよう健康管理に留意すること。欠席・遅刻時は必ず連絡をすること。				
学 生 に 対 す る 評 価	筆記試験 100 点で評価する。				
教 科 書 (購 入 必 須)	公衆衛生看護学 第 2 版（中央法規） 河野あゆみ編 新体系看護学全書在宅看護論 メヂカルフレンド社				
参 考 書 (購 入 任 意)	国民衛生の動向 2022/2023				

科 目 名	地域看護活動論 I				
担 当 教 員 名	播本 雅津子・作並 亜紀子・室矢 剛志				
学 年 配 当	2 年	単 位 数	1 単位	開 講 形 態	演習
開 講 時 期	前期	必修選択	必修	資 格 要 件	
実 務 経 験 及 び 授 業 内 容	保健所または市町村での保健師実務経験を有する教員が担当する。この科目では地域住民を対象とした看護実践に必要な基本技術について学習する。				
学 習 到 達 目 標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域で暮らす人々を理解するための地域診断の要素について説明できる。 ・ 家庭訪問に必要な基本的留意事項について説明できる。 ・ 電話相談の特徴を知り、電話対応の留意事項について説明できる。 				
授 業 の 概 要	地域看護活動の基本となる地域診断および家庭訪問の基本技術等について学習する。				
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション 地域看護活動に必要な技術について 2 地域診断：コミュニティ・アズ・パートナーモデルについて 3 コミュニティ・アズ・パートナーモデルを用いた地域紹介① 4 コミュニティ・アズ・パートナーモデルを用いた地域紹介② 5 啓発活動：ポピュレーションアプローチについて 6 ポピュレーションアプローチの実際 7 地域診断・啓発活動演習① グループ分けとテーマ選定 8 地域診断・啓発活動演習② テーマ別基本学習その 1 9 地域診断・啓発活動演習③ テーマ別基本学習その 2 10 地域診断・啓発活動演習④ 報告会準備 11 地域診断・啓発活動報告会 テーマ別学習の共有 12 家庭訪問活動の基礎 13 家庭訪問活動の応用 14 電話相談の基礎 15 電話相談の応用 				
授 業 の 留 意 点	欠席や遅刻のないよう健康管理に留意して下さい。欠席・遅刻時は必ず連絡をして下さい。				
学 生 に 対 す る 評 価	筆記試験 80 点、レポート試験 20 点で評価する。いずれも 6 割以上の評価を必要とする。				
教 科 書 (購 入 必 須)	公衆衛生看護学 第 2 版 (中央法規)				
参 考 書 (購 入 任 意)					

科 目 名	地域看護活動論Ⅱ				
担 当 教 員 名	播本 雅津子・作並 亜紀子・室矢 剛志				
学 年 配 当	2 年	単 位 数	1 単位	開 講 形 態	演習
開 講 時 期	後期	必修選択	必修	資 格 要 件	
実 務 経 験 及 び 授 業 内 容	担当教員は保健所または市町村での保健師実務経験を有している。この科目では地域住民を対象とした看護実践に必要な基本技術について学習する。				
学 習 到 達 目 標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域で暮らす人々を対象とした看護技術について理解できる。 ・ 健康相談・健康教育に必要な技術や態度について説明できる。 				
授 業 の 概 要	地域看護活動のうち、集団への健康教育および個人・家族への健康相談や問診・面談等の技術について演習を通して学習する。				
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション 地域で暮らす人々を対象とした看護活動 2 健康教育について 3 演習：健康教育 先輩によるデモンストレーション 4 演習：健康教育① グループ分けとテーマ選定 5 演習：健康教育② テーマ別基本学習 情報収集 6 演習：健康教育③ テーマ別基本学習 媒体と原稿の作成 7 演習：健康教育④ 報告会準備 8 健康教育報告会 テーマ別学習の共有 9 健康相談・問診について 10 演習：健康相談・問診① グループ分けとテーマ選定 11 演習：健康相談・問診② テーマ別基本学習 情報収集 12 演習：健康相談・問診③ テーマ別基本学習 原稿作成 13 演習：健康相談・問診④ 報告会準備 14 健康相談・問診報告会 テーマ別学習の共有 15 まとめ 				
授 業 の 留 意 点	欠席や遅刻のないよう健康管理に留意して下さい。欠席・遅刻時は必ず連絡をして下さい。				
学 生 に 対 す る 評 価	筆記試験 80 点・レポート試験 20 点で評価する。いずれも 6 割以上の評価を必要とする。				
教 科 書 (購 入 必 須)	公衆衛生看護学 第2版 (中央法規)				
参 考 書 (購 入 任 意)					

科 目 名	在宅看護活動論 I				
担 当 教 員 名	伊藤 亜希子				
学 年 配 当	3 年	単 位 数	1 単位	開 講 形 態	演習
開 講 時 期	前期	必修選択	必修	資 格 要 件	
実 務 経 験 及 び 授 業 内 容	看護師および保健師として実務経験を持つ教員が、在宅看護活動に関する具体的な支援方法や技術、疾病者に対するセルフケアの指導、家族ケアなど在宅看護学の基本的な方法論について指導する科目				
学 習 到 達 目 標	1. 在宅療養者とその家族の生活について理解できる 2. 在宅療養者とその家族に必要な生活援助を考えることができる 3. 在宅看護に必要な生活援助技術を習得できる 4. 対象別在宅療養者の看護について理解できる				
授 業 の 概 要	訪問看護の対象と基盤となる概念をもとに、在宅療養者の生活を支える看護技術を学ぶ。また、在宅看護の日常生活援助の技法について演習で取り組み在宅看護の実践能力を培う。さらに、在宅における医療管理と医療依存度が高い療養者への看護について学びを深める。				
授 業 の 計 画	1 在宅看護とは 2 在宅看護援助の対象と基盤となる概念 3 在宅看護援助の対象と基盤となる概念 4 在宅療養生活を支える看護 演習 5 在宅療養生活を支える看護 演習 6 在宅療養生活を支える看護 演習 7 在宅療養生活を支える看護 演習 8 在宅療養生活を支える看護 演習 9 在宅療養生活を支える看護 演習 10 在宅療養生活を支える看護 演習 11 在宅療養生活を支える看護 12 在宅における医療管理と看護 13 在宅における医療依存度が高い方への看護 1 14 在宅における医療依存度が高い方への看護 2 15 在宅療養生活を支える看護				
授 業 の 留 意 点	授業は、講義、グループワーク、ロールプレイを行います。積極的に自分の考えや意見を述べましょう。 授業の進行状況によって内容を変更する場合があります。				
学 生 に 対 す る 評 価	試験 90 点 演習・レポート 10 点				
教 科 書 (購 入 必 須)	河野あゆみ編 新体系 看護学全書『在宅看護論』 メヂカルフレンド社 石垣和子上野まり編 看護学テキスト 『在宅看護論 自分らしい生活の継続をめざして』 南江堂				
参 考 書 (購 入 任 意)	押川眞喜子監修「写真でわかる訪問看護」 インターメディカ				

科 目 名	在宅看護活動論Ⅱ				
担 当 教 員 名	伊藤 亜希子				
学 年 配 当	3 年	単 位 数	1 単位	開 講 形 態	演習
開 講 時 期	後期	必修選択	必修	資 格 要 件	
実 務 経 験 及 び 授 業 内 容	看護師および保健師として実務経験を持つ教員が、在宅看護活動を展開するために、疾病者に対するセルフケアの指導、家族ケアなど在宅看護学の基本的な方法論について指導する科目				
学 習 到 達 目 標	1. 小児や終末期、医療処置等が必要な療養者・家族への支援を理解する 2. 在宅療養における口腔ケアの必要性を理解し支援方法の実際を学ぶ 3. 地域包括ケアシステムにおける在宅ケアを支える他職種・他機関の役割や連携・協働について考えることができる 4. 在宅における看護過程を理解する				
授 業 の 概 要	在宅療養者やその家族の生活および健康上の課題は多様であり、その支援にも様々な展開がある。その中で、在宅療養において医療処置等の必要な在宅療養者について理解し、その対象に応じた在宅看護活動の展開について学ぶと共に、在宅看護における看護過程の展開を考え必要な看護支援について考える。 また、地域包括ケアシステムにおける多職種・多機関との連携や協働について、演習を通して実践力を養う。				
授 業 の 計 画	1 在宅療養において特徴的な疾病がある療養者への看護 2 在宅療養者への様々な支援 1 他職種の役割と支援 知識編 3 在宅療養者への様々な支援 2 技術編 4 地域包括ケアシステムにおける多職種の役割と機能 1 5 地域包括ケアシステムにおける多職種の役割と機能 2 6 地域包括ケアシステムにおける多職種や多機関の役割と機能 3 7 在宅看護における看護過程 8 在宅看護における看護過程の展開 1 演習 9 在宅看護における看護過程の展開 2 演習 10 在宅看護における看護過程の展開 3 演習 11 在宅看護における看護過程の展開 4 演習 12 在宅看護における看護過程の展開 5 演習 13 在宅看護における看護過程 発表 14 在宅看護における看護過程の展開 5 15 在宅看護における看護過程の必要性和評価 まとめ				
授 業 の 留 意 点	在宅看護は各看護領域と関連が深く応用看護学領域とされています。これまでに学習した看護の基本をベースに在宅看護の展開を考えて取り組むこと。 また、授業の進行状況によって内容を変更する場合があります。				
学 生 に 対 す る 評 価	試験 80 点、演習の取り組み 20 点				
教 科 書 (購 入 必 須)	河野あゆみ編集：新体系看護学全書在宅看護論 メヂカルフレンド社 石垣和子他編集：看護学テキスト 在宅看護論自分らしい生活の継続をめざして 南江堂				
参 考 書 (購 入 任 意)	河原加代子著者：系統看護学講座統合分野『在宅看護論』医学書院				

科 目 名	成人看護学概論				
担 当 教 員 名	長谷部 佳子・南山 祥子				
学 年 配 当	1 年	単 位 数	2 単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	後期	必修選択	必修	資 格 要 件	
実 務 経 験 及 び 授 業 内 容	看護師としての臨床経験を持つ教員が、看護師としての役割、患者に対する療養上の世話や診療の補助行為など相対的医療の実践、および実践に必要な知識について指導する科目				
学 習 到 達 目 標	個人としての成人期の身体的・精神的・社会的特徴、および集団としての国民衛生の動向について理解を深める。これらの知識と諸理論を活用しながら、成人を対象とした看護におけるアセスメント方法を習得する。				
授 業 の 概 要	ライフサイクルにおける成人の位置づけと、対象者を取り巻く生活環境、社会環境、保健医療情勢、および看護の礎となる概念や理論について学ぶ。グループワークなどの演習を通じて、学んだ知識を活かしたアセスメント方法を習得する。				
授 業 の 計 画	1 成人看護学の位置づけと特徴、成人期にある人の特徴 2 成人の生活と健康問題 3 保健・医療・福祉システムの概要 4 保健・医療・福祉システムの連携 5 成人保健の動向（人口静態、人口動態） 6 成人保健の動向（保健増進対策、感染症対策） 7 成人看護学で用いる概念と理論①ニード論、ケアリング・アンドラゴジー、エパワメント 8 成人看護学で用いる概念と理論②自己効力理論、危機理論、ストレス理論、セルフケア 9 成人看護学で用いる概念と理論③ロイの適応モデル、死の受容理論、病みの軌跡 10 先進医療と看護 11 リハビリテーションと看護 12 老年期に向かう過程での身体機能の変調 13 終末期医療 14 患者と家族への教育支援 15 継続看護とチームアプローチ、看護における倫理および法的責任				
授 業 の 留 意 点	成人期の対象者を看護する際には、対象者を取り巻く家族環境や社会・医療情勢など背景要因の分析が欠かせません。日頃から新聞などについて目を通すとともに、両親や祖父母などの生活行動に高い関心を寄せると、講義内容の理解が深まります。				
学 生 に 対 す る 評 価	定期試験 70 点、グループワーク/レポート 30 点				
教 科 書 (購 入 必 須)	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[1] 成人看護学総論、医学書院 成人看護学概論 第2版、ヌーヴェルヒロカワ 厚生省の指標 増刊 国民衛生の動向、厚生労働統計協会				
参 考 書 (購 入 任 意)					

科 目 名	成人看護活動論Ⅰ				
担 当 教 員 名	長谷部 佳子・中谷 美紀子・鈴木 捷允				
学 年 配 当	2 年	単 位 数	2 単位	開 講 形 態	演習
開 講 時 期	後期	必修選択	必修	資 格 要 件	
実務経験及び授業内容	講義・演習を担当する教員は、臨床経験が豊富で特に急性期治療に関する見識が高い。そのため、講義・演習は周手術期における看護実践を中心に系統的に組み立てていく予定である。				
学習到達目標	この講義科目では、周手術期を中心とした急性期から回復期までの過程における対象者理解と看護の役割、援助の方法について学ぶ。 具体的には、手術療法および集中治療や検査にまつわる看護技術を理解するとともに、周手術期における対象者の健康問題を解決するための看護過程の展開方法について実践力を養うことを目標に学ぶ。				
授 業 の 概 要	この科目は演習科目であるため、講義と演習を組み合わせながら進めていく。周手術期などでの急性期治療や検査に関する総論を学びながら、各論としての技術・観察方法の実際を演習で体験し、成人看護学概論や臨床治療学で得た知識との統合を図れるように学んでいく。そして、成人看護学活動論Ⅰでの学びを、実践的に成人看護学実習Ⅰに活かせるように学習を進める。				
授 業 の 計 画	1 今日の外科看護の特徴と課題、外科患者の病態の基礎 2 外科的患者の病態の基礎、手術侵襲と生体反応 3 外科的治療を支える分野①（麻酔方法、手術体位） 4 外科的治療を支える分野②（体液・栄養管理、輸血等） 5 外科的治療の実際（低侵襲手術） 6 外科的治療の実際（術後合併症の予防のための看護） 7 術前／検査前の看護 総論 8 術後／検査後の看護 総論 9 看護過程①（情報の分析）【演習】 10 看護過程②（看護問題の抽出）【演習】 11 看護過程③（看護計画の作成）【演習】 12 看護過程④（看護計画の評価・修正）【演習】 13 手術／検査を受ける対象者への看護①（輸液管理） 14 手術／検査を受ける対象者への看護②（各種ドレーン管理） 15 手術／検査を受ける対象者への看護③（心電図モニター）		16 手術／検査を受ける対象者への看護④（全身の観察） 17 手術／検査を受ける対象者への看護⑤（全身の観察） 18 手術／検査を受ける対象者への看護⑥（全身の観察） 19 手術／検査を受ける対象者への看護⑦（輸液管理の実際） 20 手術／検査を受ける対象者への看護⑧（輸液管理の実際） 21 手術／検査を受ける対象者への看護⑨（清潔ケアの実際） 22 手術／検査を受ける対象者への看護⑩（清潔ケアの実際） 23 手術／検査を受ける対象者への看護⑪（栄養管理の実際） 24 手術／検査を受ける対象者への看護⑫（栄養管理の実際） 25 手術／検査を受ける対象者への看護⑬（胸腔ドレナージおよび低圧持続吸引装置の取り扱い） 26 手術／検査を受ける対象者への看護⑭（創部のケア、ストーマパOUCH交換） 27 手術／検査を受ける対象者への看護⑮（創部のケア、ストーマパOUCH交換） 28 手術／検査を受ける対象者への看護⑯（創部のケア、ストーマパOUCH交換） 29 手術中の看護①（手洗い、ガウンテクニック、滅菌手袋装着、等） 30 手術中の看護②（手洗い、ガウンテクニック、滅菌手袋装着、等）		
授 業 の 留 意 点	すでに履修済みの専門基礎科目（特に人体形態学、人体機能学、臨床治療学Ⅰ）、専門科目（特に基礎看護学領域の各科目、成人看護学概論）で学んだ知識の活用が必要なので、それらを復習しておくことが望ましい。また、本授業の際には指定された教科書2冊を両方とも持参して、参加すること。				
学 生 に 対 す る 評 価	レポート：30 点、講義・演習の受講態度：10 点、定期試験：60 点				
教 科 書 （ 購 入 必 須 ）	系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論、医学書院 系統看護学講座 別巻 臨床外科看護各論、医学書院 新訂版 看護技術ベーシックス 第2 版、サイオ出版 今日の治療薬 南江堂				
参 考 書 （ 購 入 任 意 ）	（臨床治療学Ⅰで購入済） 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[3]循環器、医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[5]消化器、医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[8]腎・泌尿器、医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[10]運動器、医学書院				

科 目 名	成人看護活動論Ⅱ				
担 当 教 員 名	南山 祥子・中谷 美紀子・鈴木 捷允				
学 年 配 当	3 年	単 位 数	2 単位	開 講 形 態	演習
開 講 時 期	前期	必修選択	必修	資 格 要 件	
実務経験及び授業内容	看護師としての臨床経験を持つ教員が、看護師としての役割、患者に対する療養上の世話や診療の補助行為など相対的医行為の実践について指導する科目				
学 習 到 達 目 標	慢性的な健康障害をもつ人々とその家族の特徴を捉え、その人らしく生活するための自己管理や生活の再構築にむけた援助方法を理解することができる。さらに、ライフサイクル上の背景をふまえた看護過程の展開について理解することができる。				
授 業 の 概 要	慢性的な身体機能障害を持ちながら生活する人々とその家族が、症状をコントロールし、障害と生活の制限を受け入れながら健康的な生活を営むことを支える看護の役割、援助の方法について学ぶ。また、セルフケアを支援する観点から教育的アプローチや QOL を重視した支援についての知識と援助方法について学習する。				
授 業 の 計 画	1 オリエンテーション、慢性疾患をもつ人と家族の特徴 2 慢性疾患をもつ人の看護過程の展開① 3 呼吸器系の障害をもつ人への看護①—気管支喘息 4 呼吸器系の障害をもつ人への看護②—慢性閉塞性肺疾患 5-6 慢性疾患をもつ人の看護過程の展開②【演習】 7-8 代謝・内分泌系の障害をもつ人への看護①—糖尿病 9 代謝・内分泌系の障害をもつ人への看護②—糖尿病 10 消化器系の障害をもつ人への看護—慢性肝炎、肝硬変 11-12 慢性疾患をもつ人の看護過程の展開③【演習】 13-14 循環器系の障害をもつ人への看護—慢性心不全 15-16 脳・神経系の障害をもつ人への看護—脳梗塞、筋委縮性側索硬化症 17 慢性疾患をもつ人の看護過程の展開④【演習】 18 慢性腎臓病患者への看護、透析療法を受ける患者の看護 19 慢性疾患をもつ人の看護過程の展開⑤【演習】 20 がん患者への看護①—がん患者の特徴、放射線患者の看護	21-22 慢性疾患をもつ人の看護過程の展開⑥【演習】 23-24 代謝・内分泌系の障害をもつ人への看護③【演習】自己血糖測定 25-26 代謝・内分泌系の障害をもつ人への看護④【演習】退院指導（ロールプレイング） 27 慢性疾患をもつ人の看護過程の展開⑦【演習】 28 講義のまとめ 29 がん患者への看護②—緩和ケアについて～認定看護師 30 がん患者への看護③—化学療法を受ける患者の看護～認定看護師			
授 業 の 留 意 点	すでに履修済みの専門基礎科目（特に人体形態学、人体機能学、臨床治療学Ⅰ）、専門科目（特に基礎看護学領域の各科目、成人看護学概論、成人看護活動論Ⅰ）で学んだ知識の活用が必要なので、それらを復習しておくことが望ましい。				
学 生 に 対 す る 価 値	レポート 30 点、受講態度 10 点、定期試験 60 点				
教 科 書 （ 購 入 必 須 ）	鈴木久美、旗持知恵子、佐藤直美：成人看護学 慢性期看護 改定第 3 版 南江堂 江川 隆子編：ゴードンの機能的健康パターンに基づく看護過程と看護診断 [第 6 版]、ノーヴェルヒロカワ 系統看護学講座 別巻 がん看護学、医学書院				
参 考 書 （ 購 入 任 意 ）	（臨床治療学Ⅰで購入済） 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[2]呼吸器、医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[5]消化器、医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[6]内分泌・代謝、医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[7]脳神経、医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[8]腎・泌尿器、医学書院				

科 目 名	老年看護学概論				
担 当 教 員 名	担当者未定				
学 年 配 当	2 年	単 位 数	2 単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	前期	必修選択	必修	資 格 要 件	
実 務 経 験 及 び 授 業 内 容	看護師として臨床経験を有する教員が、老年期を生きる方の特徴、老年看護の理念について指導する。				
学 習 到 達 目 標	1. 老年期の発達とその課題について身体・心理・社会的側面から理解し、高齢者を全人的に理解する基礎を育むことができる。 2. 老年期を生きる人の生活と健康の特徴を理解できる。 3. 老年期を生きる人とその家族が地域で生活するためのケアシステムについて理解できる。 4. 老年看護における倫理的課題について理解できる。				
授 業 の 概 要	老年期の自我発達を基盤に置いた上で、高齢者を環境との相互作用する存在と位置づけ、老年期を生きる人とその家族の多様性・個別性を理解するとともに、病を抱えながらも「健やかに老い、安らかに永眠する」ことを目指す老年看護の理念、高齢者を取り巻く社会について修得することを目的とする。講義、教材、体験学習を通して、自分とは異なる文化・生活背景を持つ人々への理解を深め、皆さん自身の高齢者観をよりいっそう豊かに育むことを期待する。				
授 業 の 計 画	1 老年看護学概論ガイダンス：老年看護の原則、高齢者への理解 2 老いを生きるとは - ライフステージとしての老年期 - 3 加齢に伴う生理的・身体的変化の特徴 4 高齢者の暮らしと生活史 5-7 高齢者へのインタビュー後のグループワーク／高齢者疑似体験 8 保健統計からみた高齢者の生活と健康の特徴① 9 保健統計からみた高齢者の生活と健康の特徴② 10 高齢者の包括的アセスメント① 11 高齢者の包括的アセスメント② 12 老年看護における看護理論 13 高齢者と家族への地域包括ケア① - 権利擁護、生活・療養する場の特徴、地域づくり - 14 高齢者と家族への地域包括ケア② - 介護家族の生活と健康、支援体制 - 15 老年看護学の目標と役割／老年看護学概論まとめ				
授 業 の 留 意 点	高齢者を理解するために、 課題 1：高齢者へのインタビュー（インタビュー後のグループワーク） 課題 2：高齢者疑似体験 を行う。				
学 生 に 対 す る 評 価	レポート、定期試験により評価する。 （レポート：10%、定期試験：90%程度）				
教 科 書 （ 購 入 必 須 ）	北川公子ほか：系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学 第9版、医学書院、2018 鳥羽研二ほか：系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護 病態・疾患論 第5版、医学書院、2018 厚生労働統計協会：厚生指針増刊 国民衛生の動向（購入済みのもので可）				
参 考 書 （ 購 入 任 意 ）					

科 目 名	老年看護活動論 I				
担 当 教 員 名	澤田 知里・上原 主義				
学 年 配 当	2 年	単 位 数	1 単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	後期	必修選択	必修	資 格 要 件	
実 務 経 験 及 び 授 業 内 容	看護師として臨床経験を有する教員が、老年看護の基本的な考え方や、高齢者に多い疾患とその看護等を、実践を踏まえながら指導する。				
学 習 到 達 目 標	1. 加齢に伴う生理的老化、老年期に特徴的な疾患、それに伴う生活機能障害を理解できる。 2. 健康障害や生活機能障害を有する高齢者に対し、全人的、包括的にアセスメント・評価するための基本的知識を理解できる。 3. 生活機能を維持・向上するための看護支援方法について理解できる。 4. 高齢者とその家族の生活と健康を支える保健・医療・福祉制度と、サービスの活用について理解することができる。 5. 自らの高齢者観・死生観を育み続ける必要性を理解できる。				
授 業 の 概 要	加齢変化や老年期に特有な疾患と生活機能障害を取り上げ、「住み慣れた場所で最期まで」を実現するために、高齢者とその家族の自立・自律に向けたアセスメント、予防と生活機能を整える看護、代替・調整等による看護支援、そしてエンドオブライフ・ケアについて理解を深めることを目的とする。				
授 業 の 計 画	1 老年看護活動論 I ガイダンス 2 高齢者に特徴的な健康障害と看護① 3 高齢者に特徴的な健康障害と看護② 4 高齢者に特徴的な健康障害と看護③ 5 高齢者に特徴的な健康障害と看護④ 6 高齢者に特徴的な健康障害と看護⑤ 7 高齢者に特徴的な健康障害と看護⑥ 8 高齢者に特徴的な健康障害と看護⑦ 9 高齢者の生活機能を整える看護① 10 高齢者の生活機能を整える看護② 11 高齢者の生活機能を整える看護③ 12 高齢者の生活機能を整える看護④ 13 老年期を生きる人と家族の生と死を支える看護 14 高齢者とその家族への地域包括ケア－災害看護と地域づくり－ 15 老年看護活動論 I まとめ				
授 業 の 留 意 点	レポート課題：老年看護学における看護ケアの特徴とはどのようなものであるか、指定図書を読んだ上で提出する（詳細は後日提示する）。				
学 生 に 対 す る 評 価	レポート、定期試験により評価する。 （レポート：10%、定期試験：90%程度）				
教 科 書 （ 購 入 必 須 ）	北川公子ほか：系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学 第9版、医学書院、2018（老年看護学概論で購入済み） 鳥羽研二ほか：系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護 病態・疾患論 第5版、医学書院、2018（老年看護学概論で購入済み） 厚生労働統計協会：厚生指針増刊 国民衛生の動向（購入済みのもので可）				
参 考 書 （ 購 入 任 意 ）					

科 目 名	老年看護活動論Ⅱ				
担 当 教 員 名	澤田 知里・上原 主義				
学 年 配 当	3 年	単 位 数	1 単位	開 講 形 態	演習
開 講 時 期	前期	必修選択	必修	資 格 要 件	
実務経験及び授業内容	看護師として臨床経験を有する教員が、老年看護の基本的な考え方、看護の展開方法、ケアの方法を、実践を踏まえながら指導する。				
学習到達目標	1. 恒常性機能の低下を特徴として持つ高齢者に対し、安全・安楽であり、かつ尊厳を保持した看護ケアを提供する基本的な看護技術を身につけることができる。 2. 高齢者とその家族のもてる力（強み）に着眼し、生活機能に焦点を当てた目標志向型の看護過程を身につけることができる。				
授業の概要	看護ケアを通して「いかなる身体条件・生活条件であっても、人間的に、尊厳を保ちながら生きることができる」ことを目指す、老年看護技術を習得することを目的とする。				
授業の計画	1 老年看護活動論Ⅱガイダンス 2 老年看護過程①（講義・グループワーク） 3 食べる・動く・排泄する（講義） 4 老年看護過程②（グループワーク） 5-6 食べる（演習：実習室） 7-8 動く（演習：実習室） 9-10 老年看護過程③（個人指導） 11-12 排泄する（演習：実習室） 13-14 演習 Cinemeducation 15 老年看護過程④、老年看護活動論Ⅱまとめ				
授業の留意点	以下2つをレポート課題とする ①高齢者の1日の過ごし方に関するインタビュー ②2日間の排尿日誌と高齢者モデルでの排泄、オムツ装着・排泄体験の実施（詳細は後日提示する）。				
学生に対する評価	演習の取り組み・看護過程、定期試験により評価する。 （演習の取り組み・看護過程：40%、定期試験：60%程度）				
教科書（購入必須）	老年看護学概論・老年看護活動論Ⅰの教科書を使用する。				
参考書（購入任意）					

科 目 名	小児看護学概論				
担 当 教 員 名	永谷 智恵				
学 年 配 当	2 年	単 位 数	2 単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	前期	必修選択	必修	資 格 要 件	
実 務 経 験 及 び 授 業 内 容	小児看護の臨床経験をもつ教員が、子どもや家族を取り巻く社会の現状や子どもの成長発達段階における看護について教授する。さらに、子どもの利益にかなう看護について考察し、小児看護の理念と責務について指導する。				
学 習 到 達 目 標	1. 小児看護の対象である小児と家族の存在を環境との相互作用から理解する 2. 小児看護を支える法的根拠から小児医療における子どもの権利について理解する 3. 成長・発達概念および小児各期の発達の特徴とその評価方法を理解する 4. 現代の小児と家族の健康問題について社会の変化から捉え小児看護の役割を理解する 5. 母子保健の動向と小児の健康を支える社会資源、制度について理解する				
授 業 の 概 要	現代の子どもや家族を取り巻く社会には、生活習慣病の増加、心の問題、育児不安、児童虐待など、様々な健康問題が顕在化している。本講義では、子どもや家族を取り巻く社会の現状を理解しながら、子どもの発達段階における成長・発達と看護について学ぶ。さらに、子どもの人権と小児看護倫理から、子どもの利益にかなう看護とは何か、小児看護の理念と責務について共に理解していく。また、母子に関する様々な保健統計から小児保健の動向を知り、現代社会の健康問題を考察して、子どもの健康の保持増進、疾病の予防について学修していく。				
授 業 の 計 画	1 小児看護とは 小児看護の対象、小児の範囲と区分、小児の成長発達を支える家族と発達 2 小児看護の歴史と意義、小児看護の課題、小児を取り巻く社会 3 子どもの権利と看護、子どもの最善の利益にかなう医療と看護 小児看護と倫理的配慮 4 小児看護と法律・施策、子どもを取り巻く社会環境、母子保健施策、小児に関する法律など 5 子どもの成長発達 6 乳児期の子どもの成長発達 7 乳児期の子どもの生活、家族への看護、乳児期によくみられる健康問題 8 幼児期の子どもの成長発達 9 幼児期の子どもの成長発達 10 幼児期の生活行動の発達と看護、遊びの意義、家族への看護、幼児期によくみられる健康問題 11 学童期の子どもの成長発達 12 学童期の子どものセルフケアの発達と看護、学童期によくみられる健康問題 13 思春期の子どもの成長発達 14 発育の評価 15 小児看護学概論 まとめ				
授 業 の 留 意 点	積極的な参加態度を期待します。日ごろ、新聞・TV・映画・書籍などで子どもの生活や健康問題、子どもの社会的問題などに目を向けることで学修が深まります。また自身の成長過程や家族との関係性などを想起することで、より身近な学修となります。				
学 生 に 対 す る 評 価	定期試験：学習内容の理解度を評価する（70 点） 小テスト：成長・発達の理解 （各 10 点×3）				
教 科 書 （ 購 入 必 須 ）	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学概論 小児臨床看護総論 小児看護学① 医学書院				
参 考 書 （ 購 入 任 意 ）	必要に応じて随時紹介する。				

科 目 名	小児看護活動論 I				
担 当 教 員 名	永谷 智恵・網野 真由美				
学 年 配 当	2 年	単 位 数	1 単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	後期	必修選択	必修	資 格 要 件	
実務経験及び授業内容	小児看護の臨床経験をもつ教員が、子どもの健康障害による影響、病時期に必要な看護、外来や在宅など場の違いにおける小児と家族への支援について講義を通して指導する				
学習到達目標	1. 健康障害や入院が子どもと家族に与える影響について理解する 2. 急性期、周手術期、慢性期、終末期の子どもと家族の看護について理解する 3. 外来や在宅など場の違いによる看護について理解する 4. 障がいのある子どもと家族の看護について理解する				
授業の概要	入院中の子どもや家族が、安全で安楽な生活を送ることができるようにケアしていくことが小児看護の目標である。本講義では、健康障害や入院そのものが子どもや家族に与える影響、子どもの病時期の違いにおける必要なケア、外来や在宅など看護の場の違いにおける子どもと家族の状況とケアについて学修していく。				
授業の計画	1 病気・障害をもつ子どもと家族の看護 2 子どもの状況（環境）に特徴づけられる看護 3 症状を示す子どもの看護 4 症状を示す子どもの看護 5 検査・処置を受ける子どもの看護 6 検査・処置を受ける子どもの看護 7 急性期にある子どもと家族の看護 8 周手術期のある子どもと家族の看護 9 慢性期にある子どもと家族の看護（1） 10 慢性期にある子どもと家族の看護（2） 11 在宅療養を行う子どもと家族の看護 12 障害のある子どもと家族の看護 13 子どもの虐待と看護 14 終末期にある小児と家族の看護（1） 15 終末期にある小児と家族の看護（2）				
授業の留意点	小児の入院環境、在宅での生活などイメージ化できるように DVD などの視聴覚教材を取り入れていきます。また、事例を通して子どもや家族にとって最善となる看護目標やケアについてグループでディスカッションします。グループワークを行うので、事前学習が必要となります。DVD の見直しや既習した知識の確認など準備して参加することを期待します。				
学生に対する評価	1. 定期試験 80 点 2. 課題レポート 20 点 講義中に課題を提示する				
教科書（購入必須）	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学概論 小児臨床看護総論 小児看護学① 医学書院				
参考書（購入任意）	子どもの病気の地図帳 講談社				

科 目 名	小児看護活動論Ⅱ				
担 当 教 員 名	永谷 智恵・網野 真由美				
学 年 配 当	3 年	単 位 数	1 単位	開 講 形 態	演習
開 講 時 期	前期	必修選択	必修	資 格 要 件	
実 務 経 験 及 び 授 業 内 容	小児専門病院や小児病棟で看護師として臨床経験をもつ教員が、小児の看護課程の展開と看護技術について講義と演習を行い実践的な技術を指導する科目				
学 習 到 達 目 標	1. 小児で関わることの多い疾患（症状）の事例について、アセスメントし看護問題の明確化、看護計画の立案ができる。 2. 小児特有の基本的な看護技術について習得することができる。 3. 発達段階を考え状況に応じたプレパレーションができる。				
授 業 の 概 要	小児看護学概論・小児看護活動論Ⅰの学習を基に、健康障害のある小児と家族の看護展開技術、小児に特有な生活援助技術、診療に伴う援助技術について学修する。				
授 業 の 計 画	1 小児看護活動論Ⅱ ガイダンス 2 小児と家族の看護過程の考え方 3 遊びの意義と実際 4 プレパレーションの実施 5 小児看護技術 / 看護過程の展開・プレパレーション準備①-1 6 小児看護技術 / 看護過程の展開・プレパレーション準備①-2 7 小児看護技術 / 看護過程の展開・プレパレーション準備②-1 8 小児看護技術 / 看護過程の展開・プレパレーション準備②-2 9 小児看護技術 / 看護過程の展開・プレパレーション準備③-1 10 小児看護技術 / 看護過程の展開・プレパレーション準備③-2 11 小児看護技術 / 看護過程の展開・プレパレーション準備④-1 12 小児看護技術 / 看護過程の展開・プレパレーション準備④-2 13 小児の看護過程のまとめ 14 小児看護技術 / 看護過程の展開（事例2）⑤-1 15 小児看護技術 / 看護過程の展開（事例2）⑤-2				
授 業 の 留 意 点	事例の看護過程の展開・プレパレーションの準備と技術演習は、グループ毎交互に行われる。演習は、学習の進行状況により変更する場合がある。				
学 生 に 対 す る 評 価	1. 定期試験 70 点 2. 看護過程 20 点 3. プレパレーションレポート 10 点				
教 科 書 （ 購 入 必 須 ）	小児看護学 ナーシング・グラフィカ 小児看護学② 小児看護技術（メディカ出版）				
参 考 書 （ 購 入 任 意 ）	子どもの病気の地図帳 講談社				

科 目 名	母性看護学概論				
担 当 教 員 名	笹木 葉子・加藤 千恵子				
学 年 配 当	2 年	単 位 数	2 単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	後期	必修選択	必修	資 格 要 件	
実 務 経 験 及 び 授 業 内 容	助産師としての実務経験を持つ教員が、母性看護学の概観を教授する科目				
学 習 到 達 目 標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学生は、母性の概念を、女性の生涯にわたる健康と権利の視点から捉えることができる。 ・ 学生は、女性の健康を身体・心理社会・文化的視点から理解することができる。 ・ 学生は、母子関連組織・法律、母子保健システムから看護のあり方を考察することができる。 ・ 学生は、女性のライフステージ各期の特徴を学び、母性の一生を通じた健康の維持増進、疾病予防のありかたについて考察することができる。 ・ 学生は、生命の尊重の意義を確認し自分なりの生命倫理についてを考えることができる。 				
授 業 の 概 要	<p>学生が、母性看護学の対象がすべての女性とその家族を含み、対象を取り巻く環境が大きく変化し、少子高齢化、晩婚化、晩産化が進んでいることを理解できるように授業を構成する。また、女性のライフステージの特徴を知り、女性の一生を通じた健康の保持増進と疾病の予防についても学習する。学生が、母性の概念、母子保健の変遷と統計指標、関連法規と施策などから、母子保健の現状と課題について学習できるように教授する。さらに、リプロダクティブヘルス、ライツの観点から周産期に至る思春期からの性教育のあり方や婚前学級、婚活、妊活などの現代社会で生きる若者の実情や医学情報のトピックスを紹介し、学生が、生命倫理や生命尊重について考えを深化させられるように教授する。</p>				
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 母性の中心となる概念 2 母性看護実践を支える概念 3 リプロダクティブヘルスに関する概念 4 リプロダクティブヘルスに関する動向 5 リプロダクティブヘルスに関する倫理 6 命の大切さを考える DVD 視聴 7 子どもと女性の保護に関する法律 8 子育て支援に関する制度・施策 児童虐待 9 性差医療 DVD 視聴 10 生殖に関する生理 11 生殖における健康問題と看護 12 不妊症 13 加齢とホルモン変化 14 リプロダクティブヘルスケアー人工妊娠中絶と看護、性暴力を受けた女性に対する看護、喫煙女性の健康と看護 15 周産期医療システム、母子保健の国際化 まとめ 				
授 業 の 留 意 点	<p>授業に参加するにあたり、予習、復習を行うこと。グループワークには積極的に参加すること。DVD は、欠席した場合も後日必ず視聴しレポートを提出すること。</p>				
学 生 に 対 す る 評 価	<p>グループワークやプレゼンテーション、授業中に課す提出物と授業への参加態度 (30 点)、試験 (70 点) を合算して評価する。</p>				
教 科 書 (購 入 必 須)	ナースিং・グラフィカ母性看護学①概論・リプロダクティブヘルスと看護 (メディカ出版)				
参 考 書 (購 入 任 意)	<p>母子保健の主なる統計令和 4 年度刊行：母子保健事業団、令和 4 年版厚生労働白書：厚生労働省編、令和 4 年度版少子化社会対策白書：内閣府編、国民衛生の動向 2021/2022：厚生労働統計協会</p>				

科 目 名	母性看護活動論 I				
担 当 教 員 名	加藤 千恵子・渡邊 友香				
学 年 配 当	3 年	単 位 数	1 単位	開 講 形 態	演習
開 講 時 期	前期	必修選択	必修	資 格 要 件	
実 務 経 験 及 び 授 業 内 容	看護師・助産師の実務経験のある教員が講義を行う。				
学 習 到 達 目 標	<p>目的</p> <p>本講義では、女性のライフサイクルの中で周産期の妊産婦と胎児およびその家族を対象とする。学生は母性看護学における看護実践能力、周産期医療における問題解決力を高め、</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 妊産婦の主体性を重んじた安全で安楽な出産及び役割獲得への援助に必要な知識と看護技術を習得できる。 2. 妊婦・産婦の発達課題の達成や健康の保持増進、健康障害の予防に必要な母子看護の基礎知識を学び展開できる。 3. 対象が正常な妊娠、分娩経過をたどるために必要な看護技術を習得できる。 <p>以上の3つの目標を達成するため、以下のA知識、B技術、C態度に関する学習到達目標を挙げる。</p> <p>A 知識</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 学生は妊娠・分娩の経過に伴って変化する生理的現象や身体の特徴を説明できる。 2) 学生は妊娠・分娩の経過に伴って変化する心理社会的特徴を説明できる。 3) 学生は胎児の成長発達と健康度の評価、胎児の特徴を説明できる。 4) 学生は親になることを支える援助、相談、教育について説明できる。 <p>B. 技術</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 学生は妊婦の経過を根拠に基づきアセスメントし、記述できる。 2) 学生は胎児の経過を根拠に基づきアセスメントし、記述できる。 3) 学生はウェルネスの視点から看護問題・看護目標が挙げ、記述できる。 4) 学生は個別性のある看護計画を立案し、記述できる。 <p>C. 態度</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 学生は積極的に学習し、自己の能力の向上に努めることができる。 2) 学生は教員の支援を受けながら、多様な学習資源を活用した学習ができる。 3) 学生はグループの一員としての自分の役割を遂行し、協力して演習を進めることができる。 				
授 業 の 概 要	<ol style="list-style-type: none"> 1. 学生は妊娠・分娩経過の女性および胎児と新生児に必要な知識と看護技術を習得する。 1) 学生は妊婦・産婦・胎児・新生児の身体的・心理社会的特徴を学び、健康状態を観察する技術を学ぶ。 2) 学生は母子の健康の保持・増進、健康障害の予防および健康障害からの回復を促す日常生活において必要なセルフケアとセルフケアを維持促進するための看護の方法を学ぶ。 3) 学生は妊娠期、分娩期の母子事例を活用し、周産期の対象の身体的、心理的、社会的アセスメントの方法を習得し、対象の全体像を統合する。 				
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1:妊娠期のアセスメント1、妊娠の成立と経過（妊娠の定義、妊娠の生理、胎児の成長と発達） 2:妊娠期のアセスメントとケア1、妊婦の身体的特徴と妊娠期の変化妊娠各期と保健指導（健康管理の目的、妊娠期の日常生活、栄養管理、乳房の手当） 3:妊娠期のアセスメントとケア2、妊婦の心理的特徴と妊娠期の変化 4:妊娠各期の胎児の成長と発達 5:<演習1>妊娠期のケア：子宮底・腹囲測定、レオポルド触診法、妊産婦体操、疑似体験 分娩期のアセスメントとケア（分娩が胎児に与える影響、胎児の健康状態の把握） 6:ハイリスク妊娠と看護（妊娠悪阻、胎状奇胎、妊娠高血圧症候群、切迫流産、前置胎盤、常位胎盤早期剥離） 7:妊婦の健康教育と育児準備サポート、出産準備教育 8:分娩期のアセスメント1、分娩の経過（分娩の定義、分娩の三要素と分娩機序、分娩経過）分娩期にある母子の理解、（分娩のメカニズム、心理・社会的状況の理解）〔分娩の視聴覚教材〕 9:分娩期のアセスメントとケア1、（産痛のメカニズムと緩和の方法、産婦の心理、家族への包括的援助） 10:分娩期の胎児の健康状態 11:分娩期の母体と胎児のための安全安楽を考えたケア 12:分娩室における各スタッフの役割分担と衛生管理および物品管理 13:<演習2>分娩期のケア：呼吸法、弛緩法、産婦の安全・安楽と主体性を育むための看護 14:ハイリスク分娩の看護（微弱陣痛・過強陣痛、分娩時異常出血、帝王切開） 15:妊産婦の健康管理のまとめ 				
授 業 の 留 意 点	<p>各単元におけるまとめを作成する。このまとめを母性看護学実習時に持参し、実習に臨むことになるため、ポイントを押さえてわかりやすくまとめる事。</p> <p>受講に際して、教科書を読むなど予習および復習を行うこと。</p> <p>授業態度として、講義・演習ともに真摯な姿勢で積極的に臨むこと。</p>				
学 生 に 対 す る 価 値	<p>演習の2回の参加は必修で欠席の場合、母性看護学実習には参加できないこととする。</p> <p>各単元のまとめの課題提出（15点）、ミニ模試や各授業の提出物（15点）とテスト（70点）で知識とアセスメント能力について評価する。</p>				
教 科 書 （ 購 入 必 須 ）	<p>（母性看護活動論Ⅱと共通）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・系統看護学講座 専門Ⅱ母性看護学各論 母性看護学2 森恵美（医学書院） ・ナースングラフィカ 母性看護技術 荒木奈緒ら（メディカ出版） 				
参 考 書 （ 購 入 任 意 ）	<ul style="list-style-type: none"> ・カラー写真で学ぶ妊産婦褥婦のケア 第二版 櫛引美代子（医歯薬出版株式会社） ・根拠と事故防止からみた ・新看護観察のキーポイントシリーズ母性Ⅰ 前原 澄子（編集）（中央法規出版） ・新看護観察のキーポイントシリーズ母性Ⅱ 前原 澄子（編集）（中央法規出版） 				

科 目 名	母性看護活動論Ⅱ				
担 当 教 員 名	笹木 葉子・渡邊 友香				
学 年 配 当	3 年	単 位 数	1 単位	開 講 形 態	演習
開 講 時 期	前期	必修選択	必修	資 格 要 件	
実 務 経 験 及 び 授 業 内 容	病院助産師としての臨床経験を持つ教員が、産褥期・新生児期の母子の生理と異常時の看護を教授する科目				
学 習 到 達 目 標	1. 学生は、妊娠期・分娩期の既習の知識を基に、産褥期、新生児期にある母子とその家族の身体・心理社会的特性を理解できる。 2. 学生は、産褥・新生児期にある母子への看護援助を行うために必要とされる基礎的知識と技術を習得できる。 3. 学生は、産褥・新生児期における主な異常とその看護を理解できる。 4. 学生は、産褥・新生児期の母子関係確立のための援助に必要な知識と技術を習得できる。				
授 業 の 概 要	学生は、母性看護活動論Ⅰで学習した妊娠期・分娩期の援助を踏まえて褥婦および新生児とその家族の特性を理解する。 学生は、産褥期では分娩の影響からの心身の回復と母親役割獲得へのケアおよび産褥の異常を持つ産婦のケアについて学ぶ。 学生は、新生児については胎外生活への適応と生理的变化、正常からの逸脱時のケアについて学習する。 また、母子の健康の保持増進・回復を促すためのセルフケアの方法および逸脱徴候を早期に発見できるための観察方法を習得する。 学生は、母子一対を対象として、母子関係形成のためのケアの重要性を理解し、褥婦・新生児の看護過程では、ウェルネスの視点を取り入れた展開方法を学ぶ。				
授 業 の 計 画	1 正常な産褥の基本的理解：産褥の定義、褥婦の全身の変化、進行性変化、退行性変化、心理・社会的変化 2 産褥期のアセスメント：退行性変化、進行性変化、身体の回復状態家族の機能と役割の再編、サポート体制 3 褥婦と家族のケア：セルフケアを高めるケア、母乳育児に向けてのケア、育児技術に関わるケア、家族関係再構築へのケア 4 褥婦と家族のケア：母子関係確立への援助、母親役割、家族役割関係、産後のメンタルヘルスケア、産後の母子保健施策 5 異常産褥の病態と看護：子宮復古不全、産褥感染症、精神障害、母子分離・死産 6 <演習1>産褥期のケア：子宮復古状態の観察とケア 乳房観察とケア、産褥体操 7 正常新生児の基本的理解：新生児の定義、胎外生活への適応過程、新生児の生理的变化、成熟度の評価 8 新生児のアセスメント：出生直後の状態、体格、哺乳状態、栄養状態、親子関係、家族関係 9 新生児のケア：看護の原則、保育環境、出生直後の看護、日常生活への援助、栄養 10 異常新生児の病態と看護：新生児仮死、分娩障害、高ビリルビン血症、低出生体重児、ディベロップメンタルケア 11 <演習2>新生児のケア：バイタルサインズ、全身観察、各部計測、沐浴 / 褥婦・新生児の看護過程の展開 12 <演習2>新生児のケア：バイタルサインズ、全身観察、各部計測、沐浴 / 褥婦・新生児の看護過程の展開 13 <演習2>新生児のケア：バイタルサインズ、全身観察、各部計測、沐浴 / 褥婦・新生児の看護過程の展開 14 <演習2>新生児のケア：バイタルサインズ、全身観察、各部計測、沐浴 / 褥婦・新生児の看護過程の展開 15 褥婦・新生児の看護過程、学習ノートの提出 まとめ				
授 業 の 留 意 点	講義は、テキスト・資料を読んで予習・復習をすること。 演習は講義内容を復習しテキストにて技術手順を確認して臨むこと。 看護過程は参考書を利用しウェルネス思考を取り入れて展開すること。 配布する学習ノート（産褥・新生時期）は教科書・参考書を利用して完成させること。				
学 生 に 対 す る 評 価	演習への参加態度 10 点 ミニレポート・学習ノート 10 点 看護過程 10 点 試験 70 点				
教 科 書 (購 入 必 須)	(母性看護活動論Ⅰと共通) ・系統看護学講座 専門Ⅱ 母性看護学各論 母性看護学2 森恵美 (医学書院) ・ナーシンググラフィカ 母性看護学③母性看護技術 (メディカ出版) ・ウェルネス診断にもとづく母性看護過程 太田操編 (医歯薬出版株式会社)				
参 考 書 (購 入 任 意)	・病気がみえる VOL10 産科 第3版 (メディックメディア) ・新看護観察のキーポイントシリーズ母性Ⅰ・Ⅱ 前原澄子 (中央法規出版)				

科 目 名	精神看護学概論				
担 当 教 員 名	結城 佳子				
学 年 配 当	2 年	単 位 数	2 単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	後期	必修選択	必修	資 格 要 件	
実務経験及び授業内容	看護師等として広く心の健康にかかわるケア実践経験を有する教員が、心の健康とそのケアに関する基本的知識と考え方を指導する科目				
学習到達目標	精神健康において支援を必要とする人を対象とする看護についての基本的考え方を理解し、精神科医療および精神保健福祉の課題に問題意識を持って取り組む姿勢を修得することを目標とする。				
授 業 の 概 要	1. 心とは何か、心の健康とは何か、その基本的考え方を学ぶ。 2. 心に関する諸理論、ライフサイクルと生活の場における心の健康について学ぶ。 3. 精神保健福祉活動の実際とそれを支える法・制度のあり方、精神保健福祉の歴史を学ぶ。 4. 精神科医療および精神保健福祉における人権と倫理について学ぶ。 時事の問題や具体的な事例等を多く取り入れて講義を展開する。				
授 業 の 計 画	1 オリエンテーション/心とは 2 健康な心とは 3 心を感じる/心にふれる 4 生活の場と精神保健① 家庭 5 生活の場と精神保健② 学校 6 生活の場と精神保健③ 職場 7 生涯発達と精神保健① 乳児期～思春期・青年期 8 生涯発達と精神保健② 成人前期～老年期 9 社会と精神保健① ストレス 10 社会と精神保健② 危機 11 社会と精神保健③ 自殺 12 精神障害と精神保健① 精神疾患と精神障害/統合失調症 13 精神障害と精神保健② 精神保健福祉の変遷と法/人権擁護 14 精神障害と精神保健③ 地域精神保健福祉活動 15 まとめ				
授 業 の 留 意 点	積極的に授業へ参加することを期待する。精神科医療および精神保健福祉を取り巻く社会の動向にも関心を持ち、自ら考える姿勢が望ましい。授業の進行状況、時事問題によって講義内容を変更することがある。なお、COVID-19 感染拡大状況により開講形態を変更することがあり得る。				
学 生 に 対 す る 評 価	レポートにより評価する。レポートは以下の5段階で評価する。 S: 素点 90 点以上、A: 素点 80～89 点、B: 素点 70～79 点、C: 素点 60～69 点、D: 素点 59 点以下 C 以上の評価について単位を認定する。D 評価の者は課題再提出とし、同様に評価する。なお、学習の進行状況によりレポート課題を課すことがある。その場合の評価も同様に行う。講義ノートの評価点を加算することがある。				
教 科 書 (購入必須)	テキストは使用せず、資料を配布する。				
参 考 書 (購入任意)	参考文献は、必要時指示する。				

科 目 名	精神看護活動論 I				
担 当 教 員 名	結城 佳子・中島 泰葉				
学 年 配 当	3 年	単 位 数	1 単位	開 講 形 態	演習
開 講 時 期	前期	必修選択	必修	資 格 要 件	
実 務 経 験 及 び 授 業 内 容	看護師等として精神科医療・精神保健福祉分野における実践経験を有する教員が、精神疾患・精神障害に関する基本的知識と治療・看護・リハビリテーションについて指導する科目				
学 習 到 達 目 標	精神疾患の病態や精神障害のありようとそれらが生活に与える影響、治療およびリハビリテーションについて理解し、精神健康上の問題に直面している人とその家族に対する看護援助方法について基本的考え方を習得することを目標とする。				
授 業 の 概 要	1. 基本的な精神疾患の病態や障害のありようとそれらが生活に与える影響を学ぶ。 2. 基本的な精神疾患の治療およびリハビリテーションと看護援助を学ぶ。				
授 業 の 計 画	1 オリエンテーション/気分障害① 概念と病態 2 気分障害② 治療とリハビリテーション 3 気分障害③ 看護 4 不安障害① 概念と病態 5 不安障害② 治療と看護 6 身体表現性障害/解離性障害/適応障害① 概念と病態 7 身体表現性障害/解離性障害/適応障害② 治療と看護 8 摂食障害① 概念と病態 9 摂食障害② 治療と看護 10 パーソナリティ障害① 概念と病態 11 パーソナリティ障害② 対応と看護 12 物質関連障害・嗜癖① 概念と病態 13 物質関連障害・嗜癖② 治療とリハビリテーション/看護の基本 14 物質関連障害・嗜癖③ アルコール依存症 15 自閉症スペクトラム障害				
授 業 の 留 意 点	具体的な事例等を通して、精神疾患・精神障害を適切に理解するとともに、精神疾患・精神障害を持つ人の生きる困難さや苦悩を共に感じ、看護援助の展開について主体的に考えてみることを期待する。授業の進行状況、時事問題によって講義内容を変更することがある。				
学 生 に 対 す る 評 価	筆記試験により評価する。素点 60 点以上の者について単位認定する。D 評価の者は再試験とし、同様に評価する。なお、学習の進行状況により中間試験を実施することがある。その場合の評価も同様に行う。講義ノートの評価点を加点することがある。				
教 科 書 (購 入 必 須)	テキストは使用せず、資料を配布する。				
参 考 書 (購 入 任 意)	必要時指示する。				

科 目 名	精神看護活動論Ⅱ				
担 当 教 員 名	結城 佳子・中島 泰葉				
学 年 配 当	3 年	単 位 数	1 単位	開 講 形 態	演習
開 講 時 期	後期	必修選択	必修	資 格 要 件	
実務経験及び授業内容	看護師等として精神科医療・精神保健福祉分野における実践経験を有する教員が、関連する法・制度、安全管理、人権と倫理および質の高い看護実践について指導する科目				
学習到達目標	精神疾患の病態や障害のありようが生活に与える影響、治療およびリハビリテーションについて理解し、精神健康上の問題に直面している人とその家族に対する看護援助方法と看護過程の展開について基本的考え方を習得する。また、精神科領域における治療・看護について理解し、対象者の安全を守り、人権を擁護する看護のあり方を学ぶ。				
授業の概要	1. 統合失調症や認知症について疾患・障害のありようが生活に与える影響、治療や看護について学ぶ。 2. 精神科領域に特有の治療およびリハビリテーションと看護について学ぶ。 3. 精神科領域における安全管理、法・制度、人権と倫理について学ぶ。 4. 精神科看護の実践について、ゲストスピーカーによる講義から学ぶ。				
授業の計画	1 統合失調症① 概念と病態 2 統合失調症② 治療と看護（救急急性期～消耗期） 3 統合失調症③ 治療と看護（回復期） 4 認知症 5 精神科領域における治療と看護① 薬物療法/電気けいれん療法他 6 精神科領域における治療と看護② 心理療法 7 精神科領域における治療と看護③ 精神科リハビリテーション 8 精神科領域における医療安全・危機管理 9 精神科領域における法と制度 10 精神科看護における人権と倫理 11 精神科看護における自己理解・自己活用/プロセスレコードの活用 12 精神科看護の実践① 救急急性期看護 13 精神科看護の実践② 退院支援 14 精神科看護の実践③ 認知症看護 15 精神科看護の実践④ 精神科訪問看護				
授業の留意点	精神科看護の実践に不可欠な知識・技術を学ぶとともに、精神障害者を取り巻く社会のありようを理解するため、主体的に考える姿勢を求める。授業の進行状況、時事問題によって講義内容を変更することがある。				
学生に対する評価	筆記試験により評価する。素点 60 点以上の者について単位認定する。D 評価の者は再試験とし、同様に評価する。なお、学習の進行状況により中間試験を実施することがある。その場合の評価も同様に行う。講義ノートの評価点を加点することがある。				
教科書（購入必須）	テキストは使用せず、資料を配布する。				
参考書（購入任意）	必要時指示する。				

科 目 名	基礎看護学実習 I				
担 当 教 員 名	齋藤 千秋・畑瀬 智恵美・鈴木 朋子・岩田 直美				
学 年 配 当	1 年	単 位 数	1 単位	開 講 形 態	実習
開 講 時 期	後期	必修選択	必修	資 格 要 件	
実 務 経 験 及 び 授 業 内 容	健康障がいを持つ対象者とのかかわりやケアを通して、入院している対象者の心身の状態、生活の場である療養環境について学習し、看護の目的や役割について理解する。				
学 習 到 達 目 標	1. 病院の役割・機能、医療の場で働く看護師および他職種の専門職としての役割を説明できる。 2. 対象者とのかかわりを通して、入院生活の過ごし方について知り、健康時の日常生活との相違や困難さについて説明できる。 3. 対象者への援助を通して、健康の回復・維持・増進のために必要な看護援助を根拠に基づいて行う必要性を説明できる。 4. 看護学生として、チームの一員としての責任を自覚し、自律した行動ができる。 5. 実習を通して、自己の考えを深め看護観をレポートし、自己の課題を明らかにすることができる。				
授 業 の 概 要	健康障がいを持つ対象者とのかかわりやケアを通して、入院している対象者の心身の状態、生活の場である療養環境について学習し、看護の目的や役割について学ぶ。同時に臨床診断・コミュニケーション技術・倫理的判断についても学ぶ。				
授 業 の 計 画	実習内容 1. 実習施設内を見学し、主要部署とその役割について説明を受ける。 2. 実習病院の特徴や看護部の方針等についてオリエンテーションを受ける。 3. 療養環境について、病棟の見学とオリエンテーションを受ける。 4. 看護援助の実践に際しては、看護師・教員の説明や助言のもとに行う。 5. カンファレンスで学習内容を整理し、学びを共有する。 6. 学内演習では体験や学びを共有し、学びをまとめ、自己の課題を明確にする。 詳細は、実習要項を参照 ※実習目標に基づき、臨地実習 4 日間、学内演習 1 日間の計画を予定している。 ※詳細な実習計画・資料等は、実習開始前オリエンテーションで説明する。 ※実習開始前オリエンテーションを受けることは、実習において必須条件である。				
授 業 の 留 意 点	本授業科目は、看護学生とし医療の現場で体験的に学ぶ学習であるので、医療の現場で学ぶ者として自覚を持ち、対象や医療従事者の信頼を得られる行動を心がけ実習することが必要である。実習課題到達のためには、実習オリエンテーションに出席すること・事前学習が必要である点を十分認識して実習に臨むことが求められる。 本科目の先修要件は、看護学概論、看護技術論、看護共通技術Ⅰ、基礎看護技術Ⅰの単位修得、ヘルスアセスメント、看護共通技術Ⅱ、基礎看護技術Ⅱの単位修得見込みである。 計画的に学習し、体調を整えて実習に臨みましょう。				
学 生 に 対 す る 評 価	実習要項の評価方法に準ずる。尚、認定要件は実習記録一式が期限内に提出されることを前提とする。				
教 科 書 (購 入 必 須)	実習要項や必要な実習課題提出記録用紙等の関係資料は実習前に配布されるので、各自が既習科目の教科書を活用し、必要な事前準備を行うこと。				
参 考 書 (購 入 任 意)	配布資料・実習先に応じた参考文献は随時提示する。				

科 目 名	基礎看護学実習Ⅱ				
担 当 教 員 名	畑瀬 智恵美・齋藤 千秋・鈴木 朋子・岩田 直美				
学 年 配 当	2 年	単 位 数	2 単位	開 講 形 態	実習
開 講 時 期	後期	必修選択	必修	資 格 要 件	
実 務 経 験 及 び 授 業 内 容	看護師として実務経験を持つ教員が、臨地において、既習の知識や技術を基に看護の対象、療養環境、人間関係を形成するためのコミュニケーション、看護ケアをもとに、対象に必要な看護を理解し、その対象の看護上の問題（健康問題）を解決するための看護過程を展開し、同時に問題解決思考能力を教授する科目				
学 習 到 達 目 標	1. 対象者とコミュニケーションをとることができる。 2. 対象者を統合的に理解し、看護過程を展開できる。 3. 医療チームの一員として、看護師の役割および医療・福祉チームにおける連携・協働について説明することができる。 4. 看護の専門性、学問を探究する学習者として自己洞察し、今後の学習課題を明確にできる。 5. 実習を通して、自己の考えを深め看護観をレポートし、自己の課題を明らかにすることができる。				
授 業 の 概 要	看護学生として初めて一人の対象を受け持ち、健康に障がいをもつ人を理解すると共に、健康障がいをもつ対象の健康問題を解決するための看護過程を展開し、看護を実践する思考プロセスを学ぶ。また、他の専門職と連携・協働するチーム医療について学ぶ。同時に臨床判断、コミュニケーション技術、倫理的判断・行動についても学ぶ。これらを通して看護職に求められる知識・技術・態度についての学びを深める。				
授 業 の 計 画	実習内容 ＊ 実習目標に基づき、実習期間は2週間を予定している。 ＊ 成人期・老年期にある患者を受け持ち、看護過程を展開する。 ＊ 対象患者に実習依頼し、受け持つことに同意と署名を受ける。 ＊ 学生が立案した看護計画に基づいて実施する援助は、主に生活援助技術である。 詳細は、実習要項を参照 ＊ 詳細な実習計画・資料等は、実習開始オリエンテーションで説明する ＊ 実習開始前オリエンテーションを受けることは、実習において必須条件である。				
授 業 の 留 意 点	1. 既習科目（専門基礎科目、専門科目）および看護過程の学習したことを復習し、実習に臨んでください。また、実習で体験する内容について事前学習を十分行ってください。学習は計画的に行い、体調を整えて実習に臨みましょう。 2. 看護実践を通じて専門職業人を目指す看護学生としての責任を自覚し、看護の学習者として、主体的、自律的、真摯な姿勢で臨んでください。 3. 本科目の先修要件は、看護学概論、看護技術論、看護共通技術Ⅰ、看護共通技術Ⅱ、基礎看護技術Ⅰ、基礎看護技術Ⅱ、ヘルスアセスメント、基礎看護学実習Ⅰの単位を修得していることである。基礎看護技術Ⅲについては、単位修得見込みである。				
学 生 に 対 す る 評 価	実習要項の評価方法に準ずる。尚、認定要件は、実習記録一式が期限内に提出されたことを前提とする。				
教 科 書 (購 入 必 須)	既習科目（専門基礎科目、専門科目）および1年次に既習の教科書、参考図書、授業資料、その他全てを活用する。				
参 考 書 (購 入 任 意)	配布資料・実習先に応じた参考文献は随時提示する。				

科 目 名	地域看護学実習				
担 当 教 員 名	伊藤 亜希子				
学 年 配 当	4 年	単 位 数	2 単位	開 講 形 態	実習
開 講 時 期	通年	必修選択	必修	資 格 要 件	
実 務 経 験 及 び 授 業 内 容	市町村保健師および病院看護師の経験のある教員が担当する。 地域で暮らす在宅療養者の様々な生活場面において、各実習施設の専門資格を有する実習指導者のもと、在宅看護活動に必要な支援方法や家族ケアの実施に必要な専門的知識と技術について学び、看護師の役割について教授する科目である。				
学 習 到 達 目 標	1. 在宅療養者と家族の特性や生活上の課題やニーズを理解する。 2. 対象者の病気や障害に対する気持ちの受け止めや価値観などを考えることができる。 3. 在宅療養者や家族の健康や生活状態に応じた支援について考えることができる。 4. 対象者が利用している社会資源の内容を理解する。 5. 在宅療養者および地域全体の健康問題の解決に必要な保健・医療・福祉サービスの連携について理解する。				
授 業 の 概 要	訪問看護ステーション、地域包括支援センター、障害者支援施設において実習を行う。 訪問看護ステーションの実習では、在宅療養者の自宅に訪問看護師と同行し、在宅療養者の生活場面から訪問看護活動について学ぶ。地域包括支援センターの実習では、地域包括支援センターの役割の機能、支援の実際について学ぶ。障害者支援施設での実習では、地域で生活する障害者について、生活モデルを用いた支援の方法を学ぶ。 これらの実習を通して、地域で生活する人々に関する在宅ケアサービスと保健・福祉・医療・福祉の連携および協働について理解する。				
授 業 の 計 画	別途配布する「地域看護学実習要項」に基づいて、学内オリエンテーションを受けて実習を進める 実習期間と実習施設 1 週目 訪問看護ステーション 2 週目 地域包括支援センター、障害者支援施設 実習方法と内容 数名ごとの小グループに分かれて、1 週目は訪問看護ステーション、2 週目は地域包括支援センターと障害者支援施設で実習を行う。実習最終日に、カンファレンスを行い、全員で各実習先での学びを発表し疑問点などを共有し学びの視点を広げるとともに学びを深める。 1. 訪問看護ステーション 在宅療養者の自宅に訪問看護師と同行し、在宅療養者の生活場面から訪問看護活動について学ぶ 2. 地域包括支援センター 地域包括支援センターの役割の機能、支援の実際について学ぶ 地域包括支援センターの保健師や社会福祉士などに同行し対象者への訪問および事業などを見学する 3. 障害者支援施設 障害者支援施設において、地域で生活する障害者および生活を理解し、様々なプログラムより生活モデルを用いた関わり方や支援の方法を学ぶ これらの実習を通して、地域で生活する人々に関する在宅ケアサービスと保健・福祉・医療・福祉の連携および協働について理解するとともに地域包括ケアシステムについて考える				
授 業 の 留 意 点	地域看護および障害者福祉に関する制度や社会資源を復習して実習に臨んでください。実習では、在宅療養者の自宅や施設を訪問するため、学生として節度ある態度とマナーを大切に学ばせていただく姿勢で臨むこと。				
学 生 対 する 評 価	実習要項の評価表に準じる。				
教 科 書 (購 入 必 須)	河野あゆみ編 新体系看護学全書在宅看護論 メヂカルフレンド社				
参 考 書 (購 入 任 意)	石垣和子他編 看護学テキスト 在宅看護論自分らしい生活の継続をめざして 南江堂 河原加代子筆者 系統看護学講座統合分野 在宅看護論 医学書院				

科 目 名	成人看護学実習 I				
担 当 教 員 名	長谷部 佳子・南山 祥子・中谷 美紀子・鈴木 捷允				
学 年 配 当	3 年	単 位 数	3 単位	開 講 形 態	実習
開 講 時 期	後期	必修選択	必修	資 格 要 件	
実 務 経 験 及 び 授 業 内 容	看護師としての臨床経験を持つ教員が、看護師としての役割、患者に対する療養上の世話や診療の補助行為など相対的医行為の実践について指導する科目				
学 習 到 達 目 標	周手術期にある成人期の患者とその家族に対する看護を、看護過程の展開を通して実践し、看護に必要な基礎的知識・技術・態度を学ぶ。健康障害の急性期にある対象を全人的にとらえ、外科的療法によってもたらされる心身への侵襲を最小限にとどめ、回復するための看護援助の実践を学ぶ。さらに、看護の継続性を学ぶとともに、関係職種間の連携と協働について理解を深め、看護職者として主体的に取り組む姿勢を学ぶ。				
授 業 の 概 要	周手術期にある患者を受け持ち、身体的、心理的、社会的アセスメントにより対象の理解を深め、看護計画の立案、実施、評価をする。 外科的療法を受ける患者への看護援助の実施、看護の継続性、関係職種間の連携と協働、看護職者としての姿勢を学ぶ。				
授 業 の 計 画	<p>実習目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 周手術期にある患者の健康課題を把握し、個別的な計画を立て、実践、評価することができる。 2. 健康障害が患者および家族に及ぼす生活の変化を理解した援助的人間関係を形成することができる。 3. 急性期から回復期に至る対象とその家族に対し、生活の視点から回復促進のための働きかけができる。 4. 保健医療福祉チームの一員としてその役割を理解し、看護の継続性、関係職種間の連携・協働について理解することができる。 5. 看護学生として責任ある行動をとることができる。 <p>実習内容 詳細は実習要項およびガイダンスで説明する。</p> <p>実習方法 詳細は実習要項およびガイダンスで説明する。</p> <p>実習場所 名寄市立総合病院</p> <p>実習期間 3 週間</p>				
授 業 の 留 意 点	学内ですでに学習している専門基礎科目、専門科目（特に成人看護活動論 I）で学んだ知識・技術の活用が必要となるので、それらを復習するとともに、実習で体験する内容について事前学習を十分行って実習に臨んでください。				
学 生 に 対 す る 評 価	実習要項の評価方法に準じる。				
教 科 書 (購 入 必 須)					
参 考 書 (購 入 任 意)	藤野彰子・長谷部佳子（編著）「看護技術ベーシック」サイオ出版				

科 目 名	成人看護学実習Ⅱ				
担 当 教 員 名	長谷部 佳子・南山 祥子・中谷 美紀子・鈴木 捷允				
学 年 配 当	3 年	単 位 数	3 単位	開 講 形 態	実習
開 講 時 期	後期	必修選択	必修	資 格 要 件	
実 務 経 験 及 び 授 業 内 容	看護師としての臨床経験を持つ教員が、看護師としての役割、患者に対する療養上の世話や診療の補助行為など相対的医行為の実践について指導する科目				
学 習 到 達 目 標	慢性的な健康障害をもつ成人期の患者を受け持ち、看護過程を展開し、その看護実践を通して疾病や障害あるいは死を受容し、自己管理や生活の再構築、その人らしく過ごせるような支援の実践を学ぶことができる。さらに看護の継続性、関係職種との連携と協働の実践について理解することができる。				
授 業 の 概 要	健康障害の慢性期にある成人期の患者を1名受け持ち、身体的、心理的、社会的アセスメントにより対象の理解を深め、看護計画の立案、実施、評価をする。そのなかで、疾病や障害あるいは死を受容し、自己管理や生活の再構築、その人らしい生き方を支えるための看護の実践を学ぶ。また、看護の継続性を学ぶとともに、関係職種間の連携と協働について理解を深め、看護職者として主体的に取り組む姿勢を学ぶ。				
授 業 の 計 画	<p>実習目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 健康障害の慢性期にある患者の健康課題を把握し、個別的な計画を立て、実践、評価することができる。 2. 人間関係の重要性を認識し、健康障害の慢性期にある患者とその家族の心理的状态に応じた関わりをもつことができる。 3. 患者とその家族がその人らしく過ごせるように、生活の視点から教育指導を含む支援活動を考え、実践することができる。 4. 社会復帰に向けて、必要な保健医療・福祉サービスなど関係職種との連携・協働について理解することができる。 5. 看護学生として責任ある行動をとることができる。 <p>実習内容 詳細は実習要項およびガイダンスで説明する。</p> <p>実習方法 詳細は実習要項およびガイダンスで説明する。</p> <p>実習場所 名寄市立総合病院・名寄三愛病院</p> <p>実習期間 3 週間</p>				
授 業 の 留 意 点	学内ですでに学習している専門基礎科目、専門科目（特に成人看護活動論Ⅱ）で学んだ知識・技術の活用が必要となるので、それらを復習するとともに、実習で体験する内容について事前学習を十分行って実習に臨んでください。				
学 生 に 対 す る 評 価	実習要項の評価方法に準ずる。				
教 科 書 (購 入 必 須)					
参 考 書 (購 入 任 意)					

科 目 名	老年看護学実習				
担 当 教 員 名	澤田 知里・上原 主義				
学 年 配 当	3 年	単 位 数	4 単位	開 講 形 態	実習
開 講 時 期	後期	必修選択	必修	資 格 要 件	
実 務 経 験 及 び 授 業 内 容	看護師として臨床経験を有する教員が、老年看護の基本的な考え方、高齢者との関わり方、看護の展開方法、ケアの方法等を、実践を踏まえながら指導する。				
学 習 到 達 目 標	老年期に生きる高齢者とその家族の生活と健康、および健康問題について理解するとともに、多職種と協働する中での看護師の役割について考察することができる。				
授 業 の 概 要	高齢者は医療施設だけでなく、保健福祉施設や在宅等さまざまな場で生活している。多様な健康状況下にある高齢者の特性を理解し、学内で学んだ知識・技術、専門職としての態度と倫理観を看護実践の場において統合的に応用する。				
授 業 の 計 画	<p>実習方法：老年看護学実習は、グループホーム・通所サービス実習 2 単位と、高齢者施設での実習 2 単位で構成される。</p> <p>I. グループホーム・通所サービス実習（2 週間）</p> <p>II. 高齢者施設実習（2 週間）</p> <p>*実習場所</p> <p>*事前ガイダンスや課題があります。</p>				
授 業 の 留 意 点	<ul style="list-style-type: none"> ・本科目は老年看護学概論、老年看護活動論Ⅰ・Ⅱの単位を取得していなければ履修できない。 ・インフルエンザワクチン接種の要請を受ける場合がある。罹患の場合は実習中断となる。 				
学 生 に 対 す る 評 価	実習要項に本実習の目標に沿った評価項目・評価方法を提示、オリエンテーションで説明する。				
教 科 書 (購 入 必 須)					
参 考 書 (購 入 任 意)					

科 目 名	小児看護学実習				
担 当 教 員 名	永谷 智恵・網野 真由美				
学 年 配 当	4 年	単 位 数	2 単位	開 講 形 態	実習
開 講 時 期	通年	必修選択	必修	資 格 要 件	
実 務 経 験 及 び 授 業 内 容	小児とその家族が外来受診や入院している医療施設において臨床指導者のもと、看護職の責務を理解し、発達段階や家族のニーズに応じた看護援助を指導する科目				
学 習 到 達 目 標	1. 保育所実習を通して、成長発達に応じた日常生活、遊びの支援ができる。 2. 小児看護における外来看護の役割を理解できる。 3. 入院している小児とその家族の看護問題を明らかにできる。 4. 発達段階や個別性を考慮した看護ケアを考え実施できる。 5. 小児看護における看護職の責務を考察できる。 6. 障害を持っている子ども（成人）の日常生活を理解して必要とされる看護を理解できる。				
授 業 の 概 要	保育所実習では、指導保育士と共に子どもの日常生活、遊びの実験を体験する。 外来受診および入院している小児とその家族を看護する病棟実習では、既習の知識・技術を基に、看護ケアの計画立案・実施・評価のプロセスを体験し小児看護の実験を学ぶ。 療育園では、主に見学実習であるが、実習指導者の指導を受けながら、日常生活の援助やコミュニケーションを通して利用者のと関わり、必要とされる看護を考えていく。				
授 業 の 計 画	別途配付する「小児看護学実習要項」に基づいて学内オリエンテーションを行い実習を進める。 実習施設：小児病棟、小児科外来、保育所、療育園 実習期間：2 週間 実習方法：1 グループ1 週間単位で小児病棟と小児科外来・保育所に入る 1 日療育園での実習 実習内容 1) 小児病棟 ・受け持ち患児を決め、看護計画を立案する ・受け持ち患児の看護ケアを実施する ・実施した看護ケアについて評価し看護計画の修正を行う 2) 小児科外来 ・受け持ち患児を決め、家庭で行っているケアについて情報収集を行い、必要な看護ケアについてアセスメントする ・健診や予防接種に来ている子どもや家族に必要なプレパレーションを実施する 3) 保育所 ・健康な子どもの日常生活や遊びについて発達段階に応じた支援を行う 4) 療育園 ・障害のある子ども（成人）に必要な支援について、様々な専門家から説明を受け学ぶ ・実習指導者の指導のもと、障害のある子ども（成人）の日常生活の援助（主に食事介助）を実施する				
授 業 の 留 意 点	感冒や感染症の疑い・発症などは必ず報告してください。感染源・媒介の危険性がある場合は実習中止となる。予防接種の履行および日常生活・健康の管理に留意すること。 実習前には各自、既習の知識・技術の確認を行い、準備を整えて実習に臨むこと。				
学 生 に 対 す る 評 価	実習要項の評価方法に準ずる。				
教 科 書 (購 入 必 須)					
参 考 書 (購 入 任 意)	子どもの病気の地図帳 講談社				

科 目 名	母性看護学実習				
担 当 教 員 名	笹木 葉子・加藤 千恵子・渡邊 友香				
学 年 配 当	4 年	単 位 数	2 単位	開 講 形 態	実習
開 講 時 期	通年	必修選択	必修	資 格 要 件	
実 務 経 験 及 び 授 業 内 容	助産師としての実務経験を持つ教員が、妊娠分娩産褥期の母親と新生児の看護実践の基本を医療施設の臨床指導者と共に指導する科目				
学 習 到 達 目 標	<p>学生は、女性およびその家族を対象として、母性の健全な成長発達を促し、健康の維持・増進、発達課題の達成を促すための看護方法を学び、母性看護の役割について考えることができる。</p> <p>1) 学生は、妊娠、分娩、産褥期における女性の特性を身体的、心理的、社会的側面から理解し、各期の過程に影響する要因について理解できる。</p> <p>2) 学生は、母性意識の育成および母子関係、家族関係成立にむけての支援を学ぶことができる。</p> <p>3) 学生は、妊産褥婦がセルフケア行動や養育行動を獲得していく過程の支援を学ぶ。</p> <p>4) 学生は、新生児の生活を整える働きかけを通して、新生児が胎外生活に適応していく過程を理解することができる。</p> <p>5) 学生は、生命の尊厳や母性の尊重について、自己の考えを深めることができる。</p> <p>6) 学生は、母子保健活動の実践を通し、母子を継続して支援する方法を学び、その必要性を理解できる。</p>				
授 業 の 概 要	<p>1) 学生は、妊娠・分娩・産褥期にある母子を受け持ち、身体的、心理的、社会的アセスメントにより発達課題や発達危機、健康状態を把握し、母子の健康を維持促進するために必要な看護実践の基礎的知識・技術・態度を学ぶ。</p> <p>2) 学生は、産後、地域で生活する褥婦及び新生児の健康状態および地域が抱える課題について学ぶ。</p> <p>3) 学生は、地域における母子保健活動の実践を学ぶ。</p>				
授 業 の 計 画	<p>実習内容(産科病棟実習・産科外来実習・地域母子保健実習)</p> <p>周産期からの母性看護の対象が訪れる施設と地域を理解する。また、実習中に関わる1事例以上の対象の特性を理解し、看護過程のアセスメントを通して看護の方法を学ぶ。</p> <p>実習方法</p> <p>1) 実習場所(4か所)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・名寄市立総合病院3階西病棟, 名寄市立総合病院産婦人科外来, 野口母乳育児相談室, 名寄市立大学タッチケアサロン <p>1 グループ: 1週間単位で病棟・分娩参加見学チームと外来・地域母子保健活動チームで交替する(1G8名)</p> <p>2) 実習内容</p> <p>(1) 周産期母子実習(病棟)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・褥婦と新生児の看護: 1例受持ち ・産婦の看護は参加見学 <p>(2) 産婦人科外来実習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・妊婦健康診査・保健指導の見学及び一部実施(1例以上) ・地域母子保健活動実習(タッチケアサロン、母乳育児相談等)の参加見学 <p>実習期間 2週間</p>				
授 業 の 留 意 点	母性看護学概論、母性看護活動論Ⅰ、母性看護活動論Ⅱをすべて履修済であること。 事前に配布する実習要項、特に達成目標を読み、事前学習を行い、活動論Ⅰ・Ⅱで作成したまとめを実習で活用すること。				
学 生 対 対 する 評 価	実習方法の評価方法に準ずる。				
教 科 書 (購 入 必 須)	<ul style="list-style-type: none"> ・系統看護学講座 専門Ⅱ母性看護学各論 母性看護学 2 森恵美(医学書院) ・ナーシンググラフィカ母性看護学③母性看護技術 ・ウェルネス看護診断にもとづく母性看護過程 第3版 太田操(医歯薬出版) 				
参 考 書 (購 入 任 意)	<ul style="list-style-type: none"> ・病気がみえる VOL10 産科 第4版 (メディックメディア) ・看護観察のキープポイントシリーズ母性Ⅰ、Ⅱ 前原 澄子(編集)(中央法規出版) ・系統看護学講座 専門Ⅱ母性看護学概論 母性看護学 1 森恵美(医学書院) 				

科 目 名	精神看護学実習				
担 当 教 員 名	結城 佳子・中島 泰葉				
学 年 配 当	4 年	単 位 数	2 単位	開 講 形 態	実習
開 講 時 期	通年	必修選択	必修	資 格 要 件	
実 務 経 験 及 び 授 業 内 容	精神科医療機関等において、看護師等として実務経験を持つ教員及び臨地実習指導者による指導のもとで看護援助を実践し、それを通して対象理解、看護援助方法ならびに人権擁護等を学び、看護師の役割について指導する科目				
学 習 到 達 目 標	精神健康について援助を必要とする人とのかかわりと看護援助の実践を通して、対象を精神的・身体的・社会的側面等から総合的に理解し、治療的コミュニケーション技法および精神科における看護援助方法を修得する。また、精神疾患および精神障害が対象の生活に及ぼす影響を理解し、生活支援における他職種と医療チームにおける看護職の役割を理解する。				
授 業 の 概 要	1. 精神科病棟において入院患者を受け持ち、看護過程を展開する。あわせて、施設見学、精神科における治療・リハビリテーションの見学を行う。 2. 受け持ち患者をはじめとする入院患者とのかかわりや受け持ち患者の看護過程の展開を通して、精神看護に必要な基礎的な知識・技術を習得し、精神科において看護職に求められる基本的な態度を養う。 3. 治療・リハビリテーションの見学や看護過程の展開を通して、他職種の役割と医療チームにおける看護職の役割を理解する。				
授 業 の 計 画	1 別途配布する「精神看護学実習要項」に基づいて学内オリエンテーションを行う。(半日) 2 精神科救急急性期病棟、回復期病棟、慢性期病棟のいずれかにおいて2週間の実習を行う。患者を受け持ち、臨地実習指導者および教員の指導のもと看護過程を展開、実践する。(各自の実習時期については別途指示する) 3 実習期間中にアルコール集団療法、SST、作業療法等の精神科における治療・リハビリテーションの実際を見学する。(見学日時は実習施設の予定による) 4 実習中に受け持ち患者等とのかかわりをプロセスレコードに記録し、自己理解に活用する。 5 実習終了後、看護計画や記録類、総合レポートを提出する。(提出日は別途指示する)				
授 業 の 留 意 点	学内ですでに学習している専門基礎科目、専門科目（特に、精神看護学概論、精神看護活動論）で学んだことを活用する必要がある。学んだことを復習して実習に臨むこと。 看護学生としてふさわしい責任ある行動や真摯な態度をとること。 なお、COVID-19 感染拡大状況により臨地での実習の他、学内での演習を行うことがあり得る。				
学 生 に 対 す る 評 価	評価項目・評価方法を実習要項に提示、実習前に実施するオリエンテーションにて説明する。総合点 60 点以上を単位認定する。				
教 科 書 (購 入 必 須)	テキストは使用しない。				
参 考 書 (購 入 任 意)					

科 目 名	統合実習				
担 当 教 員 名	看護学科教員				
学 年 配 当	4 年	単 位 数	2 単位	開 講 形 態	実習
開 講 時 期	通年	必修選択	必修	資 格 要 件	保健師：必修
実 務 経 験 及 び 授 業 内 容	保健師・助産師・看護師としての実務経験を持つ教員が、より実践的な状況場面における看護の展開を教授する科目。				
学 習 到 達 目 標	<p>保健医療チームの一員として看護の役割を学び、他職種、他機関との連携・協働を通して主体的に看護を展開する実践的能力を養う。また、既習の講義・実習を統合し、興味・関心領域における看護実践能力の向上をめざし、探究的姿勢および態度を学ぶ。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 保健医療チームおよび看護チームの組織・機能・管理の実際を学び、チームの一員としての役割を理解する。 2. 保健医療チーム並びに看護チーム、他機関、他職種等との連携・協働の実際を学び、統合的・継続的な看護実践について理解する。 3. 看護実践に必要な知識・技術を統合し、より実践的な状況・場面における看護を展開することができる。 4. 看護職に求められる専門性とその責任を理解し、より質の高い看護実践をめざし自己研鑽を継続する必要性を理解する。 				
授 業 の 概 要	基礎、地域、成人、老年、小児、母性、精神ならびに公衆衛生看護学の各領域または領域間の連携により実習する。各領域の専門性を反映した実習内容により実習目的・目標の到達をめざす。学生は、選択した領域の実習計画に基づき、配置された実習施設での実習を行う。				
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 別途配布する「統合実習要項」に基づき、学内でのオリエンテーションを行う。 2 オリエンテーションでは、各領域等の実習計画（実習方法、内容、実習施設等）について説明し、領域等の配置について希望調査を行う。 3 それぞれの希望に応じて、領域等ならびに実習施設の配置を調整する。各実習施設への学生配置数は2～4名を予定している。各グループには、担当の教員と臨地実習指導者を配置し、指導を行う。 4 実習内容は、より実践的な看護活動として看護管理、複数患者受持ち、夜間帯勤務の見学等、継続看護は退院支援や地域生活活動支援等他、他機関・他職種との連携、家庭訪問、地区組織活動等領域の専門性を反映している。 5 実習施設での実習中は、教員と臨地実習指導者が連携して指導にあたる。また実習終了後は、主に教員の指導に基づき、学内演習等により学びを深めその統合を行う。 				
授 業 の 留 意 点	4年間の学びの集大成の実習であり、主体的に学び、自己を研鑽する姿勢をもって実習に臨むこと、看護学生として責任ある行動をとることが期待される。				
学 生 に 対 す る 評 価	実習要項の評価方法に準じる。				
教 科 書 (購 入 必 須)	特に指定しない				
参 考 書 (購 入 任 意)					

科 目 名	看護倫理				
担 当 教 員 名	石垣 靖子				
学 年 配 当	3 年	単 位 数	1 単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	後期	必修選択	必修	資 格 要 件	
実務経験及び授業内容	緩和医療において、看護師および看護管理者として豊かな臨床経験を持つ教員が、実際の事例や看護場面を通して看護における倫理を教授する科目。				
学習到達目標	倫理が日常の実践と深く結びついていることを学び、倫理の基本的な知識を学習する。 また、医療・ケアの目標である受け手の QOL を維持し、高めるために患者・家族のアドボケートとしての看護師の役割について学習する。				
授 業 の 概 要	看護師として、ケアの対象である患者・家族への倫理的な支援が行えるように、基本的な知識をグループワークやビデオ学習等を通して学ぶ。				
授 業 の 計 画	1 医療倫理のはじまり、その背景について理解する。 2 医療・ケアの質と倫理の位置づけを説明できる。 3 看護倫理の特徴と倫理的ジレンマについて理解する。 4 受け手と担い手との共同行為としての医療・ケアについて説明できる。 5 倫理観が原点である“ケアリング”の概念について理解する。 6 意思決定を支援するプロセスとその本質について理解する。 7 倫理的事例検討の実際を理解する。 8 院内倫理委員会とその役割について理解する。 9 人間尊重の倫理原則とその実際について理解する。 10 COVID-19 の中での倫理的な課題について理解できる。				
授 業 の 留 意 点	倫理がよい実践と同義語であることを授業を通して一緒に考えたいと思います。 実習で出会った様々な場面を通して話し合ひましょう。				
学 生 に 対 す る 評 価	授業態度 30 点 レポート 70 点				
教 科 書 (購入必須)	石垣 靖子他：臨床倫理ベーシックレッスン、日本看護協会出版会、2012				
参 考 書 (購入任意)	清水哲郎著 「医療現場に臨む哲学」 勁草書房 1997 (この本は臨床に出ても役立つ本です。)				

科 目 名	看護マネジメント論				
担 当 教 員 名	原口 眞紀子・井戸川 みどり・久保 千夏				
学 年 配 当	3 年	単 位 数	1 単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	後期	必修選択	選択	資 格 要 件	
実務経験及び授業内容	現在、看護管理者として看護マネジメントを実践している教員が、看護を取り巻く法制度、マネジメントの知識・技術を教授する科目。				
学習到達目標	看護サービスを提供するためには、看護職同士の協同、他職種との連携、対象者自身やご家族の協力とともに、対象者を取り巻くあらゆる資源を十分に活用することが必要となるため、その人的・物的・財的資源が自然発生的に無限にあるのではなく、多くの場合有限であるため、これらの資源をどのように有効利用するかが重要であり、それを維持・活用するための仕組みを理解する。				
授 業 の 概 要	1. チームや組織をつくり動かしていくことは管理者だけの仕事ではなく、ケアを提供しているすべての看護職が担う役割であることを学ぶ。 2. 看護を仕組みとしてとらえ、それがどのようにになっているのか、問題はなにか、どのような改善策があるのか、どのようにすればより良い看護が提供できるのか等を追及し、多数の人々が共に働くための「技」を学ぶ。				
授 業 の 計 画	1 看護とマネジメント 2 看護ケアのマネジメント 3 看護ケアのマネジメント 4 看護ケアのマネジメント 5 看護サービスのマネジメント 6 看護サービスのマネジメント 7 看護サービスのマネジメント 8 看護サービスのマネジメント 9 看護を取りまく諸制度 10 看護を取りまく諸制度 11 看護を取り巻く諸制度 12 看護を取り巻く諸制度 13 マネジメントに必要な知識と技術 14 マネジメントに必要な知識と技術 15 マネジメントに必要な知識と技術				
授 業 の 留 意 点	実習中に気づいた看護管理に関する問題・疑問・課題解決に向けて考えたことを整理しておく。				
学 生 に 対 す る 評 価	レポート 100 点で評価する。				
教 科 書 (購入必須)	上泉和子他 『系統看護学講座 統合分野 看護管理 看護の統合と実践 [1]』 医学書院				
参 考 書 (購入任意)					

科 目 名	看護教育学				
担 当 教 員 名	定廣 和香子・松田 安弘				
学 年 配 当	4 年	単 位 数	1 単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	後期	必修選択	選択	資 格 要 件	
実 務 経 験 及 び 授 業 内 容	看護師としての実務経及び看護教育における豊富な実践、研究経験を持つ教員が、看護教育学の基本を教授する科目				
学 習 到 達 目 標	① 看護教育学の構造・基本概念を理解し、看護教育制度の特徴と課題を明らかにする。 ② 看護教育カリキュラム編成・授業展開・教育評価の基本を理解する。 ③ 看護専門職として発展するために必要な理論・研究成果を学習し、その特徴と意義を明らかにする。 ④ ①から③を通して、大学において看護学を学習する上での自己の課題を明らかにする。				
授 業 の 概 要	看護教育学の構造・基本概念の理解を基本として、わが国における看護教育制度、看護学教育におけるカリキュラムのプロセス、教授＝学習過程、教育評価について学習することを通し、看護職養成教育の現状と今後の課題について考察する。また、専門職として発展するために必要な理論・研究成果を学習するとともに、これらの学習を通して、大学において看護学を学ぶ意義と課題を確認する。				
授 業 の 計 画	1 ガイダンス・看護教育学と看護学教育 2 看護教育制度（１）基礎 3 看護教育制度（２）発展 4 看護教育カリキュラム 5 看護学教育における授業展開（教授＝学習過程） 6 看護学教育における教育評価 7 看護専門職として発展するために必要な理論・研究成果 8 看護学教育の現状と今後の課題				
授 業 の 留 意 点	看護教育学は、学生の皆様を含む看護職者の発達の支援を通して、看護の対象に質の高い看護を提供することを目指す学問です。また、その研究対象は、看護学教育の各領域に共通して普遍的に存在する要素（学習活動、教育活動、カリキュラム、教育評価、看護学実習 etc）です。講義では、様々な看護教育学の研究成果を紹介しながら授業を進めていきます。皆様が、看護学の学習を進める上での課題や問題を解決するヒントを見つけていただければ幸いです。				
学 生 に 対 す る 評 価	レポートで評価する。（100 点）				
教 科 書 （ 購 入 必 須 ）	杉森みど里・舟島なをみ：看護教育学第 6 版、医学書院、2016				
参 考 書 （ 購 入 任 意 ）					

科 目 名	災害看護学・国際看護学				
担 当 教 員 名	播本 雅津子・長谷部 佳子				
学 年 配 当	4 年	単 位 数	1 単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	通年	必修選択	必修	資 格 要 件	
実 務 経 験 及 び 授 業 内 容	<p>災害看護学では、大規模自然災害時および大規模感染拡大時に保健師として支援活動を実施した教員が担当する。</p> <p>国際看護学では、看護師資格を有し、JICA の草の根事業申請のためモンゴル国で活動した経験、および赤十字関連のインドネシアで活動した経験を通じて講義を展開する。</p>				
学 習 到 達 目 標	<p>災害看護学では、災害の種別および災害に関する法令等を理解する、災害看護の歴史および基礎知識を理解する、災害時の医療・看護活動の実際について理解する、災害時を念頭においた日々の看護活動について考察する、の 4 点を目標とする。</p> <p>国際看護学では、グローバルな視点で看護活動を考えられるようになることを目標とする。</p>				
授 業 の 概 要	<p>授業は災害看護学部分と国際看護学部分のオムニバスである。</p> <p>災害看護学では、災害に関する基礎知識および災害看護学に関する実際の活動等について講義を通じて理解を深めた後に、実際の活動についての体験談や演習を通じて、ひとり一人が災害時の看護活動について考える機会を持つことのできる授業とする。</p> <p>国際看護学も同様に、総論・各論の講義を通じて理解を深めた後に、実際の活動に関する体験談を含む演習を通じて、国際看護の視座を養う。</p>				
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 災害看護学オリエンテーション・災害について・災害看護学の歴史について 2 災害に関する法律・法令 3 様々な災害から生まれた支援活動の教訓について 4 災害時の看護活動について（DMAT の実際） 5 トリアージについて 6 災害保健について（保健師活動の実際） 7 放射線災害について 8 国際看護を考えるうえでの理論・制度 9 国際協力の仕組み、日本との関係 10 世界の健康問題 11 海外での国際看護活動 1 12 海外での国際看護活動 2 13 日本における国際看護活動 1 14 日本における国際看護活動 2 15 統合学習 				
授 業 の 留 意 点	<p>出席および成績評価は、災害看護学部分と国際看護学部分に分かれそれぞれ 6 割を必要とする。極力遅刻や欠席のないように臨む。</p> <p>COVID-19 感染拡大状況によっては一部または全部を遠隔授業で行う可能性がある。</p>				
学 生 に 対 す る 評 価	災害看護学部分はレポート評価を行う。国際看護学部分もレポート評価を行う。				
教 科 書 (購 入 必 須)					
参 考 書 (購 入 任 意)					

科 目 名	看護情報学				
担 当 教 員 名	村上 正和				
学 年 配 当	3 年	単 位 数	1 単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	前期	必修選択	選択	資 格 要 件	
実 務 経 験 及 び 授 業 内 容	看護師として実務経験を持つ教員が看護実践における情報の活用と情報倫理を含む情報管理の実 際を教授する科目				
学 習 到 達 目 標	①看護情報学における基礎的知識を理解する。 ②看護における情報の特徴とその扱い、看護者としての情報倫理を理解する。 ③今日、臨床で活用されている情報システムとその活用について理解する。				
授 業 の 概 要	本科目は、これまで学習してきたコンピュータリテラシーを再確認するとともに、看護が扱う情報 についての基本的特徴、看護場面における情報の持つ意味・特徴、医療情報システムの概要と看護 における活用について学習し、プライバシーに関する基本的知識と態度を習得し、自らが看護に関 する情報をより効率的にのり的確に利用できる能力を涵養することを目指す。				
授 業 の 計 画	1 コースオリエンテーション・看護情報学の概要と看護師が身に着けるべき ICT 能力 2 コンピュータリテラシーと情報リテラシー 3 情報倫理と法 4 看護におけるデータ・情報の特徴 ※情報共有演習含む 5 医療情報システム ※電子カルテ演習含む 6 看護用語の標準化と標準看護計画 7 看護における情報システム活用例 8 統合学習				
授 業 の 留 意 点					
学 生 に 対 す る 評 価	試験(60 点)、課題(30 点)、授業態度・講義ごとのリアクションペーパー(10 点)により総合的に評 価する。				
教 科 書 (購 入 必 須)					
参 考 書 (購 入 任 意)	・ 中山和弘他：系統看護学講座 別巻 看護情報学/医学書院 2012 ・ 太田勝正他：看護情報学/医歯薬出版 2014 ・ 坂田信裕監修：だいじょうぶ？あなたの情報リテラシー(DVD)/医学映像教育センター				

科 目 名	看護統合演習				
担 当 教 員 名	看護学科教員				
学 年 配 当	4 年	単 位 数	1 単位	開 講 形 態	演習
開 講 時 期	通年	必修選択	選択	資 格 要 件	
実 務 経 験 及 び 授 業 内 容	看護師としての臨床経験を持つ教員が、看護師としての役割、患者に対する療養上の世話や診療の補助行為など相対的医行為の実践について指導する科目				
学 習 到 達 目 標	1. 患者の身体への侵襲が強く実習や学内演習では体験することができなかった診療補助技術や、実際臨床で行われている実践に近い看護技術のスキルを習得することができる。 2. 卒業生の講演や懇談から臨床現場の実際を知り、看護専門職として・社会人としての心構えができる。				
授 業 の 概 要	臨床に即した看護技術実践力の向上、専門的看護技術の向上、看護専門職者としての心構えの育成をめざし 1. 優先度や判断力を育成する多重課題を有する患者のロールプレイを行う。 2. 卒業生を含む臨床現場の看護師の指導を受けながら、実習や学内演習では体験できない診療補助技術の演習を行う。 3. 卒業生から「看護専門職者として求められていること」や「社会人としての心構え・新人としての臨床の体験」などの講演を聞く。				
授 業 の 計 画	1 看護統合演習 オリエンテーション スケジュール説明など 2 講演会 新人看護師に期待すること、社会から見た看護職者に求められること 3 講演会 新人看護師に期待すること、社会から見た看護職者に求められること 4 講義 点滴静脈内注射・筋肉注射、輸液ポンプ・シリンジポンプ、採血、胃管カテーテル挿入他 5 講義 点滴静脈内注射・筋肉注射、輸液ポンプ・シリンジポンプ、採血、胃管カテーテル挿入他 6 多重課題 ロールプレイ 7 多重課題 ロールプレイ 8 講演会（卒業生：看護師） 看護師として社会人として 9 講演会（卒業生：新人看護師） 卒業1年を経過して 10 技術演習（卒業生） 点滴静脈内注射、輸液ポンプ、採血他 11 技術演習（卒業生） 点滴静脈内注射、輸液ポンプ、採血他 12 技術演習（卒業生） 点滴静脈内注射、輸液ポンプ、採血他 13 技術演習（卒業生） 点滴静脈内注射、輸液ポンプ、採血他 14 卒業生や臨床NSとの交流会 15 卒業生や臨床NSとの交流会				
授 業 の 留 意 点	卒業直前の演習であり、看護師として働いている卒業生の指導も受けられるので、実習では体験できなかった現場のスキルを積極的に学ぶこと。先輩看護師に心配や不安なことを聞いて心の準備をする。				
学 生 に 対 す る 評 価	レポート 100 点				
教 科 書 (購 入 必 須)	なし				
参 考 書 (購 入 任 意)	必要時紹介する				

科 目 名	看護研究の基礎				
担 当 教 員 名	長谷部 佳子・南山 祥子				
学 年 配 当	3 年	単 位 数	1 単位	開 講 形 態	演習
開 講 時 期	前期	必修選択	必修	資 格 要 件	
実 務 経 験 及 び 授 業 内 容	看護師資格を有し、病院での看護研究指導や講演、大学院での研究方法の教授および修士論文指導実績がある教員が研究・基礎について教授する。				
学 習 到 達 目 標	看護における様々な事象について、専門的知識・技術の向上や開発につながる信頼性・妥当性の高い知見を導き出すために必要な看護研究の知識や研究方法への理解を深め、実践の場における研究活動を自立して行うための知識的基盤を習得することを目標とする。				
授 業 の 概 要	新しい知見を導き出すために必要な看護研究の方法論について、先行研究論文のクリティークや具体的な研究例等を通して学び、研究に重要な科学的かつ論理的な思考方法や研究者としての倫理について理解を深める。				
授 業 の 計 画	1 看護研究とは、看護における研究の必要性和意義 2 看護研究の方法 3 看護研究における倫理 4 文献検索と検討①クリティークの視点 5 文献検索と検討②自己の研究テーマへの活用 6 研究計画の立て方①研究方法の決定方法 7 研究計画の立て方②評価項目の決定方法 8 調査研究①量的研究と質的研究 9 調査研究②データ収集の方法と注意点 10 実験研究 11 調査研究③調査の実施 12 調査研究④質的データの整理 13 研究発表の仕方 14 看護研究の実際①研究計画書の作成 15 看護研究の実際②データ処理				
授 業 の 留 意 点	卒業研究での学習を進めるために必須な学習内容となっているので、必ず全講義に出席すること。積極的に講義に参加することを期待する。				
学 生 に 対 す る 評 価	レポート 100 点で評価する。				
教 科 書 (購 入 必 須)	岡本和士、長谷部佳子：看護研究はじめての一步、第 1 版、医学書院、2006				
参 考 書 (購 入 任 意)	下記の他、必要時指示する。 黒田裕子：看護研究 step by step、第 5 版、医学書院、2017				

科 目 名	卒業研究				
担 当 教 員 名	看護学科教員				
学 年 配 当	4 年	単 位 数	2 単位	開 講 形 態	演習
開 講 時 期	通年	必修選択	必修	資 格 要 件	
実 務 経 験 及 び 授 業 内 容	保健師・助産師・看護師としての実務経験を持つ教員が、看護に関する研究のプロセスや方法を教授する科目。				
学 習 到 達 目 標	<p>テーマ：看護研究の方法論を学ぶ</p> <p>目標：看護研究の基礎で学んだことをもとに、将来にわたって研究に対する関心を深め、科学的・論理的思考を学ぶとともに、研究的態度と姿勢を修得する。</p>				
授 業 の 概 要	<p>本科目は、既習の知識や看護学実習から生まれた問題意識を研究課題へ発展させ、研究計画書作成から論文作成、発表までの過程について学ぶことを目的とする。小人数ゼミナール及び担当教員の指導により、研究課題に関する文献検索から目的を明確にし、適した研究方法を選択し研究計画書を作成する。必要時は倫理審査を受ける。研究計画に基づきデータ収集（実施）、分析、考察を行い、論文としてまとめていく。更に、報告会で発表と討議を行う。研究計画から実施、まとめ、発表の一連を通して、科学的・論理的思考を学ぶとともに、継続的に自己を研鑽する態度を養う。</p>				
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 卒業研究に関する全体ガイダンス 2 関心のある課題を設定して、その課題追求の可能性を探索する 3 関心のある課題の周辺論文や先行研究などへのクリティークを行い、研究の目的や価値・意義を検討する 4 研究するための文献をクリティークし、研究デザインを検討する 5 研究目的に合った研究方法を検討し、データ収集するための資料を作成する 6 研究計画書を作成する 7 倫理的配慮を検討し、必要な倫理審査を受審する 8 研究の実実施施設、対象者に依頼・調整して協力を得る 9 研究計画書に基づき、対象者へ倫理的配慮を行いながらデータを収集する 10 収集したデータの整理を行い分析する 11 分析したデータの結果を先行研究の結果と対比しながら、吟味や考察を行う 12 研究の結論を明らかにして文章化に取り組む 13 定められた体裁に整えて、研究成果を論文・抄録にまとめる 14 研究成果の発表と討議を行う 15 研究の全過程を振り返って自己課題の達成度および取り組みの態度への自己評価を行う 				
授 業 の 留 意 点	<p>担当教員の指導のもと、研究対象者への倫理的配慮を十分に検討し、必要な倫理審査を受審する。調査等においては、研究対象者に対し十分な説明を行ったうえで、協力への同意を得て実施する。患者・看護職等外部者に協力を依頼する場合は特に倫理的配慮に留意し、必要であれば関係機関の倫理審査を受審する。</p>				
学 生 に 対 す る 評 価	<p>実施、論文作成などの課題の達成度（50 点）、計画書、取組の姿勢・態度、倫理的配慮など（50 点）から評価する。</p>				
教 科 書 （ 購 入 必 須 ）	使用しない				
参 考 書 （ 購 入 任 意 ）	<p>南裕子編集：「看護における研究」、日本看護協会出版会</p> <p>小笠原千枝：これからの看護研究-基礎と応用-、ヌーヴェルヒロカワ</p> <p>他、各教員から指示する。</p>				

科 目 名	公衆衛生看護学概論				
担 当 教 員 名	播本 雅津子				
学 年 配 当	2 年	単 位 数	2 単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	後期	必修選択	選択	資 格 要 件	保健師：必修
実務経験及び授業内容	保健所保健師の経験を有する教員が担当する。保健師教育の基幹科目である公衆衛生看護学について保健師の役割を軸に概説する。				
学 習 到 達 目 標	公衆衛生看護活動は、地域において、個人・家族・集団・組織等を対象に、人々の健康への援助を看護の立場から活動展開することである。公衆衛生看護の視点は、公衆衛生を基盤とし、対象集団全体の健康増進と疾病予防を目指している。ここでは公衆衛生看護の活動の概要および、公衆衛生看護の専門職である保健師について学び、保健師という専門職の役割を理解することを目標とする。				
授 業 の 概 要	保健師という専門職を理解し、その活動分野および職種の役割について学ぶ。保健師という職業の成り立ちや時代背景、現代における役割期待など、公衆衛生看護活動の実際を学ぶ導入とする。				
授 業 の 計 画	1 オリエンテーション 2 公衆衛生看護の理念と活動分野 3 保健師の専門性について 4 対象としての個人・家族 5 対象としての集団・組織 6 公衆衛生看護の歴史（１）保健師活動の源流 7 公衆衛生看護の歴史（２）健康課題の解決と保健師活動（昭和時代） 8 公衆衛生看護の歴史（３）健康課題の解決と保健師活動（平成時代） 9 社会環境の変化と健康課題（１）人口・社会構造・文化的背景 10 社会環境の変化と健康課題（２）社会情勢・政治経済等の変化 11 公衆衛生看護活動の基本展開（１）個人・家族へのアプローチ 12 公衆衛生看護活動の基本展開（２）集団・グループへのアプローチ 13 保健師活動の基本姿勢（１）保健指導 14 保健師活動の基本姿勢（２）保健師活動指針 15 まとめ				
授 業 の 留 意 点	遅刻・欠席のないよう健康管理に努めた上で授業に臨むこと。遅刻・欠席をする場合は必ず連絡をすること。 COVID-19 感染拡大状況に応じて一部または全部を遠隔授業で行う可能性がある。				
学 生 に 対 す る 評 価	筆記試験およびレポート試験を行う。筆記試験 80 点、レポート試験 20 点としそれぞれ 6 割以上の評価点が必要である。				
教 科 書 （購入必須）	公衆衛生看護学 第2版（中央法規）				
参 考 書 （購入任意）					

科 目 名	創成看護学活動論 I				
担 当 教 員 名	播本 雅津子				
学 年 配 当	3 年	単 位 数	1 単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	前期	必修選択	必修	資 格 要 件	保健師：必修
実務経験及び授業内容	看護学科教員が看護実践および研究活動を通して精通している課題に則して講義を展開する。各看護学で学んだ内容の深まりを期待するとともに、新たな看護分野の創成に取り組む意欲が養われることを期待する。				
学習到達目標	現代社会の課題と現状および現在の取り組みについて学び、今後看護職として果たすべき役割について各自が考える姿勢を持つことを目標とする。				
授 業 の 概 要	基本となる看護学から発展した看護実践活動から、看護学の深まりや発展に気づくと同時に、将来的に新たな看護分野の創成に取り組む意欲が養われることを期待する科目である。現代社会の課題と現状および現在の取り組みについて学び、今後看護職として果たすべき役割について各自が考える姿勢を持つことを目標とする。看護学科教員が実務経験や研究活動を通して現代の社会問題や健康課題、看護活動の課題に関して教授する。				
授 業 の 計 画	1 睡眠公衆衛生学および睡眠保健指導 2 自殺予防対策とゲートキーパー活動 3 看護カンファレンスの実際 4 虐待予防への社会的取り組み 5 健全な親子関係育成の取り組み 6 Covid-19 対策の実際 7 看護職員確保対策について 8 まとめ				
授 業 の 留 意 点	遅刻・欠席のないよう健康管理を心掛けて下さい。授業回数が少ないため 5 回以上の出席が必要です。				
学 生 に 対 す る 評 価	レポート試験 50 点、各回の小レポート合計 50 点により評価する。レポート試験および小レポート合計それぞれ 6 割の評価点を必要とする。				
教 科 書 (購入必須)	なし				
参 考 書 (購入任意)					

科 目 名	創成看護学活動論Ⅱ				
担 当 教 員 名	長谷部 佳子				
学 年 配 当	4 年	単 位 数	1 単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	前期	必修選択	選択	資 格 要 件	保健師：必修
実務経験及び授業内容	看護学科教員の研究活動または、臨地で活躍する看護職をゲストに招き、実践活動に基づき講義を展開する。各看護学で学んだ内容の深まりを期待するとともに、新たな看護分野の創成に取り込む意欲が養われることを期待する。				
学習到達目標	実践的な看護活動に触れることにより、看護職としての将来イメージを明確にすることを目標とする。				
授業の概要	看護学科教員の研究活動または、臨地で活躍する看護職をゲストに招き、実践活動に基づき講義を展開する。各看護学で学んだ内容の深まりを期待するとともに、新たな看護分野の創成に取り組む意欲が養われることを期待する。				
授業の計画	1 こどもに関わる分野の実践活動 2 新たな命を育む活動 3 移植医療における看護活動 4 救命救急における看護活動 5 へき地における看護活動 6 ターミナルケア 7 暮らしの中の心の看護（ひきこもり・とじこもり） 8 まとめ				
授業の留意点	遅刻・欠席のないよう健康管理を心掛けて下さい。授業回数が少ないため 5 回以上の出席が必要です。				
学生に対する評価	レポート試験 50 点、各回の小レポート合計 50 点により評価する。レポート試験および小レポート合計それぞれ 6 割の評価点を必要とする。				
教科書 (購入必須)	なし				
参考書 (購入任意)					

科 目 名	公衆衛生看護技術論				
担 当 教 員 名	播本 雅津子				
学 年 配 当	3 年	単 位 数	2 単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	通年	必修選択	選択	資 格 要 件	保健師：必修
実務経験及び授業内容	保健所保健師の経験を有する教員が担当する。保健師活動に必要な基本技術についての理論と実践活動例について教授する。				
学習到達目標	保健師活動の基本となる地域診断のモデルについて説明できる。 健康教育の理論を学び、場や対象に応じた方法を説明できる。 保健事業ごとに適した評価方法を選定することができる。				
授 業 の 概 要	保健師活動に必要な技術について学習する。地域診断、地区組織活動、グループ活動、家庭訪問の展開、地域包括ケアにおける保健師の役割、ネットワークづくりとシステム化・事業化、保健活動の評価について教授する。				
授 業 の 計 画	1 オリエンテーション 2 様々な地域診断モデルについて 3 コミュニティ・アズ・パートナーモデルについて 4 地域診断の応用 5 住民活動・組織化の実際 6 保健師が関わる地区組織活動・グループ 7 グループ活動とその支援 8 保健指導技術としての家庭訪問（１）理論 9 保健指導技術としての家庭訪問（２）実践 10 地域包括ケアにおける保健師の役割 11 ネットワークづくりとシステム化（１）理論 12 ネットワークづくりとシステム化（２）実践 13 保健活動の評価について 14 さまざまな評価方法 15 まとめ				
授 業 の 留 意 点	他の演習科目の基本となる科目である。他の演習科目と合わせて学習を進めること。 授業の進行は、他の科目の進行と合わせて上記とは順番が変わることがあり、オリエンテーションで具体的な日時を説明する。遅刻・欠席は授業の進行に支障をきたすため、体調を整えて日々の授業に臨むこと。				
学 生 に 対 す る 評 価	筆記試験 100 点で評価する。				
教 科 書 （購入必須）	公衆衛生看護学 第2版（中央法規）				
参 考 書 （購入任意）					

科 目 名	公衆衛生看護技術論演習				
担 当 教 員 名	播本 雅津子・作並 亜紀子・室矢 剛志				
学 年 配 当	3 年	単 位 数	2 単位	開 講 形 態	演習
開 講 時 期	通年	必修選択	選択	資 格 要 件	保健師：必修
実 務 経 験 及 び 授 業 内 容	保健所保健師または市町村保健師の経験を有する教員が担当する。保健師活動に必要な基本技術を活用した演習を実施する。				
学 習 到 達 目 標	・ 地域診断モデルを活用した地域の情報収集を行い、地域の特性を説明できる。 ・ 継続訪問活動を通じて、継続的な関わりの意義や必要性を説明することができる。 ・ カンファレンスを通じて、お互いの事例や学習を共有し、チームで課題解決に取り組むことの意義を説明できる。 ・ 地区組織活動の経験を通じて、住民自治組織の役割について説明することができる。				
授 業 の 概 要	保健師活動に必要な技術について演習を通して学習する。地域診断・継続的な家庭訪問、住民自治組織における住民自治活動や安否確認・防災・減災活動について学習する。				
授 業 の 計 画	1 オリエンテーション 2 演習：地域診断の実際（1）名寄市を対象に－グループ分け 3 演習：地域診断の実際（2）名寄市を対象に－テーマ別情報収集 4 演習：地域診断の実際（3）名寄市を対象に－テーマ別地区踏査（市街地） 5 演習：地域診断の実際（4）名寄市を対象に－テーマ別地区踏査（農村部） 6 演習：地域診断の実際（5）名寄市を対象に－テーマ別報告準備 7 報告会（1）名寄市の地域診断 8 演習：様々な地域の地域診断（1）市町村別情報収集 9 演習：様々な地域の地域診断（2）市町村別報告準備 10 報告会（2）様々な市町村の地域診断 11 演習：継続訪問 1 回目 12 演習：継続訪問個別指導 13 演習：継続訪問カンファレンス 1 回目 14 演習：継続訪問 2 回目 15 演習：継続訪問個別指導		16 演習：継続訪問カンファレンス 2 回目 17 演習：継続訪問 3 回目 18 演習：継続訪問個別指導 19 演習：継続訪問カンファレンス 3 回目 20 継続訪問全体カンファレンス 21 名寄市町内会連合会との懇談会 22 名寄市内単位町内会との懇談会 23 演習：地区踏査 24 演習：地区組織活動への参加・夏季行事 25 地区組織活動カンファレンス 1 回目 26 演習：地区組織活動への参加：秋季行事 27 演習：地区組織活動への参加：冬季行事 28 地区組織活動カンファレンス 2 回目 29 地区組織活動全体カンファレンス 30 まとめ		
授 業 の 留 意 点	グループ演習が中心であるため、積極的な態度で臨むこと。 授業の進行は上記とは順番が変わるため、オリエンテーションで具体的な日時を指定する。 遅刻・欠席は授業の進行に支障をきたすため、体調を整えて日々の授業に臨むこと。				
学 生 に 対 す る 評 価	レポート試験 60 点・演習記録 40 点で評価する。				
教 科 書 （ 購 入 必 須 ）	公衆衛生看護学 第 2 版（中央法規）				
参 考 書 （ 購 入 任 意 ）					

科 目 名	公衆衛生看護活動論 I				
担 当 教 員 名	播本 雅津子・作並 亜紀子・室矢 剛志				
学 年 配 当	3 年	単 位 数	2 単位	開 講 形 態	演習
開 講 時 期	通年	必修選択	選択	資 格 要 件	保健師：必修
実務経験及び授業内容	保健所保健師または市町村保健師の経験を有する教員が担当する。 公衆衛生看護活動論では、ライフステージ、健康障害の種別、活動の場など様々な切り口から地域の健康課題にアプローチするための基礎知識および手法について学ぶ。ここではライフステージ別として、成人保健・高齢者保健、健康障害の種別として難病保健について教授する。				
学習到達目標	成人期の生活の特徴と健康課題について理解する。 地域で暮らす高齢者の生活の特徴と健康課題および介護予防活動について理解する。 難病患者の生活の特徴と、健康課題・社会課題について理解する。 ライフステージ別・対象のもつ条件別の保健医療福祉制度の活用方法について説明できる。 対象に合わせた効果的な公衆衛生看護活動の展開を考察できる。				
授業の概要	成人保健、高齢者と介護予防活動、難病保健活動について、その法的根拠や活動実践を学び、保健師として具体的な活動を展開するための基本的な能力を養う。講義と演習を組み合わせながら進め、理論の習得と同時に実践技術の習得を目指す。				
授業の計画	1 成人保健活動の変遷 2 成人保健の動向と健康課題 3 健康日本 21（第 2 次） 4 データヘルス計画について 5 特定健康診査 6 特定保健指導 7 健康増進事業 8 がん対策 9 演習：個別を対象とした成人保健指導 10 演習：集団を対象とした成人保健指導 11 高齢者保健施策の変遷 12 高齢者保健活動について 13 高齢者の現状の理解（元気高齢者） 14 高齢者の現状の理解（虚弱高齢者） 15 高齢者保健に関する制度		16 介護保険制度と保健活動 17 地域包括支援センターの役割 18 介護予防活動とその制度 19 演習：高齢者保健指導（1）個人・家族 20 演習：高齢者保健指導（2）集団・組織 21 演習：地域の関係機関を知る（1） 社会福祉協議会・福祉事務所等 22 演習：地域の関係機関を知る（2） 介護保険施設・地域包括支援センター 23 難病対策の変遷 24 今日の難病対策 25 高度経済成長期の公害・薬害 26 難病患者と家族が抱える課題 27 難病患者に対する社会の取り組み 28 保健師と難病保健活動 29 演習：難病保健指導（1）疾患の理解 30 演習：難病保健指導（2）保健指導の実際		
授業の留意点	3 人の教員によるオムニバス授業である。3 本立てで進行し、上記とは順番が変わる。オリエンテーションで具体的な日時を指定する。 遅刻・欠席は授業の進行に支障をきたすため、体調を整えて日々の授業に臨むこと。				
学生に対する評価	試験 100 点により評価する。試験は成人保健、高齢者保健、難病保健の 3 つに分けて実施するため、各試験で 60 点以上を必須とする。レポート等の提出物を求める場合は評価に含める。				
教科書（購入必須）	公衆衛生看護学 第 2 版（中央法規） 対象別公衆衛生看護活動（医学書院）				
参考書（購入任意）					

科 目 名	公衆衛生看護活動論Ⅱ				
担 当 教 員 名	播本 雅津子・糸田 尚史・作並 亜紀子				
学 年 配 当	3 年	単 位 数	2 単位	開 講 形 態	演習
開 講 時 期	通年	必修選択	選択	資 格 要 件	保健師：必修
実 務 経 験 及 び 授 業 内 容	播本・作並は保健所保健師または市町村保健師の経験を有する。糸田は児童相談所・知的障害者更生相談所・身体障害者更生相談所における心理判定員・地域活動福祉司の経験を有しており、現在も心理士（非常勤）として児童家庭センターで活動している。 公衆衛生看護活動論では、ライフステージ、健康障害の種別、活動の場など様々な切り口から地域の健康課題にアプローチするための基礎知識および手法について学ぶ。ここではライフステージ別として、親子保健活動に必要な知識と技術を教授する。				
学 習 到 達 目 標	・母子保健施策の体系と保健師の役割について説明できる。 ・新生児訪問の準備・実施・報告までの一連の過程について説明できる。 ・乳幼児健康診査の準備・実施・事後処理までの一連の過程について説明できる。 ・こども虐待と保健師活動について理解する。 ・こどもの発達相談の実際について説明できる。 ・こどもの発達支援活動の実際について説明できる。 ・親子保健における多職種連携について説明できる。				
授 業 の 概 要	母子保健活動について、その法的根拠や活動実践を学び、保健師として具体的な活動を展開するための基本的な能力を養う。講義と演習を組み合わせながら進め、理論の習得と同時に実践技術の習得を目指す。				
授 業 の 計 画	1 母子保健施策の変遷 2 母子保健施策の体系 3 妊娠期の保健指導 4 乳幼児の健康観察 5 乳幼児期の予防接種 6 新生児・乳幼児訪問 7 乳児健康診査 8 幼児健康診査 9 演習：新生児訪問（１）デモンストレーション 10 演習：新生児訪問（２）家庭訪問の手順 11 演習：新生児訪問（３）新生児モデルを用いた演習 12 演習：乳幼児健康診査（１）案内・設営 13 演習：乳幼児健康診査（２）計測・問診 14 演習：乳幼児健康診査（３）結果説明・保健指導 15 母子保健包括支援		16 児童虐待の早期発見 17 児童虐待における親支援 18 近年の親子保健の課題（１）就労・生活 19 近年の親子保健の課題（２）健康課題と育児 20 母子保健活動と関係法令 21 子どもの発達支援・発達の理解 22 神経発達症とその理解 23 家族支援について 24 子どもの発達相談 25 演習：事例検討会 26 演習：発達相談の実際（１）知能発達検査の種類と特徴・検査セットの紹介 27 演習：発達相談の実際（２）保健師と心理判定員の連携実践 28 演習：発達支援の実際（１）絵本の読み聞かせ 29 演習：発達支援の実際（２）親子遊び・手遊び歌 30 まとめ		
授 業 の 留 意 点	3 人の教員によるオムニバス授業または複数で協力して教授する授業である。2 本立てで進行し、上記とは順番が変わる。オリエンテーションで具体的な日時を指定する。 遅刻・欠席は授業の進行に支障をきたすため、体調を整えて日々の授業に臨むこと。				
学 生 に 対 す る 評 価	試験 100 点で評価する。試験は教員毎に実施する。各試験で 60 点以上取ること。				
教 科 書 （ 購 入 必 須 ）	公衆衛生看護学 第 2 版（中央法規） 対象別公衆衛生看護活動（医学書院） 子育ての発達心理学（同文書院）				
参 考 書 （ 購 入 任 意 ）					

科 目 名	公衆衛生看護活動論Ⅲ				
担 当 教 員 名	播本 雅津子				
学 年 配 当	3 年	単 位 数	2 単位	開 講 形 態	演習
開 講 時 期	通年	必修選択	選択	資 格 要 件	保健師：必修
実 務 経 験 及 び 授 業 内 容	保健所保健師の経験を有する教員が担当する。公衆衛生看護活動論では、ライフステージ、健康障害の種別、活動の場など様々な切り口から地域の健康課題にアプローチするための基礎知識および手法について学ぶ。ここでは健康障害の種別ごとの公衆衛生看護活動に必要な知識と技術について教授する。				
学 習 到 達 目 標	・ 健康障害の種別ごとの健康課題と公衆衛生看護活動について理解する。 ・ 対象別の保健医療福祉制度の活用方法を理解する。 ・ 対象に合わせた効果的な公衆衛生看護活動の展開を考察できる。				
授 業 の 概 要	健康障害の種別ごとの活動として、精神保健福祉、感染症予防、健康危機管理、災害時の保健師活動について、その法的根拠や活動実践を学び、保健師としての具体的な活動を展開するための基本的な能力を養う。講義と演習を組み合わせながら進め、理論の習得と同時に実践技術の習得を目指す。				
授 業 の 計 画	1 地域精神保健活動の歴史 2 地域精神保健活動①予防と早期発見 3 地域精神保健活動②受療から回復期 4 地域における自殺予防対策について 5 ゲートキーパー養成活動 6 触法精神障がい者への支援 7 睡眠と健康 8 睡眠保健指導について 9 感染症保健の動向 10 感染症保健施策と保健師活動 11 結核の基本知識 12 結核に対する保健師活動 13 結核集団感染発生時の保健活動 14 新興感染症について 15 新型インフルエンザ対策		16 HIV/AIDS の動向 17 HIV/AIDS に対する保健師活動 18 Covid-19 感染症の動向 19 Covid-19 に対する公衆衛生活動 20 Covid-19 に対する保健師活動 21 新興感染症について 22 集団施設における感染症対策 23 腸管出血性大腸菌感染症について 24 大規模食中毒発生時の保健活動 25 健康危機管理とは 26 保健所における健康危機管理業務 27 災害時の健康危機管理 28 災害時の公衆衛生看護活動 29 災害時の健康課題とその予防 30 まとめ		
授 業 の 留 意 点	授業の順番は上記とは異なる場合もあり、オリエンテーションで具体的な日時を指定する。 遅刻・欠席は授業の進行に支障をきたすため、体調を整えて日々の授業に臨むこと。				
学 生 対 対 する 評 価	試験 100 点により評価する。レポート等の提出を求める場合は評価に含める。				
教 科 書 (購 入 必 須)	対象別公衆衛生看護活動（医学書院）				
参 考 書 (購 入 任 意)					

科 目 名	公衆衛生看護活動論Ⅳ				
担 当 教 員 名	播本 雅津子・井上 靖子・野口 直美				
学 年 配 当	4 年	単 位 数	2 単位	開 講 形 態	演習
開 講 時 期	通年	必修選択	選択	資 格 要 件	保健師：必修
実 務 経 験 及 び 授 業 内 容	担当教員はそれぞれ保健所保健師・養護教諭・産業保健師の経験を有している。公衆衛生看護活動論では、ライフステージ、健康障害の種別、活動の場など様々な切り口から地域の健康課題にアプローチするための基礎知識および手法について学ぶ。ここでは活動の場ごとの公衆衛生看護活動に必要な知識と技術について教授する。				
学 習 到 達 目 標	<ul style="list-style-type: none"> ・産業保健および学校保健の概要について理解する。 ・労働者の後口調と健康課題および産業保健師活動について理解する。 ・児童・生徒の特長と健康課題について理解する。 ・学校保健における養護教諭の活動について理解する。 ・地域の保健師と、養護教諭や産業保健師との協働について理解する。 				
授 業 の 概 要	講義と演習を組み合わせながら進める。産業保健および学校保健に関する理論の習得と同時に実践技術の習得を目指す。				
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 学校保健の概要 2 養護教諭の職務 3 学校の目的・教育職の役割 4 学校保健に関する法体系 5 学童期・思春期における発達課題と健康 6 発達障害における課題と教育支援 7 学校保健計画と保健室経営 8 疾患をもつ児童・生徒の健康管理 9 児童虐待の早期発見と学校における取り組み 10 児童・生徒の健康管理①（健康相談） 11 児童・生徒の健康管理②（健康診断） 12 感染症と学校保健 13 自治体保健師と学校保健の関わり 14 学校保健まとめ 15 産業保健の役割と意義 				
授 業 の 留 意 点	3 人の教員によるオムニバス授業である。2 本立てで進行するため順番は上記とは異なり、オリエンテーションで具体的な日時を指定する。 遅刻・欠席は授業の進行に支障をきたすため、体調を整えて日々の授業に臨むこと。				
学 生 に 対 す る 評 価	試験 100 点により評価する。試験は教員毎に実施する。各試験で 60 点以上取ること。				
教 科 書 (購 入 必 須)	公衆衛生看護活動Ⅱ 医歯薬出版株式会社				
参 考 書 (購 入 任 意)					

科 目 名	公衆衛生看護管理論				
担 当 教 員 名	播本 雅津子・作並 亜紀子・室矢 剛志				
学 年 配 当	4 年	単 位 数	2 単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	通年	必修選択	選択	資 格 要 件	保健師：必修
実務経験及び授業内容	保健所保健師または市町村保健師の経験を有する教員が担当する。公衆衛生看護管理に必要な知識について学習した上で、地域診断に基づく情報から事業計画策定までの一連の過程について総合的に学習する。				
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・保健師の人事管理・現任教育などについて理解できる。 ・健康な地域づくりを目指した保健活動計画の策定・実施・評価のプロセスについて理解する。 ・地域住民の主体性を尊重し、人々の協働による問題解決を支援するための保健師の基本姿勢を理解する。 				
授業の概要	講義を主軸に演習を取り入れながら進める。保健師教育の最終段階の科目として実習での実地体験および就業時のイメージを高めるよう工夫して授業を進める。				
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 公衆衛生看護管理とは 2 人材育成・人事管理 3 統括保健師について 4 保健福祉計画の策定について 5 総合計画・基本計画・実施計画 6 業務管理 7 保健事業の評価 8 様々な評価方法 9 統計資料の種類と活用方法 10 演習：統計資料から健康課題を抽出する① データ収集 11 演習：統計資料から健康課題を抽出する② データ分析 12 演習：統計資料から健康課題を抽出する③ 資料作成 13 演習：統計資料から健康課題を抽出する④ 健康課題の抽出 14 報告会 各地域の健康課題 15 まとめ 				
授業の留意点	3 人の教員が協力して教授する授業である。これまで公衆衛生看護学で学習した内容を復習しながら取り組むとより一層の成果が得られるため、予習復習を心掛けること。				
学生に対する評価	試験 100 点により評価する。				
教科書 (購入必須)	公衆衛生看護学 第2版 (中央法規)				
参考書 (購入任意)					

科 目 名	公衆衛生看護学実習 I				
担 当 教 員 名	播本 雅津子・作並 亜紀子・室矢 剛志				
学 年 配 当	4 年	単 位 数	2 単位	開 講 形 態	実習
開 講 時 期	通年	必修選択	選択	資 格 要 件	保健師：必修
実務経験及び授業内容	保健所保健師または市町村保健師の経験を有する教員が担当する。 公衆衛生看護学実習 I では保健師活動の基本となる個人・家族への保健指導および集団・組織等への保健指導について実習施設の指導者より対象者の紹介を受けて実施する。				
学習到達目標	個人・家族の健康課題の解決に向けて実施する家庭訪問の一連の過程を複数の事例に実施すること、および集団への健康教育を複数回実施し、その技術を習得すること、家庭訪問や健康教育は地域の健康課題の解決の方法の1つであることを理解することを目標とする。				
授業の概要	市町村で実習を行う。臨地において指導保健師の協力の下、家庭訪問および健康教育を実施する。内容は公衆衛生看護学実習 II と連動するため、この2科目の実習は継続した日程で実施する。家庭訪問は継続的な取り組みを目指し、面接と家庭訪問、健康教育と家庭訪問、継続訪問など、同じ事例に複数回関わる。健康教育は企画・実施・評価の一連の過程に取り組む。				
授業の計画	1 臨地オリエンテーション・家庭訪問事例紹介<事例1・事例2> 2 事例1 指導者同行訪問・事例2 学生ペア訪問 3 事例1 学生単独訪問・事例2 継続訪問 4 訪問カンファレンス 5 事例検討会 6 健康教育見学・参加 7 健康教育準備・デモンストレーション 8 健康教育1 実施および評価 9 健康教育2 実施および評価 10 公衆衛生看護学実習 I カンファレンス				
授業の留意点	実習は日頃の学習の成果を最大活用して学習する場です。日々の学習および実習事前学習に丁寧に取り組み、実習期間中は積極的な態度で実習に臨みましょう。				
学生に対する評価	実習要項に評価表を示す。具体的な視点についてオリエンテーションで説明する。				
教科書 (購入必須)	なし				
参考書 (購入任意)					

科 目 名	公衆衛生看護学実習Ⅱ				
担 当 教 員 名	播本 雅津子・作並 亜紀子・室矢 剛志				
学 年 配 当	4 年	単 位 数	3 単位	開 講 形 態	実習
開 講 時 期	通年	必修選択	選択	資 格 要 件	保健師：必修
実務経験及び授業内容	保健所保健師または市町村保健師の経験を有する教員が担当する。 公衆衛生看護学実習Ⅱでは保健所と市町村それぞれの活動について理解するとともに、地域診断を基盤とした公衆衛生看護管理および健康相談事業について学習する。				
学習到達目標	保健所の担う公衆衛生看護活動および保健所保健師の役割を理解する。 地域の健康問題を組織的に解決する方法を理解する。 地域保健活動における機関や職種の連携について理解する。				
授業の概要	保健所および市町村にて実習を行う。市町村での実習は公衆衛生看護学実習Ⅰと連動するためこの 2 科目の実習は継続した日程で実施する。保健所実習では公衆衛生の専門機関である保健所の機能および各専門職の役割を理解した上で保健所保健師活動の実践を学習する。市町村実習では、健康相談、地区組織活動、公衆衛生看護管理等、多様な活動について学習する。保健所実習は 7～8 人、市町村実習は 2～4 人のグループに分かれる。				
授業の計画	1 保健所の機能と役割 2 保健所で働く様々な職種の理解 3 保健所保健師の活動 4 保健所保健師活動の実践 1（家庭訪問・事例検討等） 5 保健所保健師活動の実践 2（集団指導・他機関連携等） 6 市町村保健活動の概要 7 地域診断 1（既存資料からの情報収集・地区踏査） 8 地域診断 2（関係職種および住民へのインタビュー） 9 地域診断 3（分析・健康課題の抽出） 10 地域診断 4（事業計画策定・保健計画の見直し） 11 健康相談 1（母子保健） 12 健康相談 2（成人保健） 13 健康相談 3（高齢者保健） 14 健康相談 4（地区組織活動） 15 公衆衛生看護学実習Ⅱカンファレンス				
授業の留意点	実習は日頃の学習の成果を最大活用して学習する場です。日々の学習および実習事前学習に丁寧に取り組み、実習期間中は積極的な態度で実習に臨みましょう。				
学生に対する評価	実習要項に評価表を示す。具体的な視点についてオリエンテーションで説明する。				
教科書（購入必須）	なし				
参考書（購入任意）					

